秋田県文化財調査報告書第155集

遺跡詳細分布調査報告書

1987・3

秋田県教育委員会

遺跡詳細分布調査報告書

1987・3

秋田県教育委員会

序

本県では近年交通体系の整備をはじめとする地域開発が進行しております。それに伴い、埋蔵文化財の保存が危惧されておりますが、その保護行政の基礎となるのが遺跡分布調査、遺跡範囲確認調査であります。

本報告書は、昭和61年度国庫補助事業として実施した、農免農道整備事業（比内町）の遺跡分布調査と、能代開拓建設事業（能代市）、国道バイパス建設事業（西仙北町・大館市・能代市・二ツ井町）、国道改良事業（鹿角市）、東北横断自動車道秋田線建設事業（大森町）、農免農道整備事業（比内町）の遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものです。これらの遺跡は、具体的に開発事業が計画されている区域内にあるため、埋蔵文化財保護の立場で早急に対処したいと考えております。

最後になりましたが、これらの調査にご協力いただきました関係各機関に厚く御礼を申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護についてご協力下さいますようお願い申し上げます。

昭和62年３月31日

秋田県教育委員会

教育長　斎　藤　　長

例　　言

1．本書は、昭和61年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した、遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査の報告書である。

2．本書に掲載の遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査は、秋田県教育庁文化課と秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報文は各担当者が作成したものをそのまま掲載したもので、編集は秋田県埋蔵文化財センターが行った。なお、味噌内地区農免農道整備事業に係る横沢遺跡については、比内町教育委員会が行った範囲確認調査（担当者は大館市田村栄氏、比内町出嶋雄蔵氏）の結果を参考にした。

3．昭和59年度から実施している市町村単位の遺跡分布調査は、本年度、河辺郡と由利郡内の12カ町で行われた。その成果は後日遺跡分布地図として刊行の予定であるため、本書には収録しなかった。

4．範囲確認調査のうち、笹原台遺跡、小沢遺跡、大巻野遺跡は調査の結果遺構その他を確認できず、本報告から除外した。

5．報告に使用した地図は、建設省国土地理院発行の５万分の１地形図、東北建設局能代工事事務所、同湯沢工事事務所、東北農政局能代開拓建設事業所、日本道路公団仙台建設局横手工事事務所、同秋田工事事務所、秋田県土木部北秋田土木事務所、同鹿角土木事務所作成の1000分の１の地図、及び秋田県農政部北秋田農林事務所作成の500分の１の地図である。

目　　次

序
例　言

第１章　はじめに……1

第２章　昭和61年度遺跡分布調査・範囲確認調査実施要項……1
　第１節　遺跡分布調査……1
　第２節　遺跡範囲確認調査……3

第３章　調査の記録……5
　第１節　遺跡分布調査……5
　　味噌内地区農免農道整備事業……5
　第２節　遺跡範囲確認調査……10
　　1　味噌内地区農免農道整備事業……10
　　横沢遺跡……10
　　2　能代開拓建設事業……18
　　此掛沢Ⅲ遺跡、船沢遺跡……18
　　3　一般国道13号刈和野バイパス改築事業……28
　　寄騎館遺跡……28
　　4　国道103号線バイパス建設事業……34
　　上ノ山Ⅱ遺跡、上ノ山Ⅰ遺跡、餌釣遺跡、山王岱遺跡……34
　　5　国道282号線改良工事……52
　　玉内遺跡……52
　　6　一般国道７号改築工事（八竜能代道路）……58
　　十二林遺跡、石丁遺跡……58
　　7　東北横断自動車道秋田線建設事業……74
　　下田遺跡……74
　　8　一般国道７号改築工事（二ツ井バイパス）……82
　　竜毛沢館跡……82

第１章　はじめに

国庫補助を得て実施した昭和61年度の遺跡詳細分布調査は、味噌内地区農免農道整備事業に係る遺跡分布調査と、同事業及び能代開拓建設事業、一般国道13号刈和野バイパス改築事業、国道103号線バイパス建設事業、国道282号線改良工事、一般国道７号改築工事（八竜能代道路・二ツ井バイパス）、東北横断自動車道秋田線建設事業に係る16遺跡の範囲確認調査である。これらの調査は既に策定してある調査実施要項に基づいて秋田県教育庁文化課、秋田県埋蔵文化財センター職員等が昭和61年４月から同年12月にかけて実施したものである。

第２章　昭和61年度遺跡分布･範囲確認調査実施要項

第１節　遺跡分布調査

１．調査の目的

開発予定地域内を踏査して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

２．調査の方法

(1)　計画地域の範囲内で遺物の表面採集及び試掘調査を実施して、遺跡の所在を確認する。

(2)　調査の期間はおおむね１～５日間とし、地元の人々の遺跡についての情報を活用する。

(3)　確認された遺跡を地図へ記入するなどの記録は、必ず現場で行う。

(4)　遺跡の現況・遠景は必ず写真撮影をする。同時に遺跡に至る経路・目標を詳しく記録し、はじめての人でも迷わず現場に到着できるようにする。

(5)　散布している遺物と立地を手がかりに、できるだけ遺跡の時代や性格を判定するよう努力する。

(6)　使用する地図は５万分の１地形図と、開発部局で作成した図面とする。

３．調査主体者

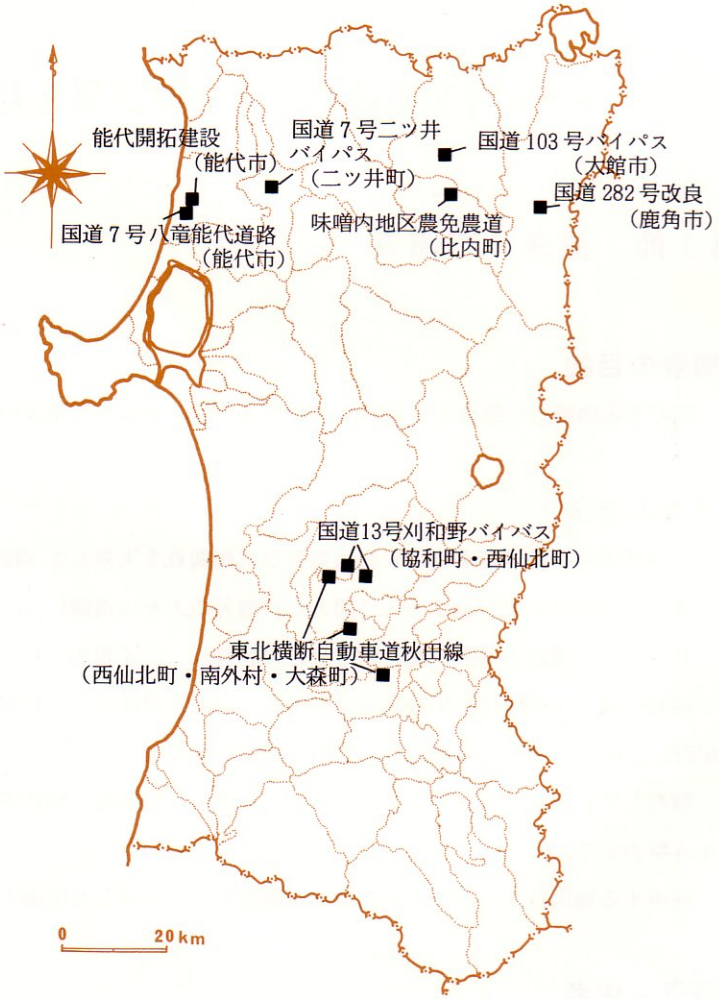
秋田県教育委員会

4．調査担当者

秋田県教育庁文化課　　学芸主事　　冨樫泰時

5．事業名・調査対象地域・確認遺跡

事業名及び調査対象地域	調査期間及び期日	確　認　遺　跡
味噌内地区農免農道整備事業 （比内町）	昭和61年５月15日～16日	横沢遺跡、袖沢遺跡、大岱遺跡



第１図　遺跡分布・遺跡範囲確認調査地位置図

第２節　遺跡範囲確認調査

１．調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の範囲確認調査を実施して埋蔵文化財の保護と保存を図る。

２．調査方法

(1)　遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために、当該地域で遺物の表面採集及び小規模の発掘調査（遺構確認面までの掘り下げ）を行う。

(2)　調査の期間をおおむね２～12日間とし、その期間内にできるかぎり面的に発掘調査を広げて遺構の確認に努める。

(3)　確認された遺構・遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などの記録は現場で行う。その際遺跡の全景と発掘調査状況、確認された遺構・遺物などは必ず写真撮影する。

(4)　使用する地形図は開発部局で作成した一番大きな縮尺図面とし、新規に測量などは行わない。

(5)　遺跡の立地条件などに即した適切な調査をする。

３．調査主体者

秋田県教育委員会

４．調査担当者

秋田県教育庁文化課	学芸主事	冨樫泰時
秋田県埋蔵文化財センター	学芸主事	熊谷太郎
	学芸主事	谷地　薫
	文化財主事	柴田陽一郎
	文化財主事	児玉　準
	文化財主事	小林　克
秋田県立博物館	学芸主任	庄内昭男

5．事業名・調査対象遺跡・調査期間ほか

事　業　名	遺跡名(遺跡No.)及び所在地	調　査　期　間	摘　　要
味噌内地区農免農道整備事業	横沢遺跡（比内町）	昭和61年４月６日、９日 昭和61年10月29日	比内町教委調査
能代開拓建設事業	此掛沢Ⅲ遺跡（能代市）	昭和61年５月６日 ～５月31日	
	船沢遺跡（能代市）		
一般国道13号刈和野バイパス改築事業	笹原台遺跡（西仙北町）	昭和61年５月12日 ～５月15日、11月18日	調査区内は遺跡と認定できず
	寄騎館遺跡（協和町）		
国道103号線バイパス建設事業	上ノ山Ⅱ遺跡（大館市）（No.１）	昭和61年６月９日 ～６月18日	
	上ノ山Ⅰ遺跡（大館市）（No.２）		
	餌釣遺跡（大館市）（No.４）		
	山王岱遺跡（大館市）（No.５）		
国道282号線改良工事	玉内遺跡（鹿角市）	昭和61年８月４日 ～８月７日	
一般国道７号改築工事（八竜能代道路）	十二林遺跡（能代市）	昭和61年９月24日 ～10月１日	
	石丁遺跡（能代市）		
東北横断自動車道秋田線建設事業	下田遺跡（大森町）（No.10）	昭和61年11月４日 ～11月29日	
	小沢遺跡（南外村）（No.22）		調査区内は遺跡と認定できず
	大巻野遺跡（西仙北町）（No.27）		調査区内は遺跡と認定できず
一般国道７号改築工事(二ツ井バイパス)	竜毛沢館跡（二ツ井町）	昭和61年12月８日 ～12月13日	

第３章　調査の記録

第１節　遺跡分布調査

味噌内地区農免農道整備事業

１．調査期日　　昭和61年５月15日～16日

２．調査担当者　　冨樫泰時

３．確認遺跡

味噌内地区農免農道整備事業は、北秋田郡比内町の中心地扇田の南東約２㎞にある味噌内集落から宿内を通って、国道285号線の近くまで達する総延長1.6㎞の農道整備事業である。現在の道路は幅２ｍ前後と狭く、カーブの多い農道である。それを道路幅８ｍに拡幅し、一部の付け替えを行うものである。

この計画路線の周辺に大岱・横沢・袖沢の３遺跡が存在し、これらの遺跡が工事区内にかかるか否か、また新たに遺跡が存在しないか否かを確認する調査を実施したのである。調査の結果、新しい遺跡は確認されず前記した３遺跡の一部が工事にかかることがわかった。

遺跡は米代川の支流犀川の右岸に発達した標高75ｍ前後の台地の端にある。３遺跡は、北から大岱・横沢・袖沢の順に小さな沢を隔てて存在している。

(1)大岱遺跡　　北秋田郡比内町扇田字大岱19他

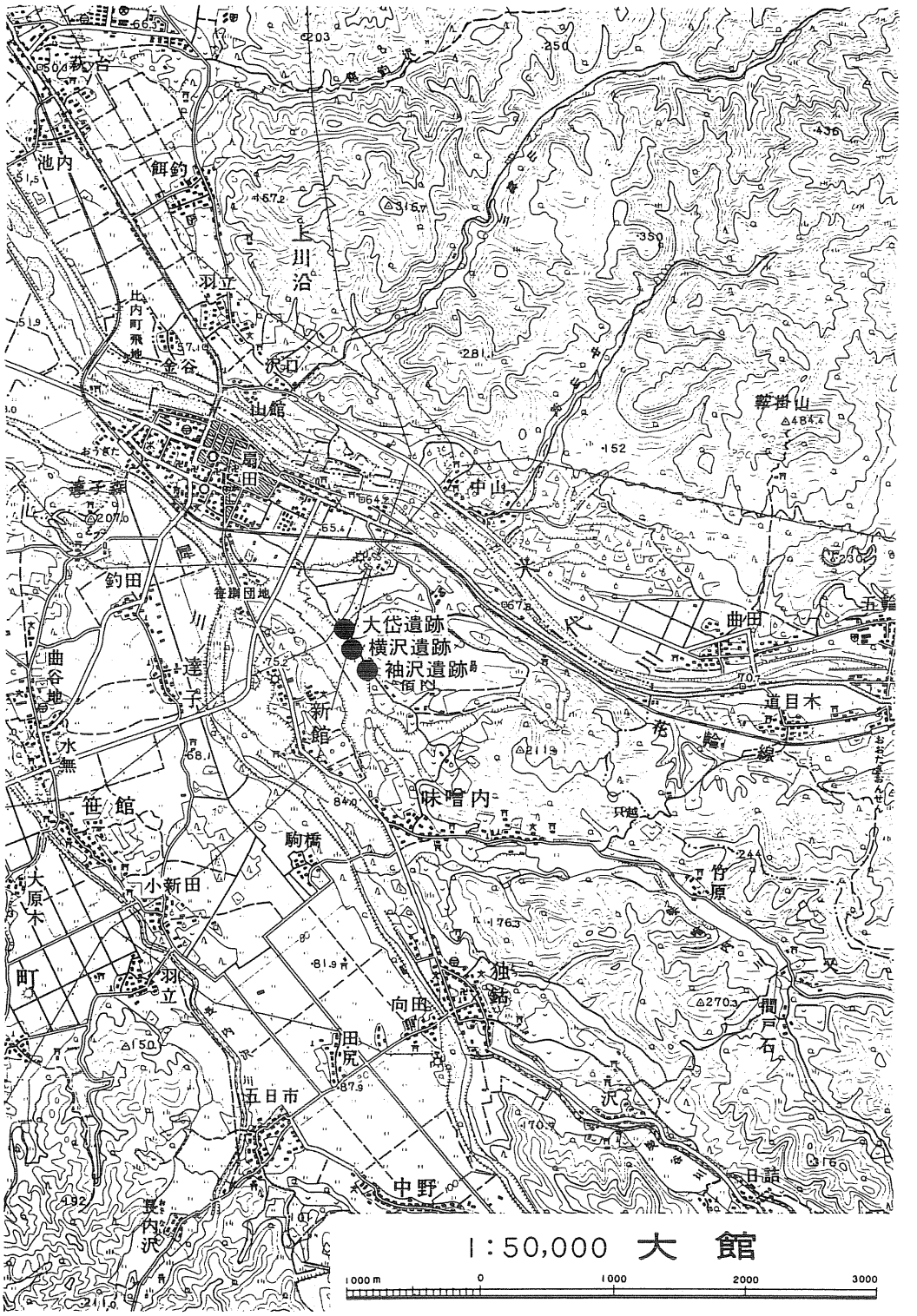
縄文時代前期・平安時代の遺跡である。遺跡は西側にのびた台地の南西端にある。現況は畑地で、現在の農道は遺跡の西端傾斜地を切って走っている。縄文時代前期の土器片・平安時代の土師器片が少量表面採集できた。一部試掘調査を実施したが遺構は確認されず、立合い調査を実施する程度でよいと考えられる。

(2)横沢遺跡　　北秋田郡比内町扇田字横沢６他

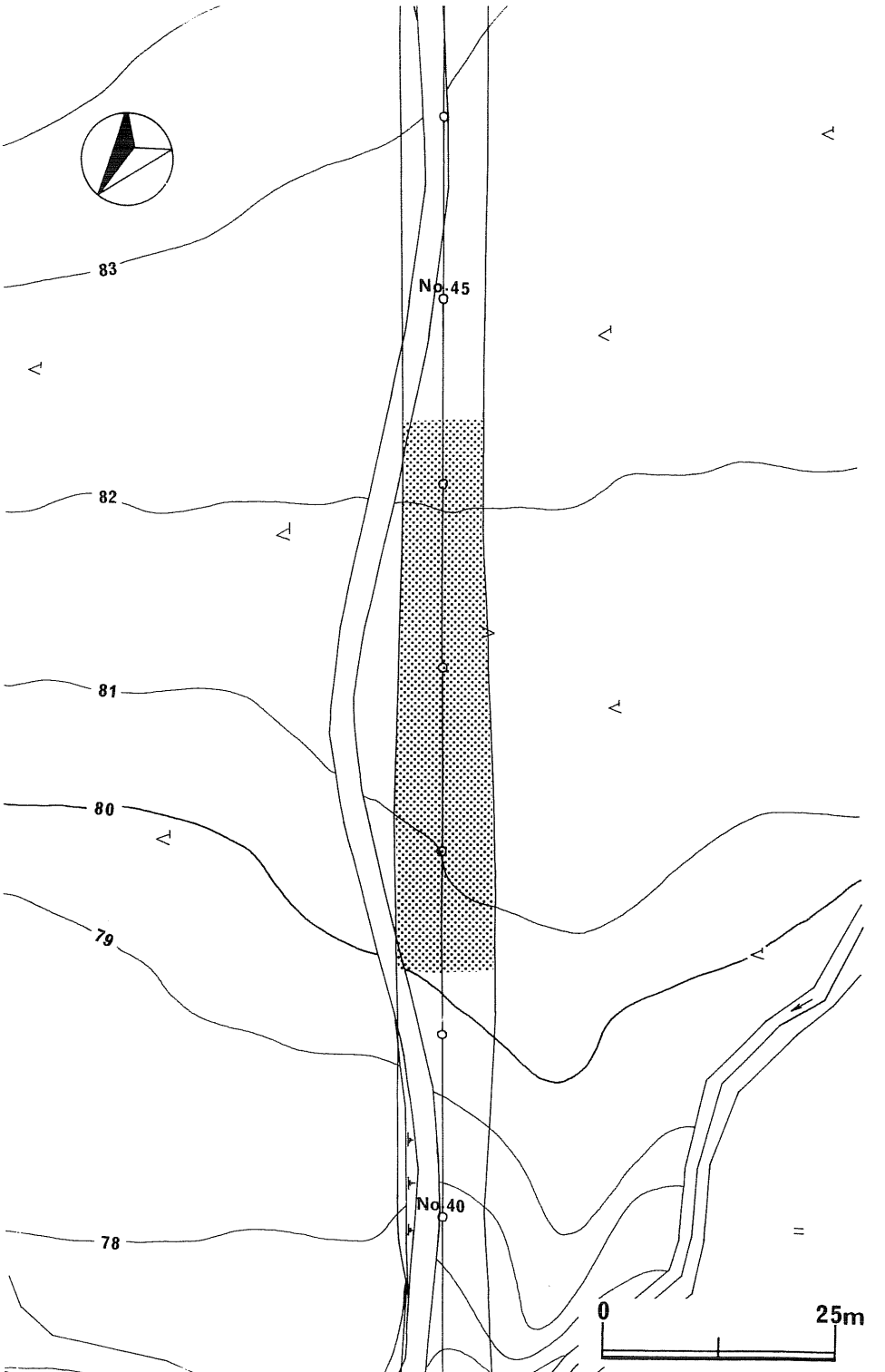
縄文時代の土器片・石器、平安時代の土師器、それに竪穴遺構などが確認されている。詳細は10頁参照。(3)の袖沢遺跡とともに事前発掘調査が必要である。

(3)袖沢遺跡　　北秋田郡比内町扇田字袖沢44他

縄文時代晩期・平安時代の遺跡である。遺跡は広く、北端は平安時代、その南側は晩期の遺跡である。破壊される部分は北端で、竪穴遺構が確認されている。



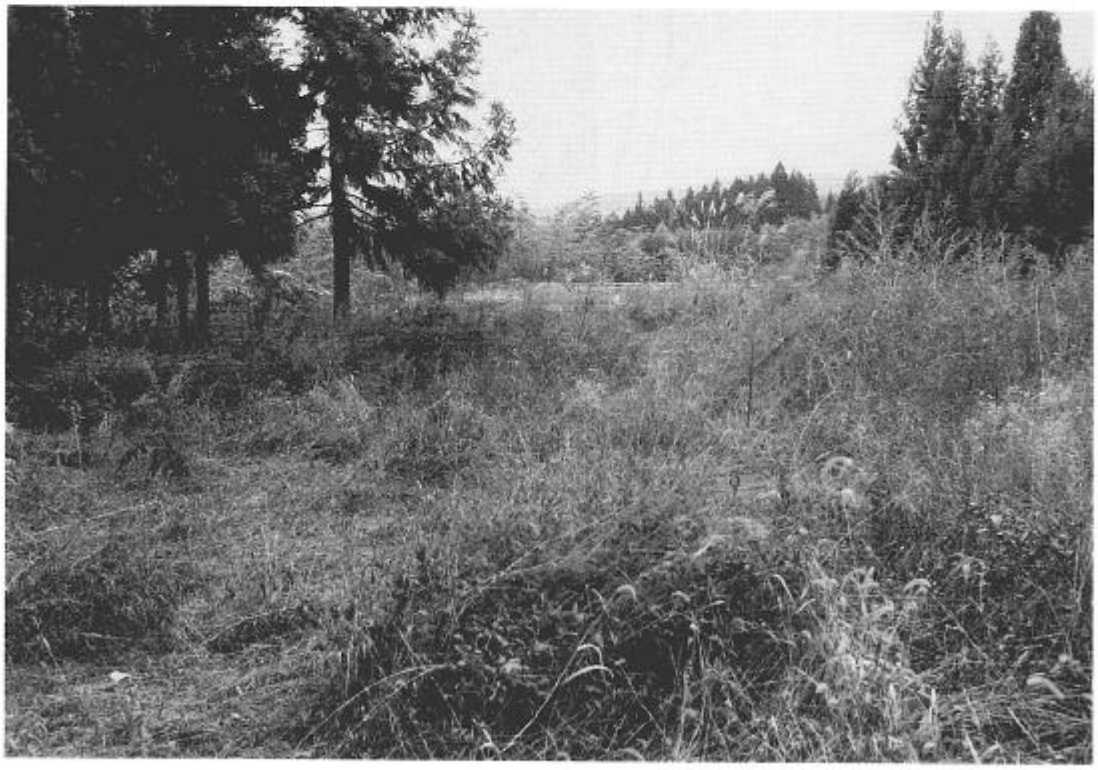
第2図　味噌内地区農免農道整備事業内遺跡位置図



第３図　袖沢遺跡工事区域内遺跡範囲推定図

図版1

袖沢遺跡　遠景（南西▶北東）



袖沢遺跡　現況（南▶北）

図版2

横沢遺跡　遠景（北▶南）

横沢遺跡　現況（西▶東）

第２節　遺跡範囲確認調査

1.　味噌内地区農免農道整備事業

横沢（よこさわ）遺跡

1.　**所在地**　北秋田郡比内町扇田字横沢６他

2.　**工事区域内遺跡面積**　1,390㎡

3.　**調査期間**　昭和61年10月29日

（昭和61年４月６日、９日、比内町教育委員会調査）

4.　**調査担当者**　冨樫泰時、谷地薫

5.　**遺跡の立地と現況**

遺跡は国鉄花輪線扇田駅から南東に約2.5㎞、南東から北西に向かって張り出す標高75～80ｍの台地上にある。台地の西側は米代川の支流犀川によって開析された低地に面しており、比高差約５ｍの急な崖になっている。現況は、畑地及び山林（雑木林）である。

6.　**範囲・時代・性格**

台地全域については遺物の散布状態を把握し、道路取付部分についてはトレンチを入れて、遺物の包蔵状態及び遺構の確認を行った。各トレンチの状況は次のとおりである。

トレンチ―１：　深さ約60㎝の広範囲な落ち込みを確認。

トレンチ―２：　深さ約40㎝の溝状の落ち込みを確認。

トレンチ―３：　深さ約40㎝の溝状の落ち込みを確認。トレンチ―２における溝状遺構と関係がありそうである。

トレンチ―４：　深さ約25㎝の方形になりそうな落ち込みを確認。

トレンチ―６：　遺構は確認されず。

トレンチ―７：　耕作が火山灰層にまで及び撹乱されている。

トレンチ―８：　地形的に凹地になっている部分である。深さ約107㎝以上の円形になりそうな落ち込みを確認。

トレンチ―９：　遺構は確認されず。

トレンチ―10：　周囲は造成された形跡があり火山灰の露出がめだつ。遺構は確認されず。

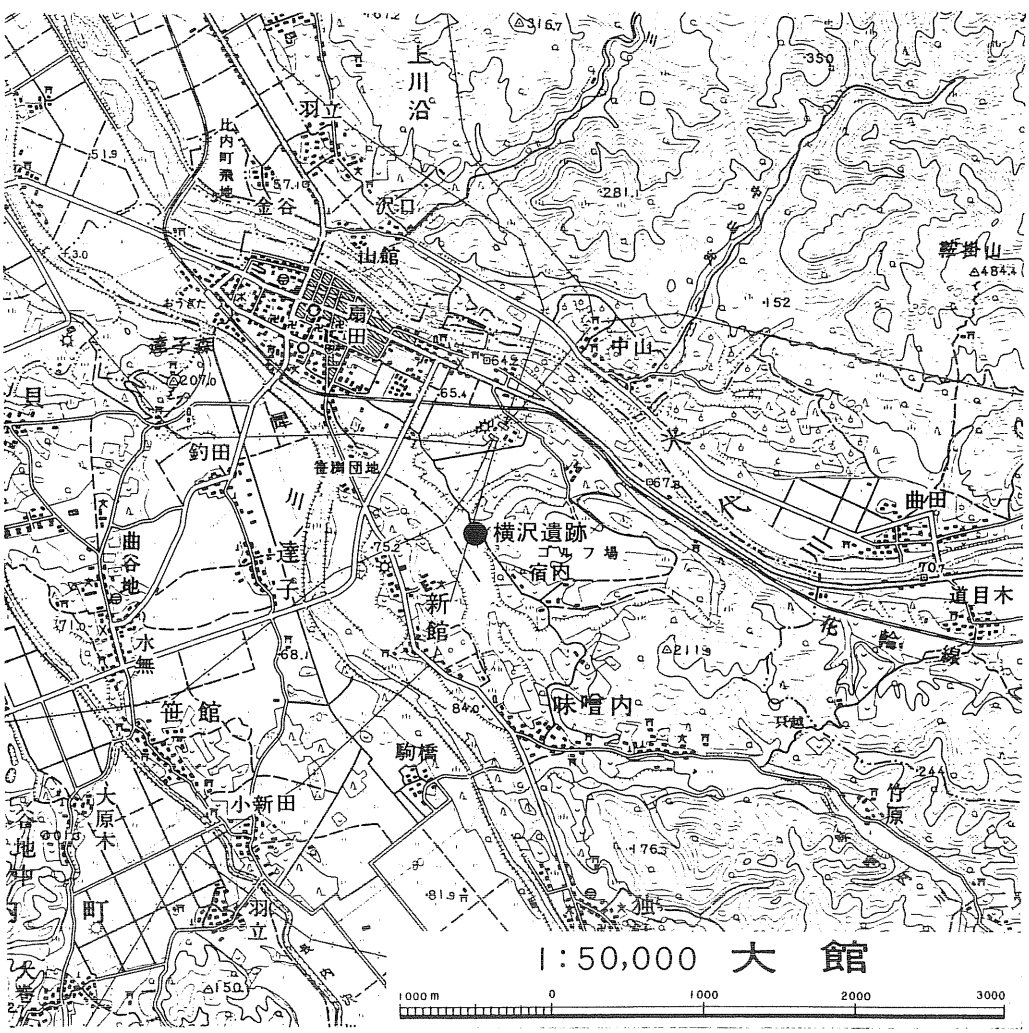
表面採集した遺物は土師器の細片が大部分で、そのほかに、縄文土器片（体部）、石箆、

剥片石器があるが、その量はきわめて少ない。散布は、台地全域に及んでいるが、やや西側に多いようである。

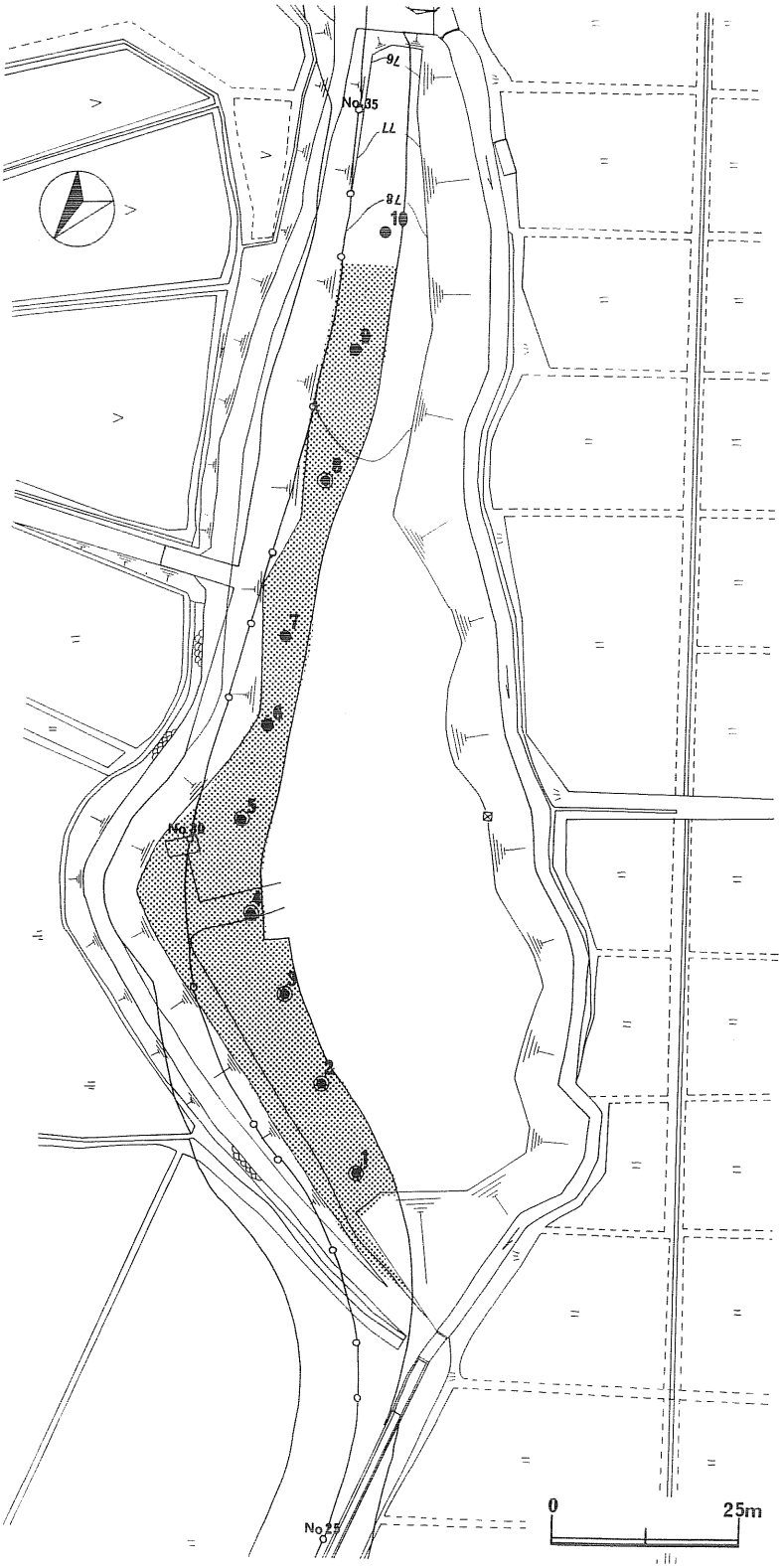
以上のことから本遺跡は6基以上の土坑や溝等の遺構を伴う、平安時代及び縄文時代の複合遺跡であることがわかった。

7. 土層

表土は黒褐色土で10～20cmと薄い。過去に表土が移動された可能性があり、採集された遺物がきわめて少なかったのも、それが原因であることも考えられる。



第4図　横沢遺跡位置図



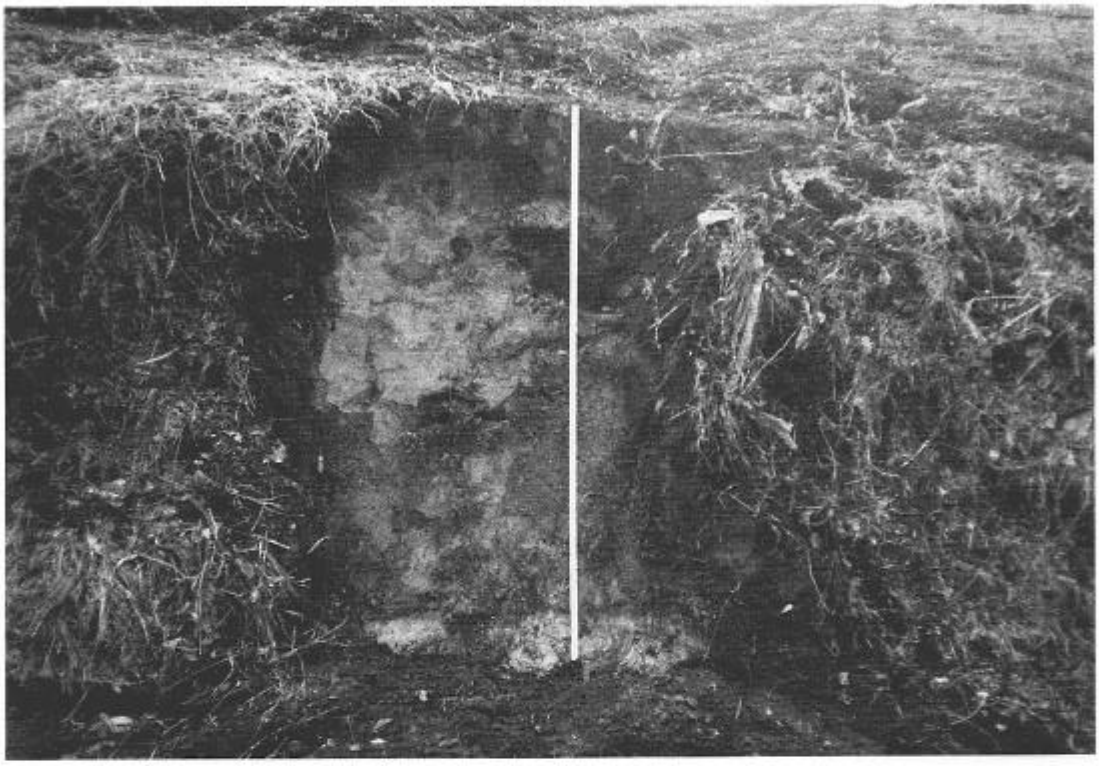
第５図　横沢遺跡工事区域内遺跡範囲図
（◉印遺物または遺構検出地点）

図版3

横沢遺跡　近景（西▶東）

横沢遺跡　現況（東▶西）

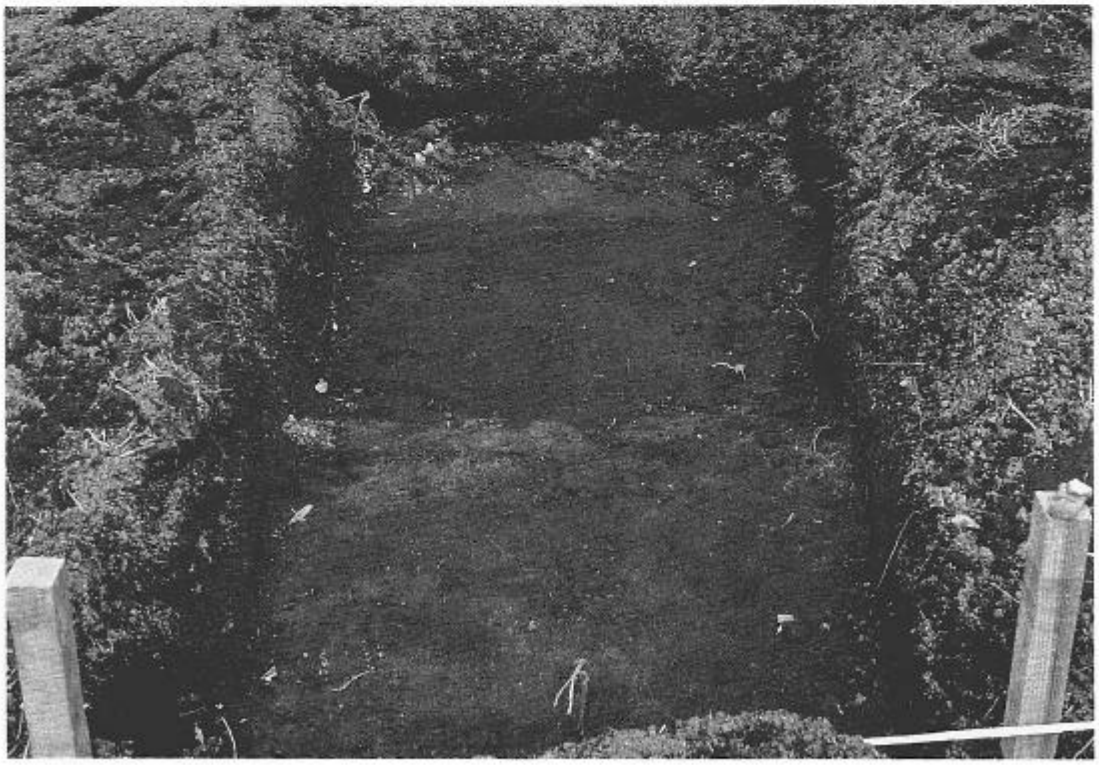
図版4



横沢遺跡　土層

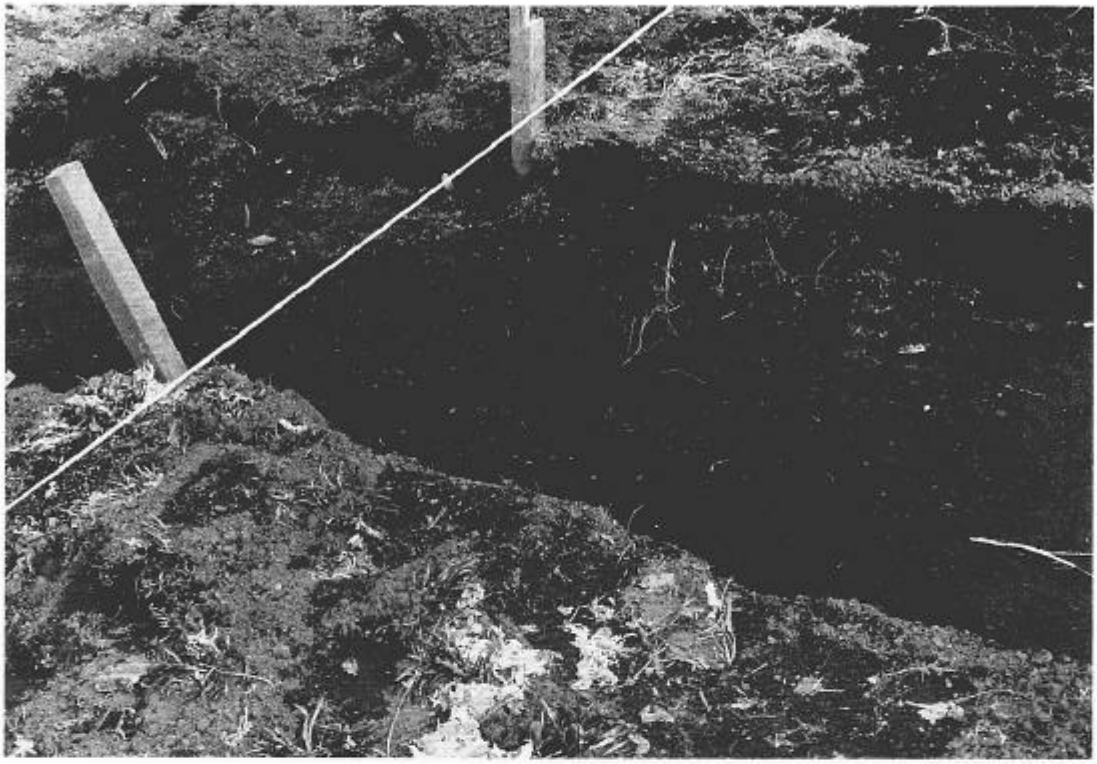
横沢遺跡　遺構検出状況（No.1トレンチ）

横沢遺跡　遺構検出状況（No. 2 トレンチ）



横沢遺跡　遺構検出状況（No. 3 トレンチ）

図版6

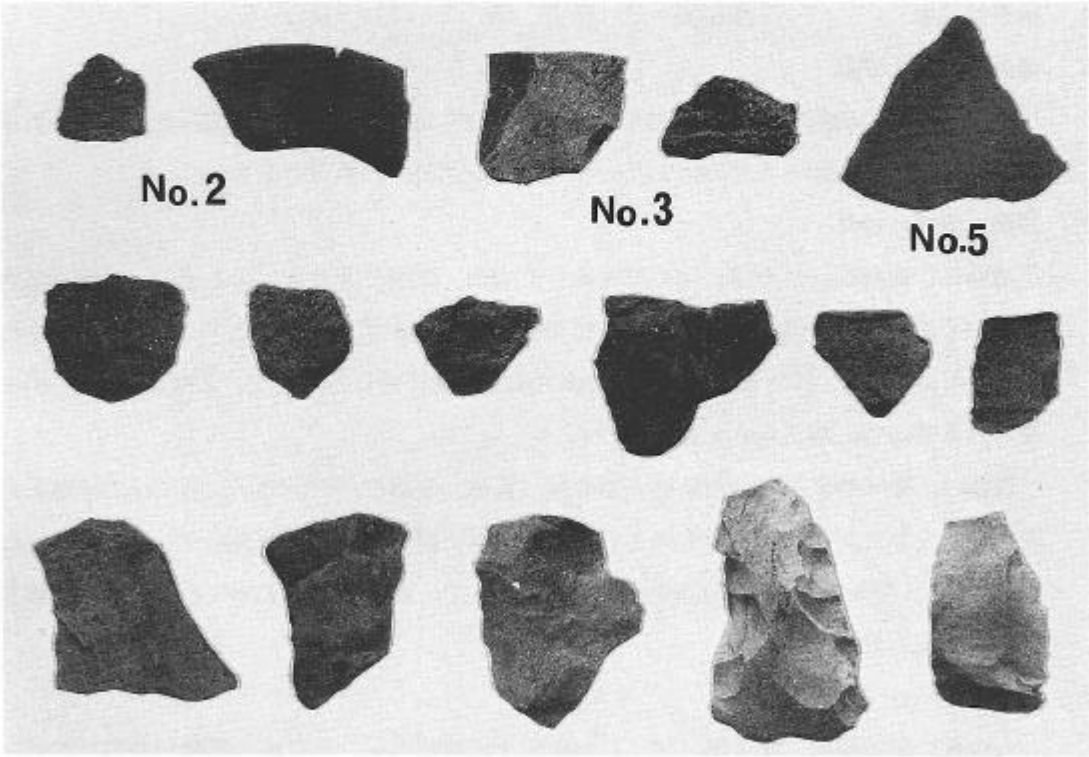


横沢遺跡　遺構検出状況（No.5トレンチ）

横沢遺跡　遺構検出状況（No.8トレンチ）

図版7

横沢遺跡　作業状況



横沢遺跡　出土遺物（No.2、3、5トレンチ及び表採）

2. 能代開拓建設事業

此掛沢Ⅲ遺跡、船沢遺跡は国鉄奥羽本線東能代駅から南西に約3.5kmの、能代市浅内に所在する。東経140度1分、北緯40度9分の位置である。米代川河口までは北西方向へ約6.5km、日本海の汀線までは西へ約4.0kmの距離がある。両遺跡は米代川左岸の同一台地上にあって隣接し、地形はほぼ平坦で、標高は50～51mである。この台地は成合台地と呼ばれ、東の鵜川川低地と西の浅内海岸低地に挟まれている。

両遺跡と西の浅内集落との間の同一台地上には、此掛沢Ⅰ・Ⅱ遺跡、上の山Ⅱ遺跡があり、能代開拓建設事業に先立ち、昭和58・60年度に部分的ながら発掘調査が行われた。なお、今回の遺跡範囲確認調査対象地域内の試掘面積は延べ405㎡である。

此掛沢Ⅲ遺跡（このかけざわ）

1. **所在地**　能代市浅内字此掛沢5－4他
2. **工事区域内遺跡面積**　20,960㎡
3. **調査期間**　昭和61年5月6日～5月31日
4. **調査担当者**　柴田陽一郎、児玉　準
5. **遺跡の立地と現況**

遺跡は台地の縁辺部に位置し、遺跡地内は平坦であるが、南西部は開析された深い谷が入り込み、比高差20mほどの急斜面となる。現況は松林と原野である。

6. **範囲・時代・性格**

遺構は、南西端、北西端、中央部南寄り、南端、東端で溝5条が第Ⅱ層上面にて確認された。その規模は、南西端のものが、幅60cm、深さ40cmで、南から北へのびる。中央部南寄りのものは、幅1.30mと広く、深さ35cmで南から北にのびる。また、東端のものは、幅・深さとも30cmで、南東から北西にのびる。

遺物は、縄文時代前期の深鉢形土器の他、石槍、磨石などの石器や、径3cmの黒曜石の原石が出土した。平安時代のものとして、両端が折損している砥石が出土した。幅4.5cm、厚さ1.0cm、現存部の長さ8.0cmである。したがって、本遺跡は縄文時代と平安時代の複合遺跡と考えられる。

7. **土層**

中央部の平坦面は、第Ⅰ層（表土）が黒色土で層厚15cm、第Ⅱ層（遺物包含層）が黒褐色土で層厚20cm、第Ⅲ層（漸移層）の暗褐色土は10cmで地山となる。南西部の斜面寄りの

地層は地山までの深さが100cmほどの場所もある。

船沢（ふなざわ）遺跡

1. **所在地**　能代市浅内字船沢73—113他
2. **工事区域内遺跡面積**　16,400㎡
3. **調査期間**　昭和61年5月6日～5月31日
4. **調査担当者**　柴田陽一郎、児玉　準
5. **遺跡の立地と現況**

遺跡は台地の縁辺部に位置する。遺跡地内は南東から北西にかけて緩やかな斜面で、北西の縁辺部付近はやや急である。北、北東、南西部には開析された谷が入り込み、比高差23m前後の急斜面となる。現況は松林と原野である。

6. **範囲・時代・性格**

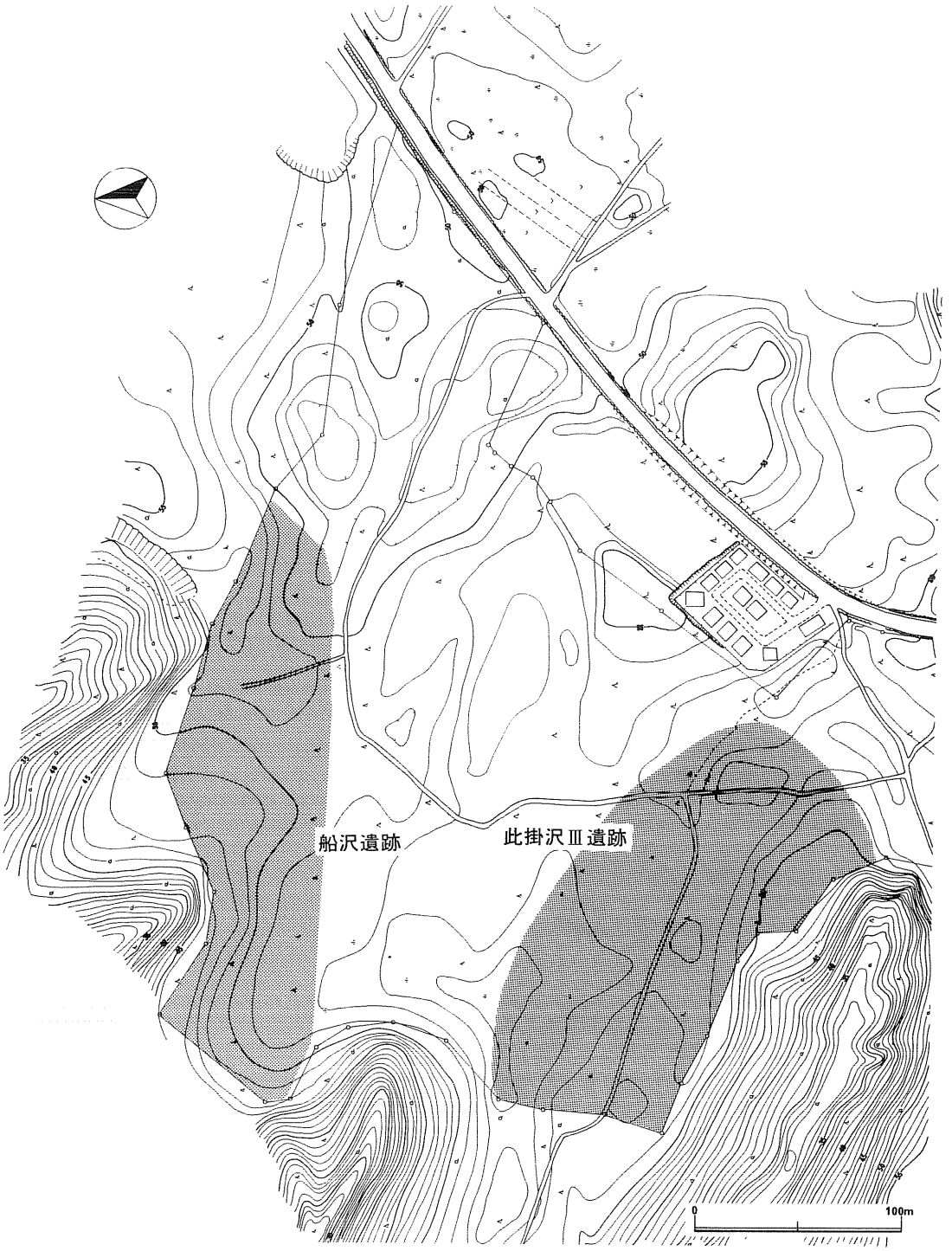
遺構は北端、中央部北端寄り、北西端で焼土遺構3基が第Ⅱ層上面にて確認された。その規模は中央部北端寄りのものが径40cm、厚さ20cmである。北西端のものは径25cm、厚さ7cmと薄い。この場所と、北端の焼土遺構から、平安時代の土師器甕が出土した。

遺物は土師器の他に縄文時代後期の深鉢形土器も出土している。したがって本遺跡は縄文時代と平安時代の複合遺跡と考えられる。

7. **土層**

中央部の平坦面は、第Ⅰ層（表土）が暗褐色土で層厚20cm、第Ⅱ層（上部が遺物包含層）が褐色土で層厚20cmほどで地山となる。北東の縁辺部付近では第Ⅰ層が暗褐色砂質土となり、層厚は20～100cmで、場所によってばらつきがある。

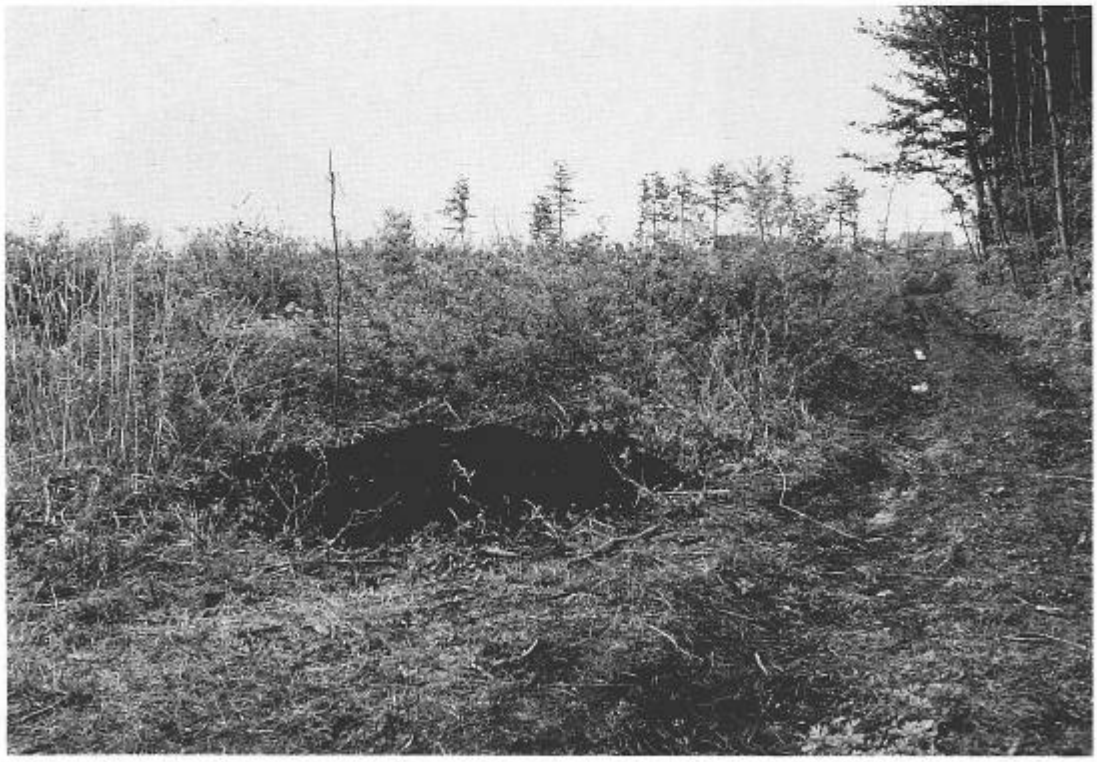
第6図　能代開拓建設事業内遺跡位置図



第７図　此掛沢Ⅲ遺跡・船沢遺跡工事区域内遺跡範囲図

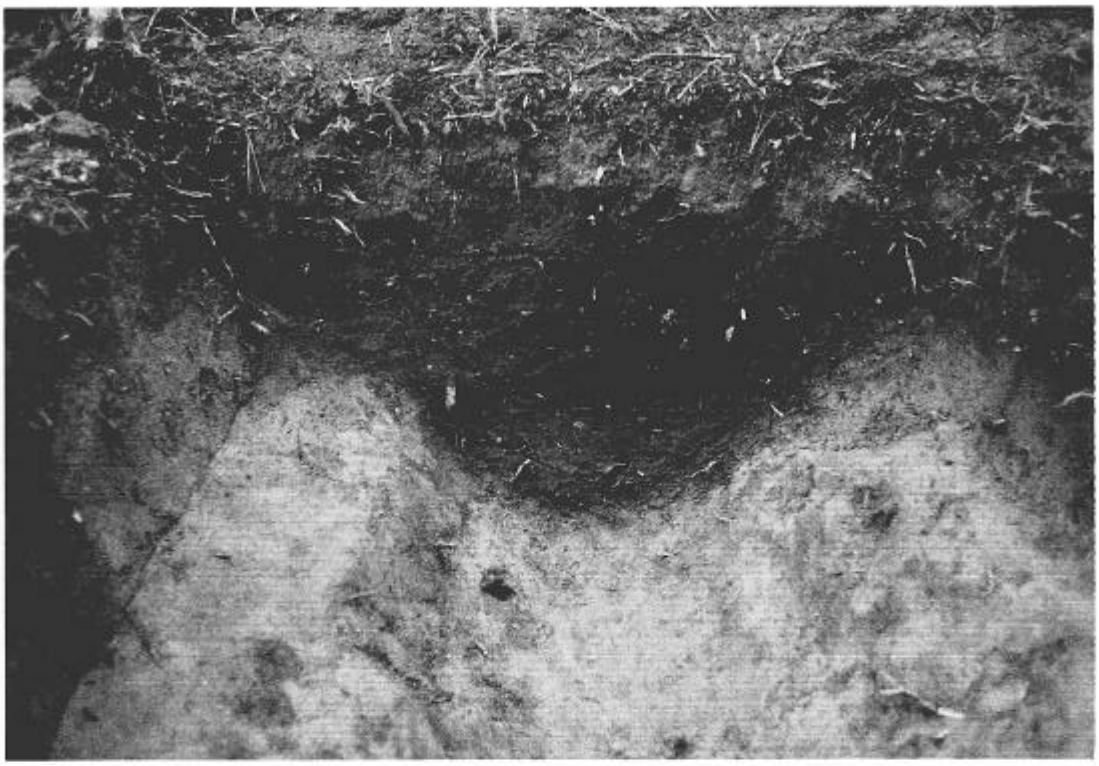
図版8

此掛沢Ⅲ遺跡　現況（東▶西）

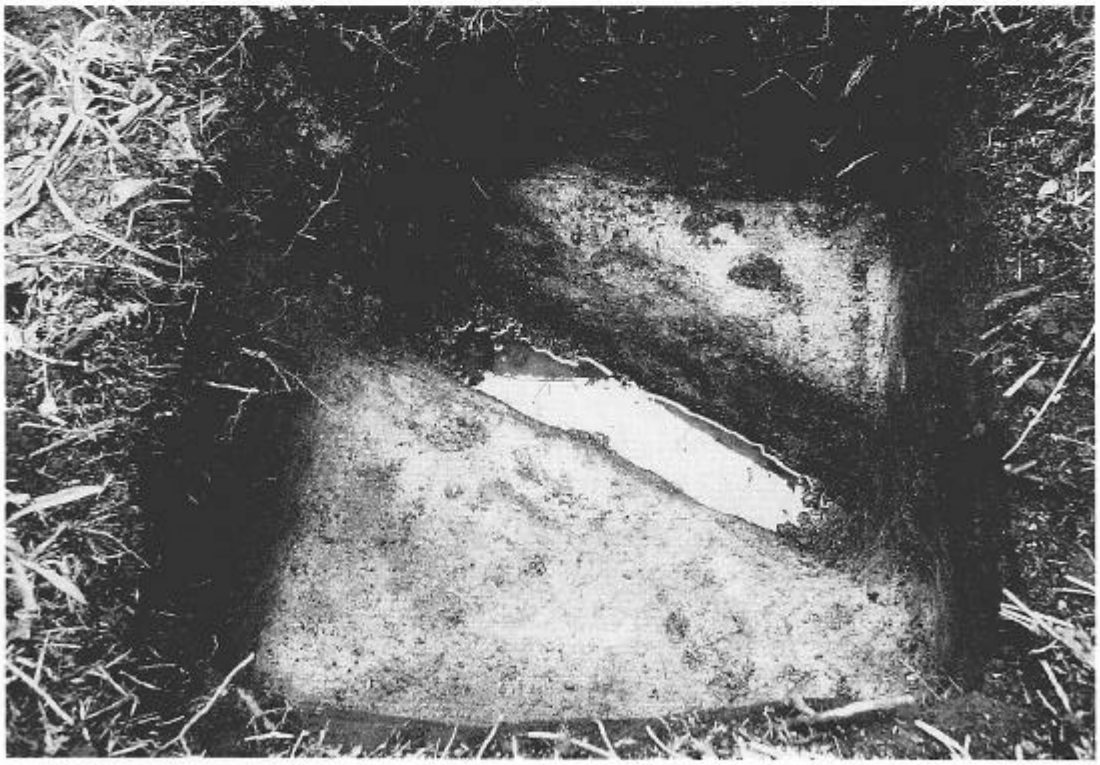


此掛沢Ⅲ遺跡　現況（東▶西）

図版9



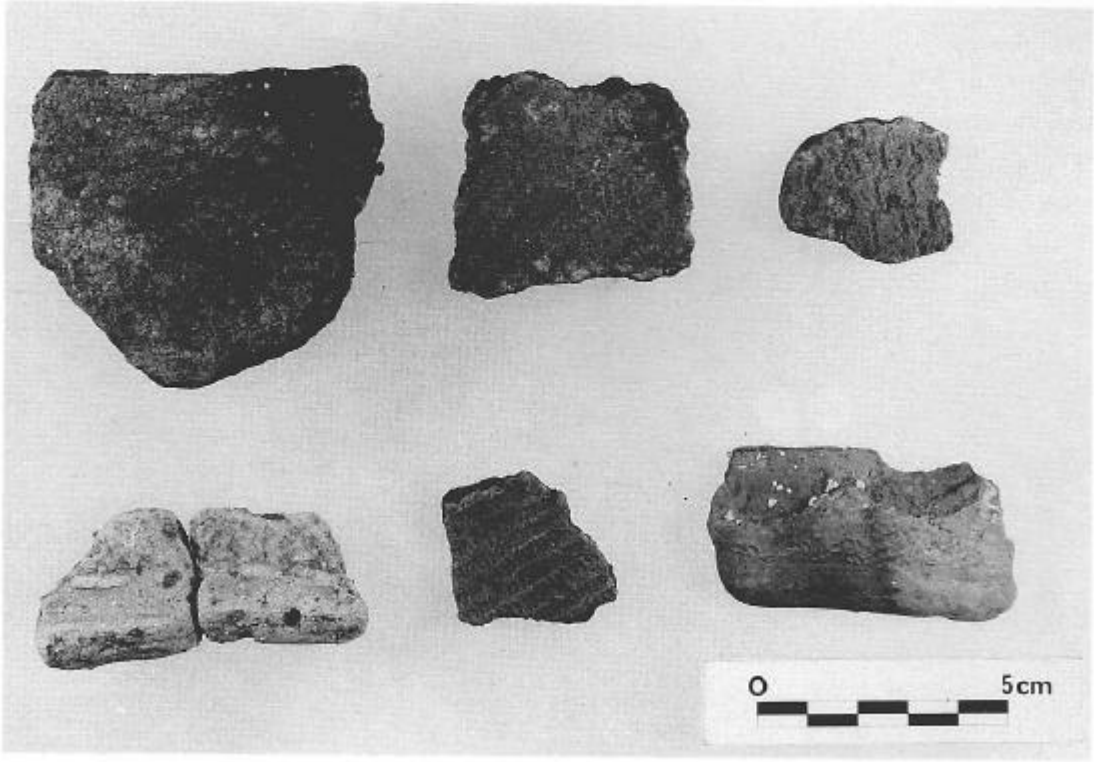
此掛沢Ⅲ遺跡　溝跡土層



此掛沢Ⅲ遺跡　溝跡完掘状況

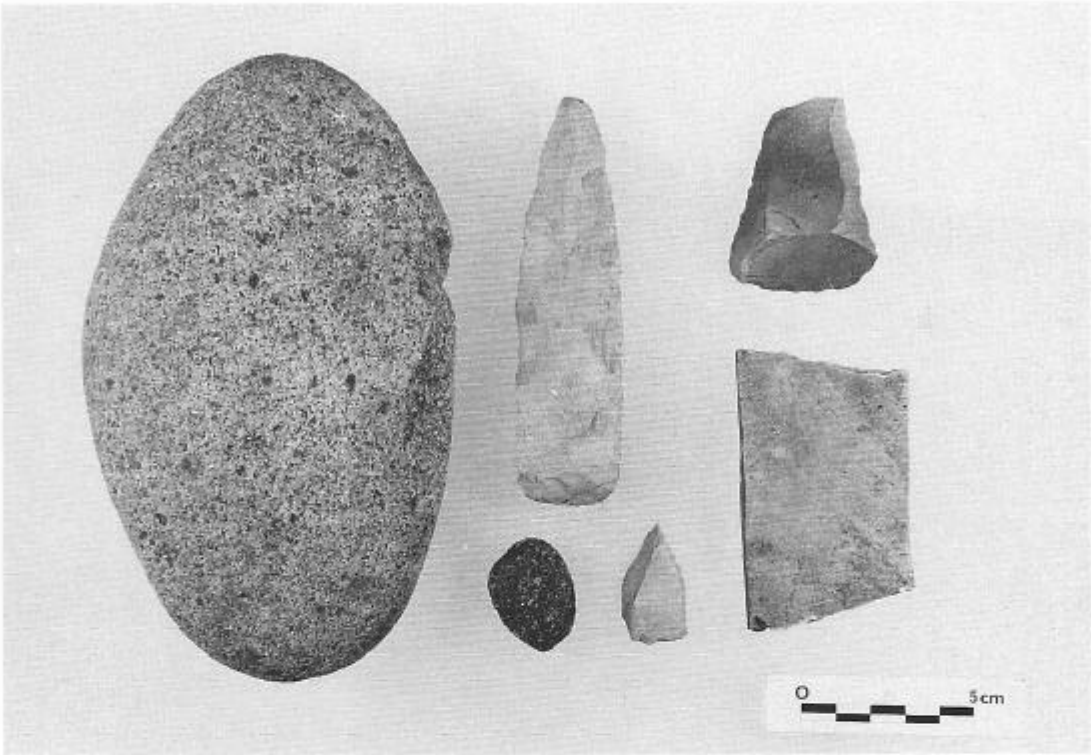
図版10

此掛沢Ⅲ遺跡　土層



此掛沢Ⅲ遺跡　出土遺物（土器）

図版11



此掛沢Ⅲ遺跡　出土遺物（石器）

船沢遺跡　現況（南▶北）

図版12

船沢遺跡　現況（東▶西）

船沢遺跡　土層（▽印が焼土）

図版13

船沢遺跡　土層（▽が焼土）

船沢遺跡　出土遺物

3.　一般国道13号刈和野バイパス改築事業

寄騎館遺跡（よりきだて）

1. **所在地**　仙北郡協和町峰吉川字芦沢通29他
2. **工事区域内遺跡面積**　550㎡
3. **調査期間**　昭和60年５月12日～５月15日、11月18日
4. **範囲確認調査発掘面積**　82㎡
5. **調査担当者**　児玉　準
6. **遺跡の立地と現況**

遺跡は協和町と西仙北町の境界付近にあり、北方の山地から連続して延びる標高30ｍ、幅70ｍほどの小さな舌状台地にある。台地の東側に沿って住宅が並び、西側には谷状の水田をはさんで標高30～50ｍの山地がある。現況は畑地で、付近に墓地があり、鎌倉時代の板碑が１基現存する。台地下の南側低地に中世の寄騎館がある。

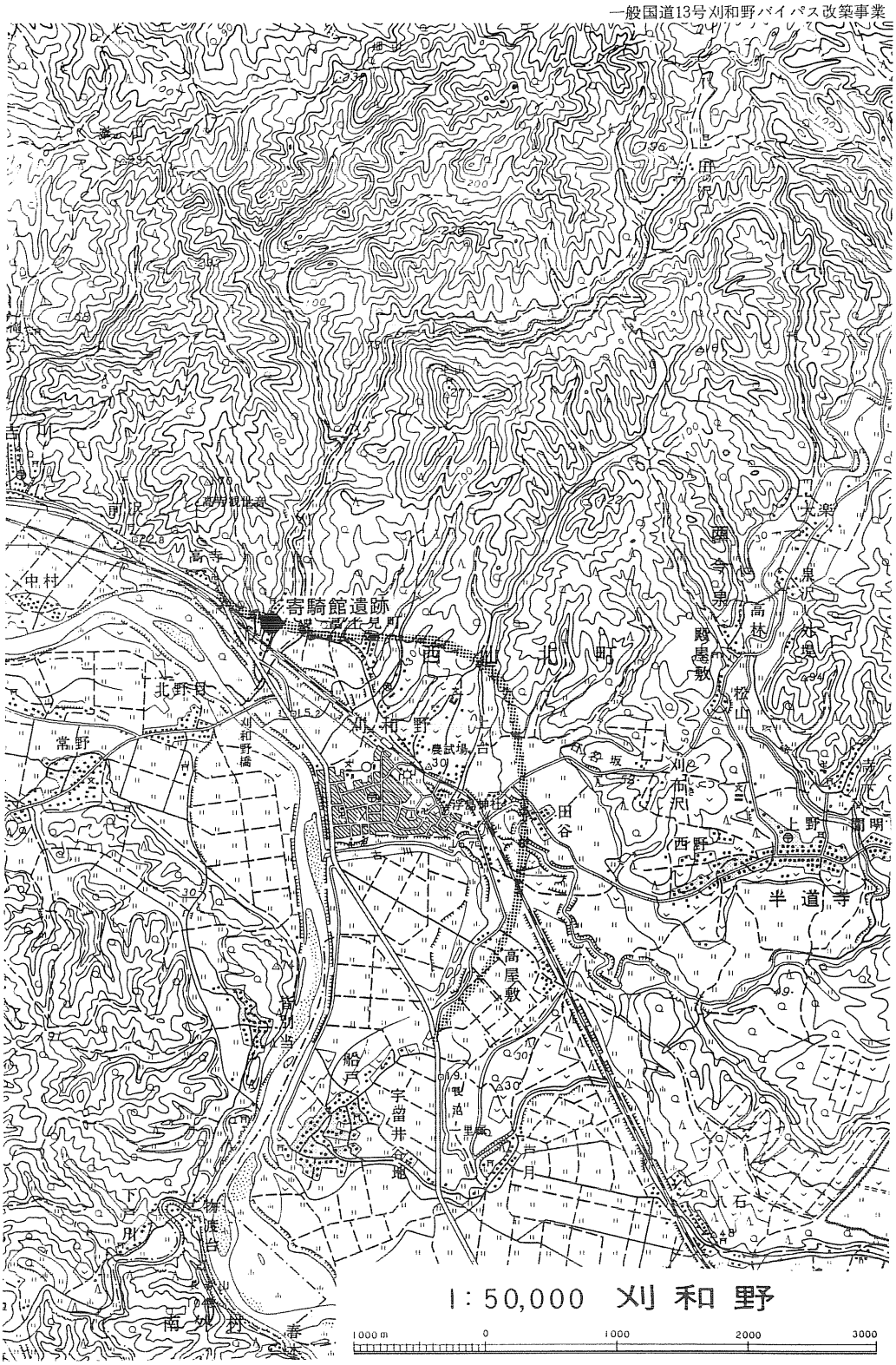
7. **範囲・時代・性格**

台地上のバイパス建設予定地内に幅１ｍのトレンチを３本入れ、遺構、遺物の検出、土層状態の観察にあたった。Ａトレンチ内の東寄り地山面で径４～５ｍの円形竪穴住居跡と考えられる遺構を確認した。付近からは大木８ａ、８ｂ、９式土器、磨製石斧、磨石、石錘などの遺物が出土した。Ｂトレンチでは東端から西へ９ｍの地点の地山面に住居跡の炉ないしは焼土遺構と考えられる焼土を検出し、付近には土器片も見られたが、斜面には遺構、遺物は存在しなかった。Ｃトレンチでは遺構は検出されなかったが、平坦面と斜面の上部で縄文土器と凹石が出土した。斜面中央部から下部にかけては遺物は全く出土しなかった。

以上のことから、調査が必要な範囲は台地上の平坦部550㎡で、縄文時代中期中葉ごろの遺跡が存在するものと考えられる。また、範囲外であるが、台地南端部から、中世陶器が表面採集されており、この時代の遺構、遺物の存在も推定される。

8. **土層**

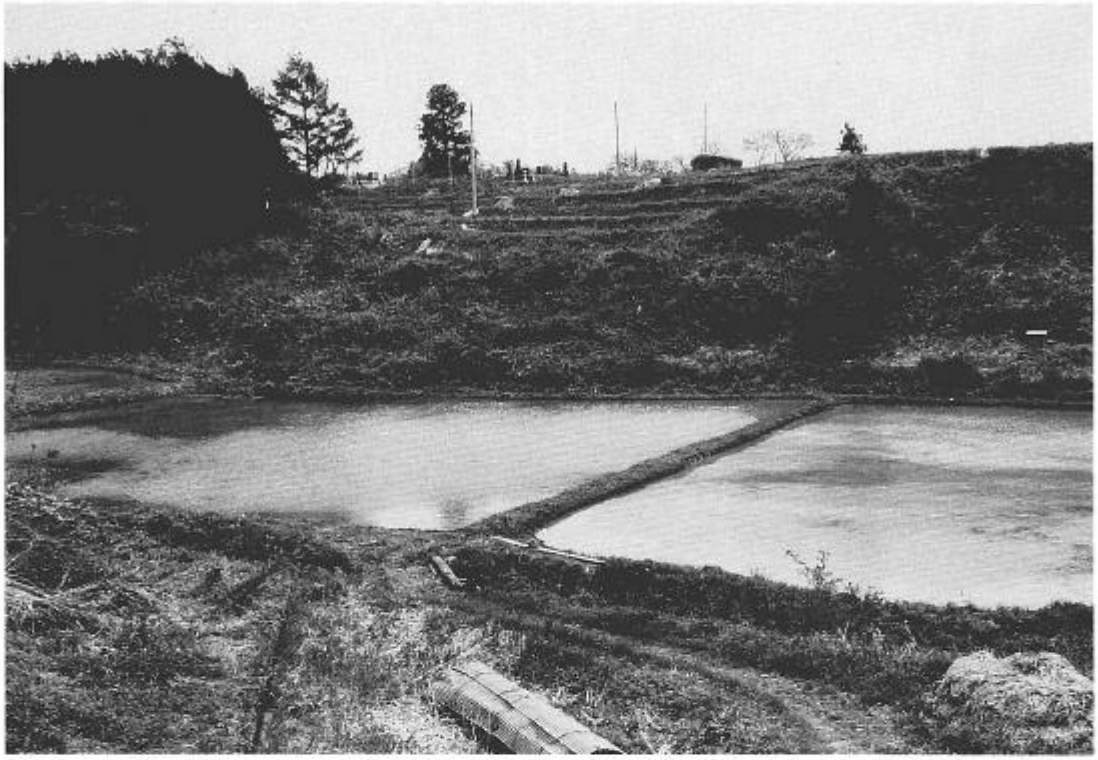
平坦部は、各トレンチとも20㎝ほどの層厚で、黒褐色の耕作土のみである。斜面は段々畑となっているため、地点によって層厚は異なり、最厚部で120㎝の箇所があるが、平均すれば50～70㎝の耕作土及び黒色土が堆積する。



第８図　一般国道13号刈和野バイパス改築事業内遺跡位置図

第９図　寄騎館遺跡工事区域内遺跡範囲図

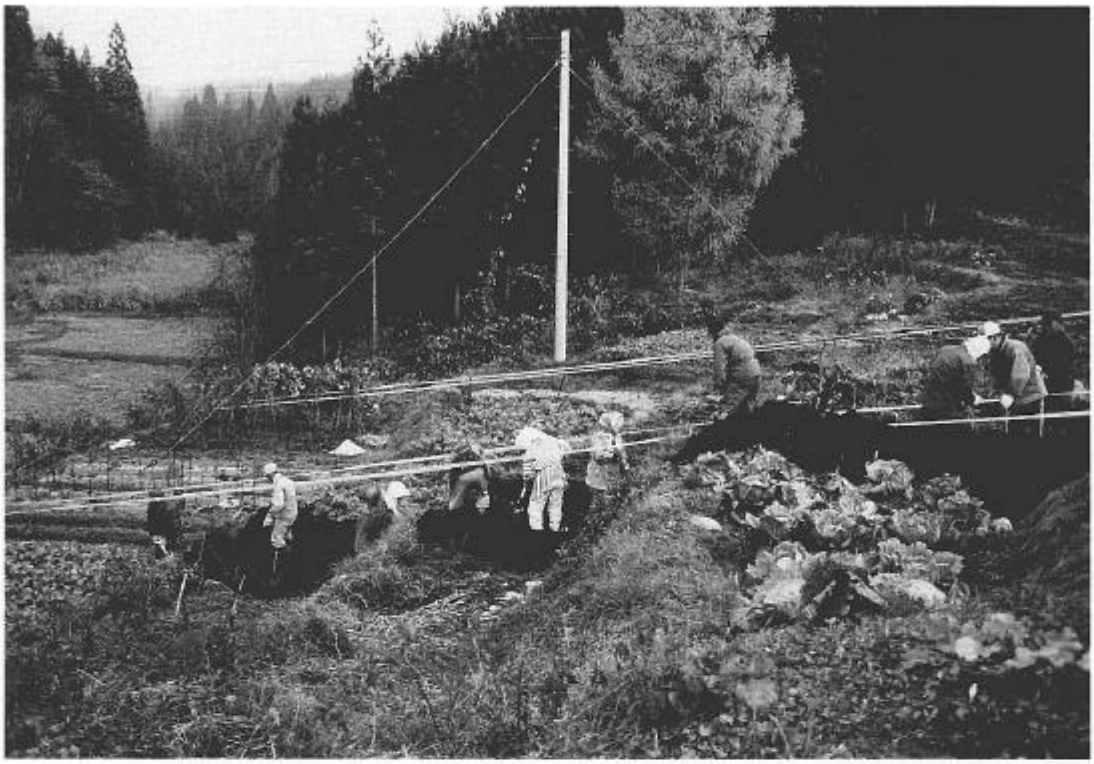
図版14



寄騎館遺跡　遠景（西▶東）

寄騎館遺跡　近景（南▶北）

図版15

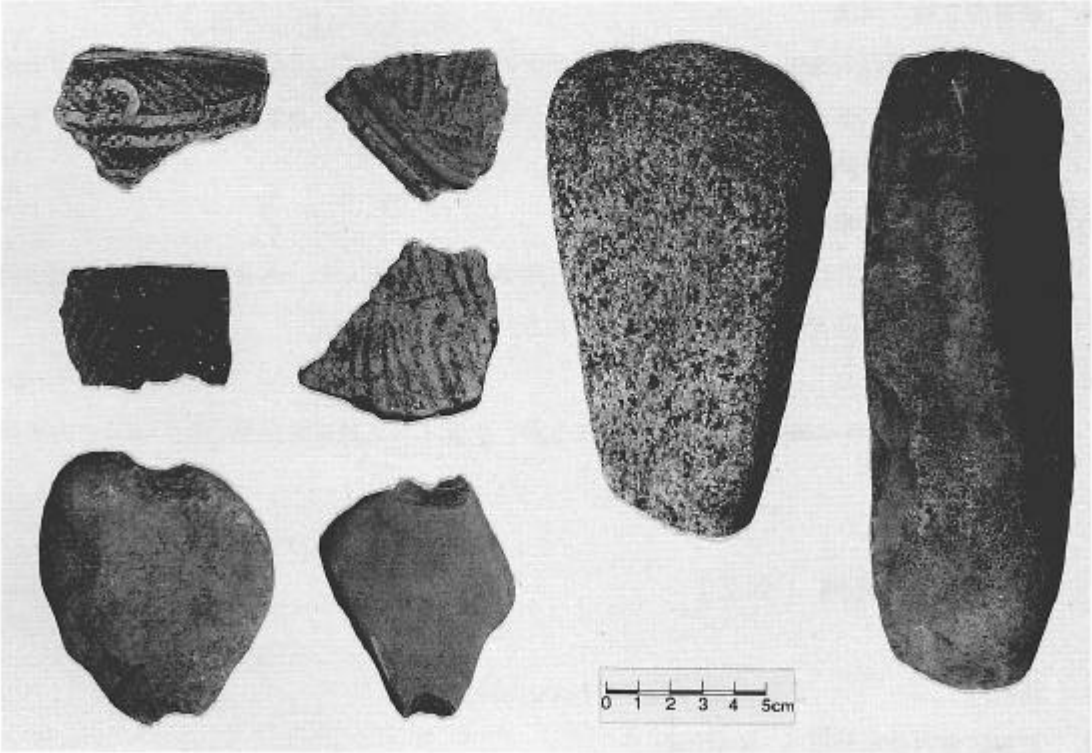


寄騎館遺跡　作業状況

寄騎館遺跡　Bトレンチの土層

図版16

寄騎館遺跡　Aトレンチ内竪穴住居跡検出状況



寄騎館遺跡　出土遺物

4. 国道103号線バイパス建設事業

国道103号線バイパスは、大館市街地の南東にある山館から、市街地西側にある片山までの全長7,677ｍの道路である。この予定線は山館から萩野台までは東側の山地から連なる台地上を通り、萩野台より北西部では市街地を避けて沖積地を通って片山の台地上に通ずるものである。この路線のうち山館から萩野台に至る間は、標高70～90cmの段丘縁辺部で、昭和60年度に行われた分布調査によって７カ所の遺跡が存在することが判明している。今回はこのうち４カ所の遺跡の範囲確認調査を実施した。

上ノ山Ⅱ遺跡（No.１）

1. **所在地**　大館市山館字上ノ山15他
2. **工事区域内遺跡面積**　420㎡
3. **調査期間**　昭和61年６月14日
4. **範囲確認調査発掘面積**　50㎡
5. **調査担当者**　柴田陽一郎、児玉　準
6. **遺跡の立地と現況**

遺跡は台地の末端部にあり、標高75ｍほどの緩斜面である。北側は緩斜面、西及び南側は急斜面で、斜面には杉が植えられている。遺跡地は畑地で、北側には地形図にはほとんど現れない細い沢が２本東西に入っている。

7. **範囲・時代・性格**

遺構は検出されなかったが、縄文時代晩期の土器が出土した。調査地点東側の畑地は周知の遺跡であるので、その一部と考えられる。

8. **土　層**

褐色土（表土）が20cmほどで地山となるが、ナガイモを植えた畑地のみ80cmほどの層厚である。

上ノ山Ⅰ遺跡（No.２）

1. **所在地**　大館市山館字上ノ山56―１他
2. **工事区域内遺跡面積**　3,810㎡
3. **調査期間**　昭和61年６月16～18日

4. **範囲確認調査発掘面積**　72㎡

5. **調査担当者**　柴田陽一郎、児玉　準

6. **遺跡の立地と現況**

遺跡は東西に延びる台地の末端部にあり、この台地を南北に横切る形でバイパスが計画されている。調査地点は標高77～85ｍで、南半分の平坦面と、それより一段高い北半分の緩斜面とに分かれる。ほぼ全面が草地である。

7. **範囲・時代・性格**

縄文時代前期の土器、石器、弥生時代の土器が出土した他、時代不明の円形を呈する土坑が一基検出された。センター杭に沿って設定したトレンチ内は地山まで150cmの深さの落ち込み部分があり、何らかの遺構の存在が考えられる。本遺跡は周知の遺跡である上ノ山Ⅰ遺跡の一部であるが、バイパス建設予定地の西側、南側及び北側の一部は土取り工事によって破壊を受けており、竪穴住居跡とフラスコ状ピットの断面が北西部法面に現れている。

8. **土　層**

土層の深さは地点によって大きく異なる。北半部の一段高い地点では褐色土が20～30cm堆積するのみであるが、センター杭に沿うラインではNo.14杭の北側で、第Ⅰ層褐色土（表土）が厚さ30cm、第Ⅱ層黒色土が厚さ15cm、第Ⅲ層黄色浮石混入黒褐色土が厚さ30cmで堆積し、No.14杭南側では地山まで150cm、No.13杭南側では第Ⅰ層25cm、第Ⅱ層30cm、第Ⅲ層60cmとなる。それぞれ、第Ⅱ、Ⅲ層が遺物包含層である。

餌釣（えづり）遺跡（No.４）

1. **所在地**　大館市餌釣字館27他

2. **工事区域内遺跡面積**　2,290㎡

3. **調査期間**　昭和61年６月12～13日

4. **範囲確認調査発掘面積**　195㎡

5. **調査担当者**　柴田陽一郎、児玉　準

6. **遺跡の立地と現況**

遺跡は東西に延びる台地の中央部にあり、標高70ｍほどの平坦面であるが、南北両面は急斜面である。アカシアなどの山林で、伐採済みの杉の根も多い。

7. **範囲・時代・性格**

遺構は検出されなかったが縄文時代中期の土器、石器、平安時代の土師器、須恵器が出

土した。

8. 土　層

調査区南半部では第Ⅰ層褐色土（表土）が厚さ20～30cm、第Ⅱ層黒色土が10～20cmで地山となる。北半部には第Ⅰ層褐色土が20～30cm堆積するが第Ⅱ層は見られない。

山王岱（さんのうたい）遺跡（No. 5）

1. 所在地　大館市餌釣字山王岱３他
2. 工事区域内遺跡面積　2,880㎡
3. 調査期間　昭和61年６月９日～11日
4. 範囲確認調査発掘面積　252㎡
5. 調査担当者　柴田陽一郎、児玉　準
6. 遺跡の立地と現況

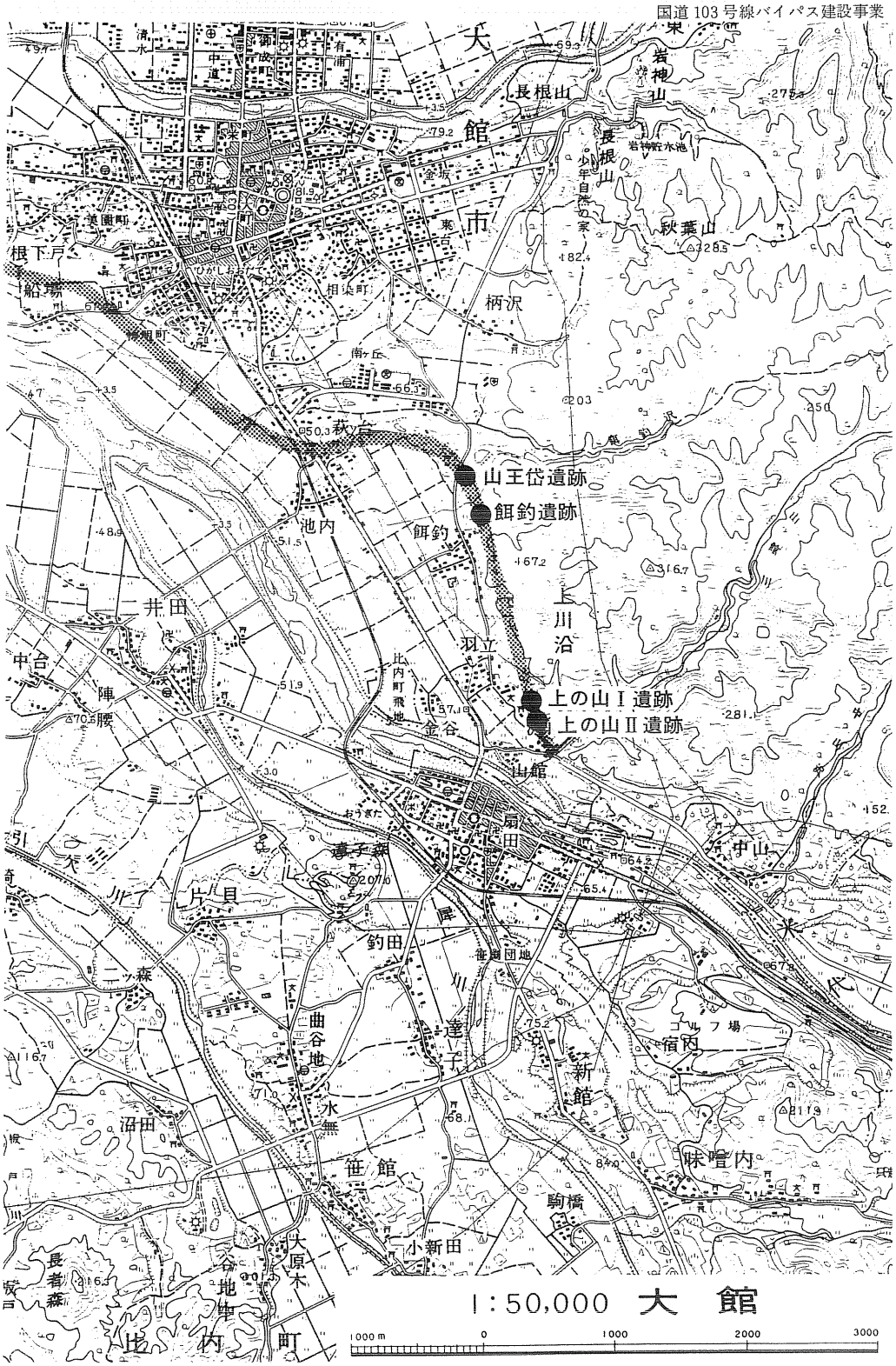
遺跡は台地の縁辺部から中央部にかけての標高76～78ｍの平坦面にあり、畑地として利用されている。『秋田県の中世城館』所収の餌釣館の西側にあたる。調査地点中央部は黒土が広範囲に削土されているが地山面は残っている。

7. 範囲・時代・性格

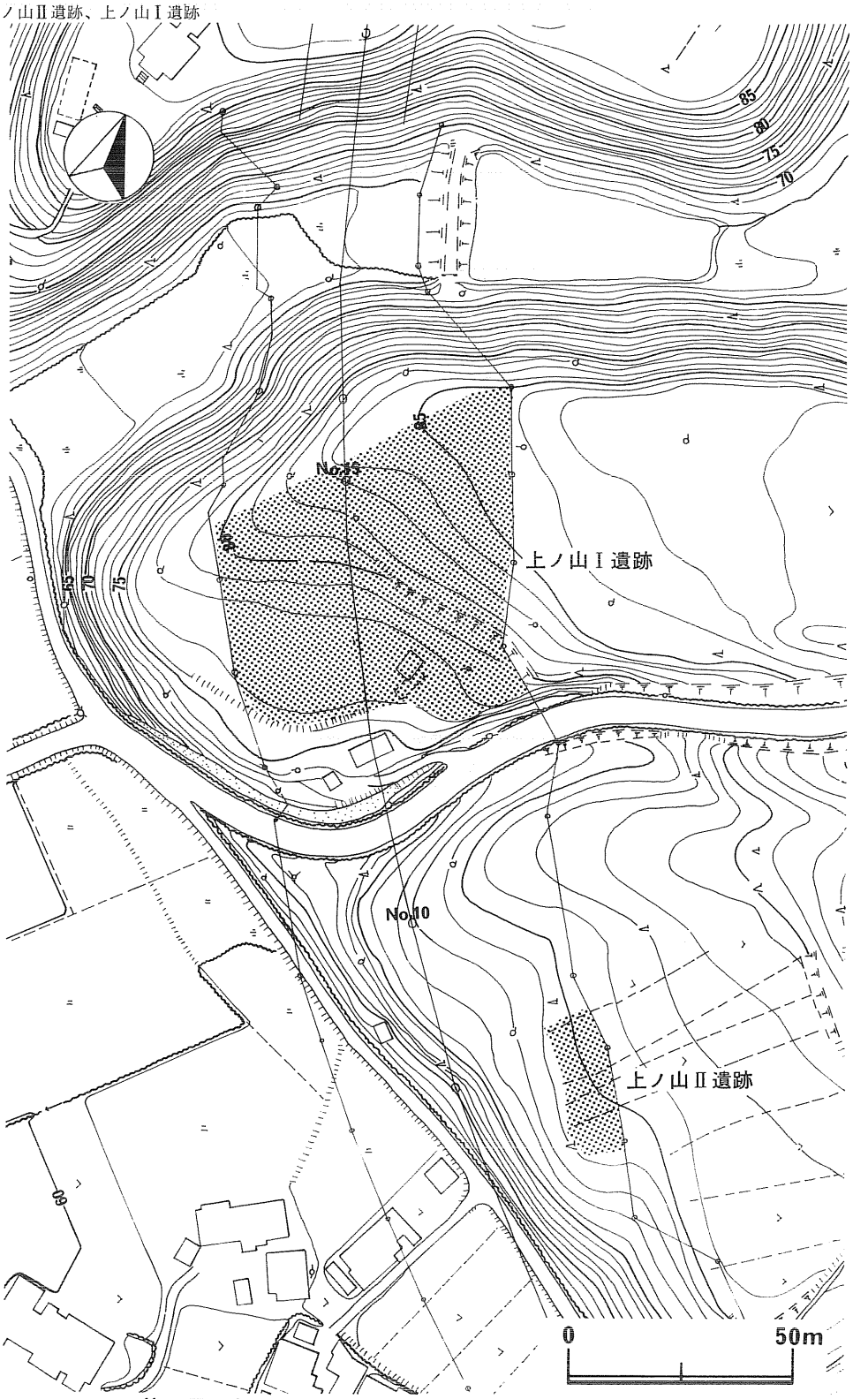
地表からの深さ１ｍ、地表での幅７ｍの空堀と、掘立柱建物跡の柱穴と考えられるピットが３基検出された。遺物は石器の他、回転糸切痕を有する土師器坏底部、中世陶器が出土した。このことから、縄文、平安、中世にまたがる遺跡と考えられる。空堀は1000分の１地形図にも現状が現れており、北西方向に延びているらしい。『秋田県の中世城館』に示された餌釣館の範囲は日吉神社の周辺で、単郭であるが、今回検出された空堀が餌釣館の一部であるとすると、餌釣館は複郭で、範囲も拡大されなければならない。また、市道をはさんだ北側は未買収のために調査ができなかったが、この地域にも遺跡の拡がりが予想されることから遺跡総面積は今後の範囲確認調査結果を含めて決定される必要がある。

8. 土　層

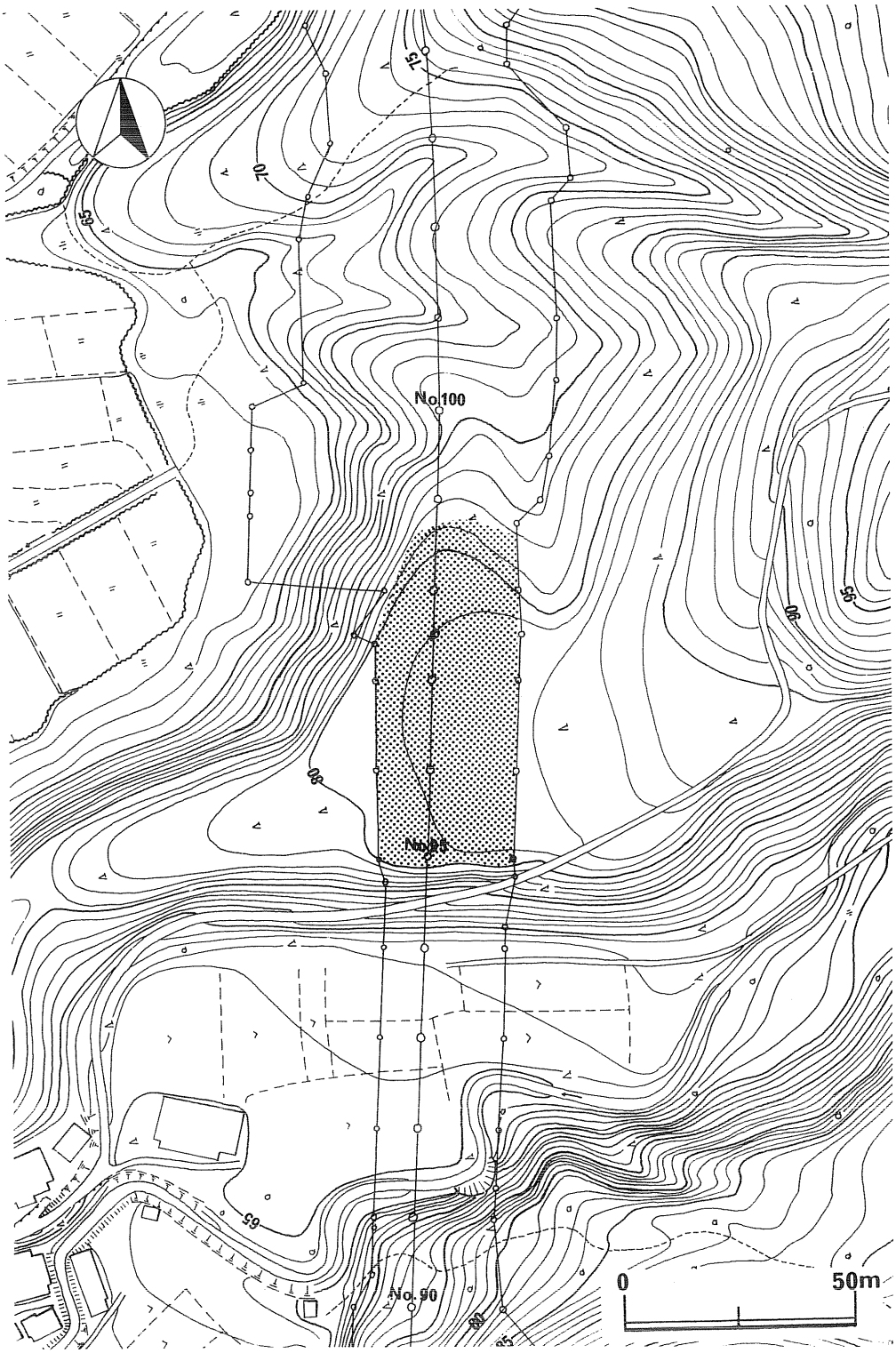
黒土が削土された中央部は黒褐色土が10cmほどで地山となる。他は第Ⅰ層黒褐色土20cm、第Ⅱ層褐色土10cmの層厚である。



第10図　国道 103 号線バイパス建設事業内遺跡位置図



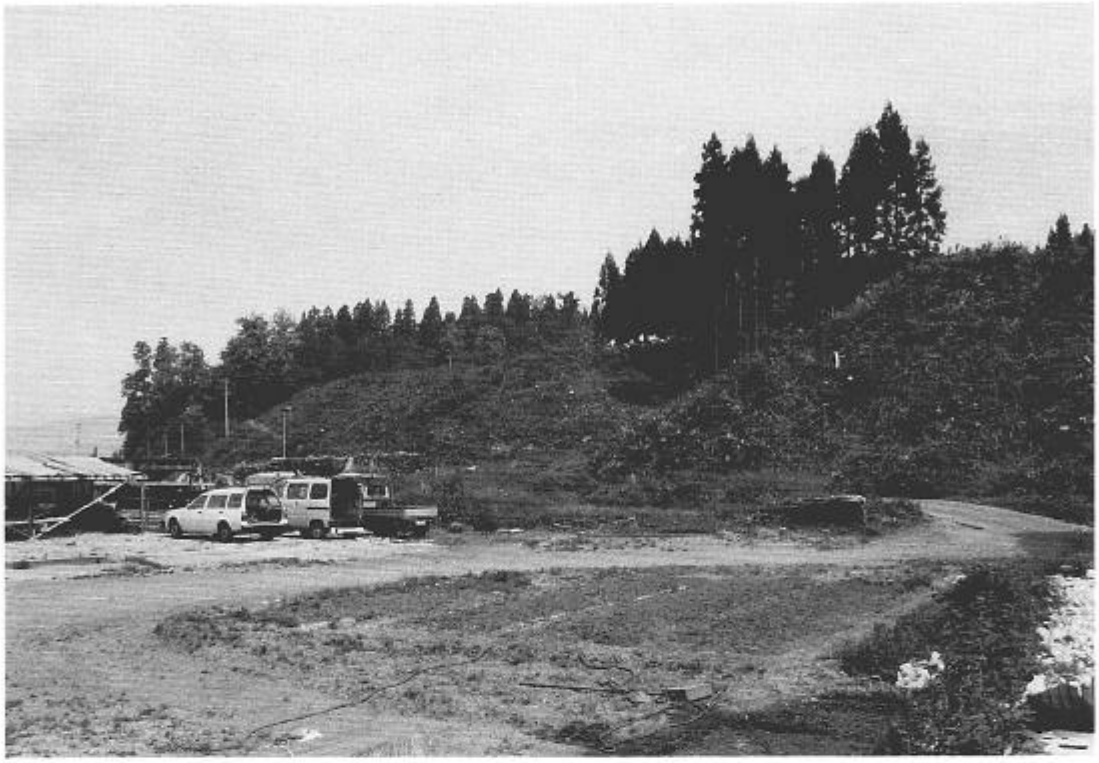
第11図　上ノ山Ⅱ遺跡・上ノ山Ⅰ遺跡工事区域内遺跡範囲図



第12図　餌釣遺跡工事区域内遺跡範囲図

第13図　山王岱遺跡工事区域内遺跡範囲図

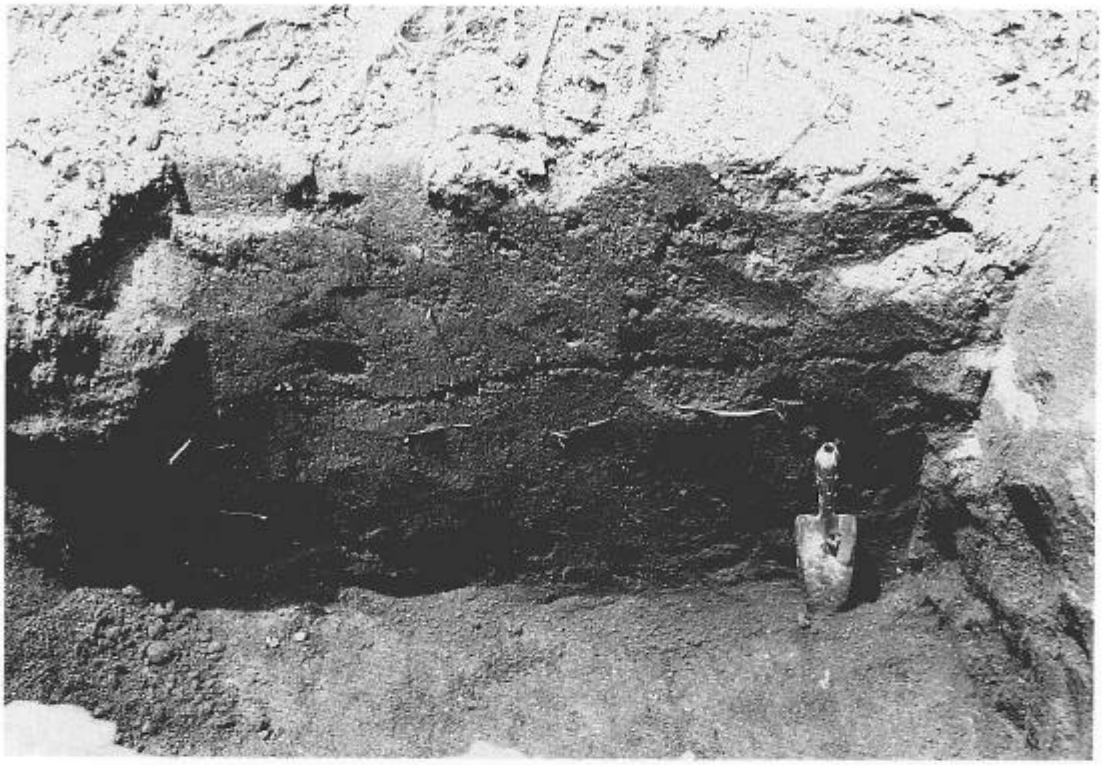
図版17



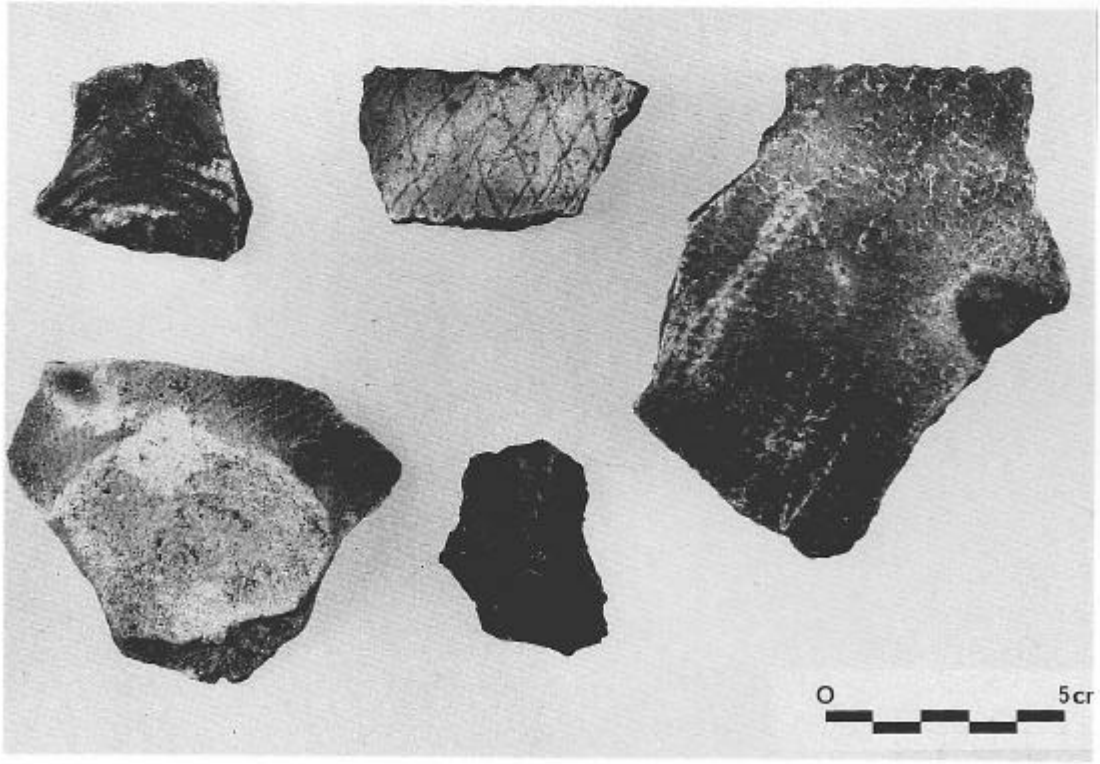
上ノ山Ⅱ遺跡　遠景（南▶北）

上ノ山Ⅱ遺跡　近景（北▶南）

図版18



上ノ山Ⅱ遺跡　土層



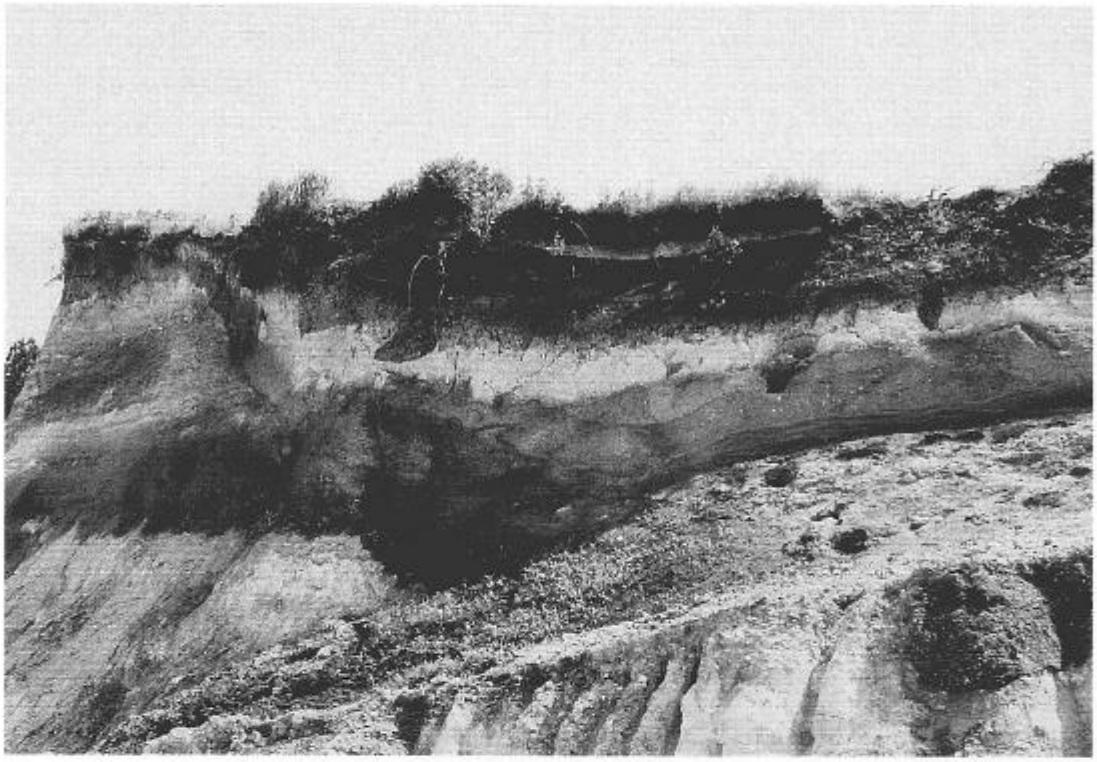
上ノ山Ⅱ遺跡　出土遺物

図版19

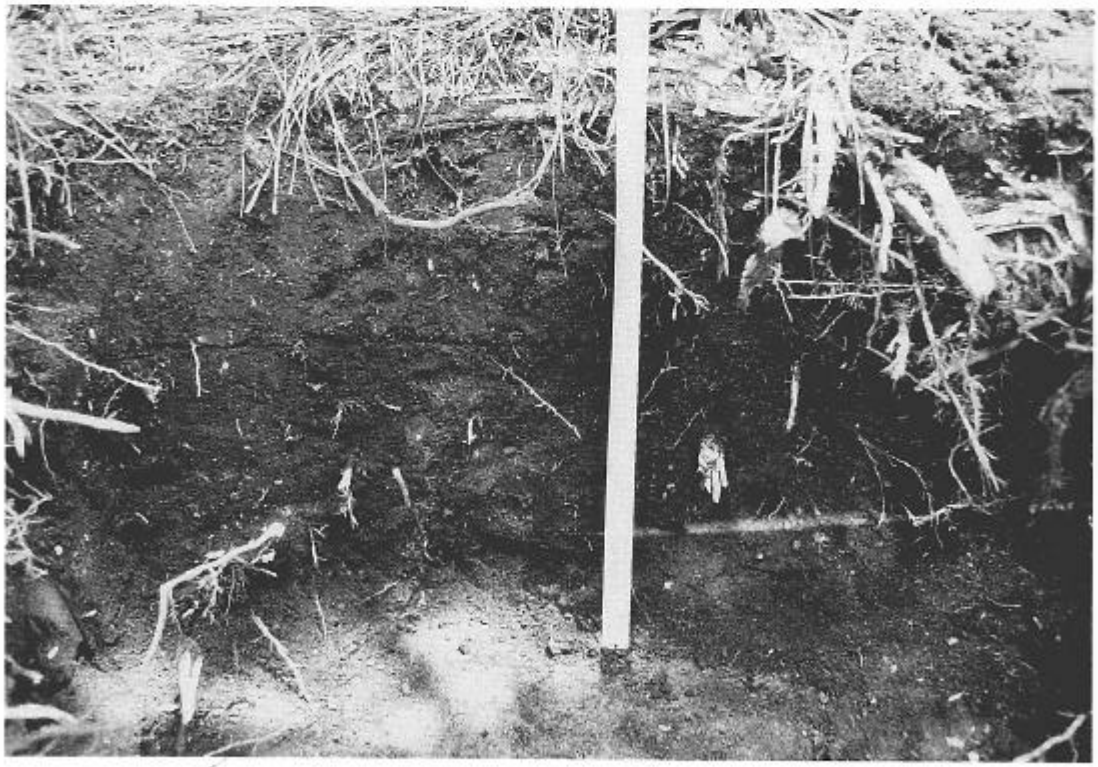
上ノ山Ⅰ遺跡　遠景（西▶東）

上ノ山Ⅰ遺跡　現況（南▶北）

図版20

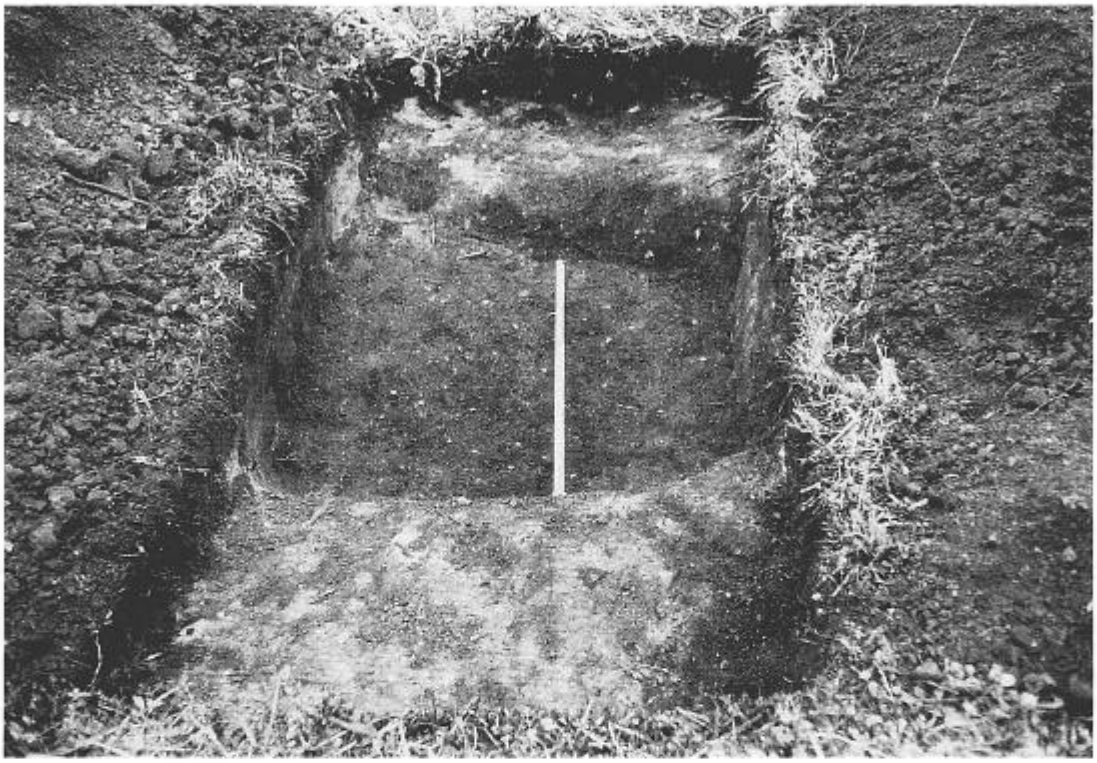


上ノ山Ⅰ遺跡　露頭の竪穴住居跡とフラスコ状ピット

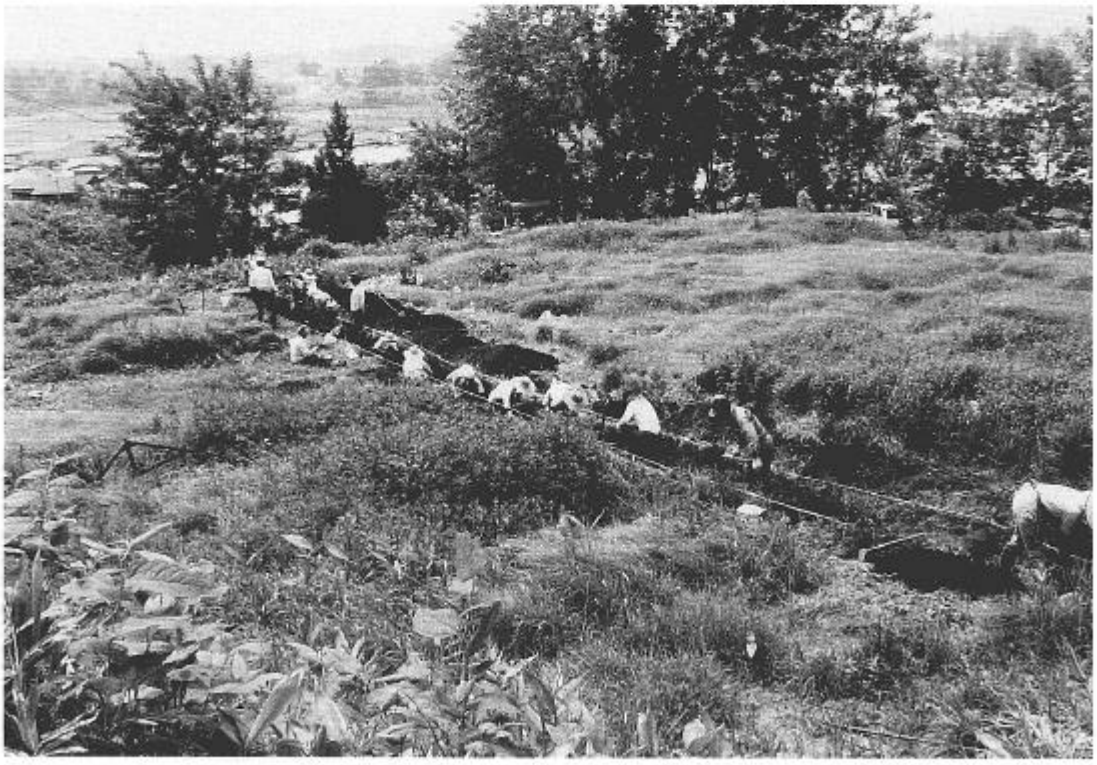


上ノ山Ⅰ遺跡　土層

図版21

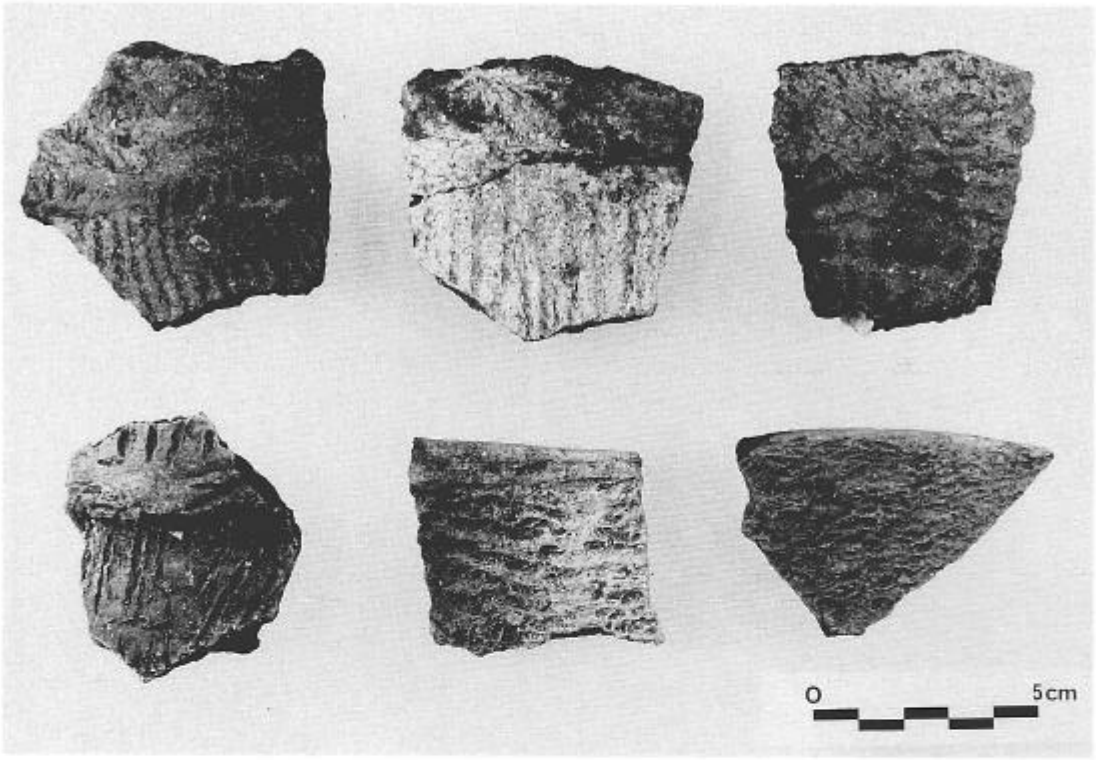


上ノ山Ⅰ遺跡　土坑検出状況

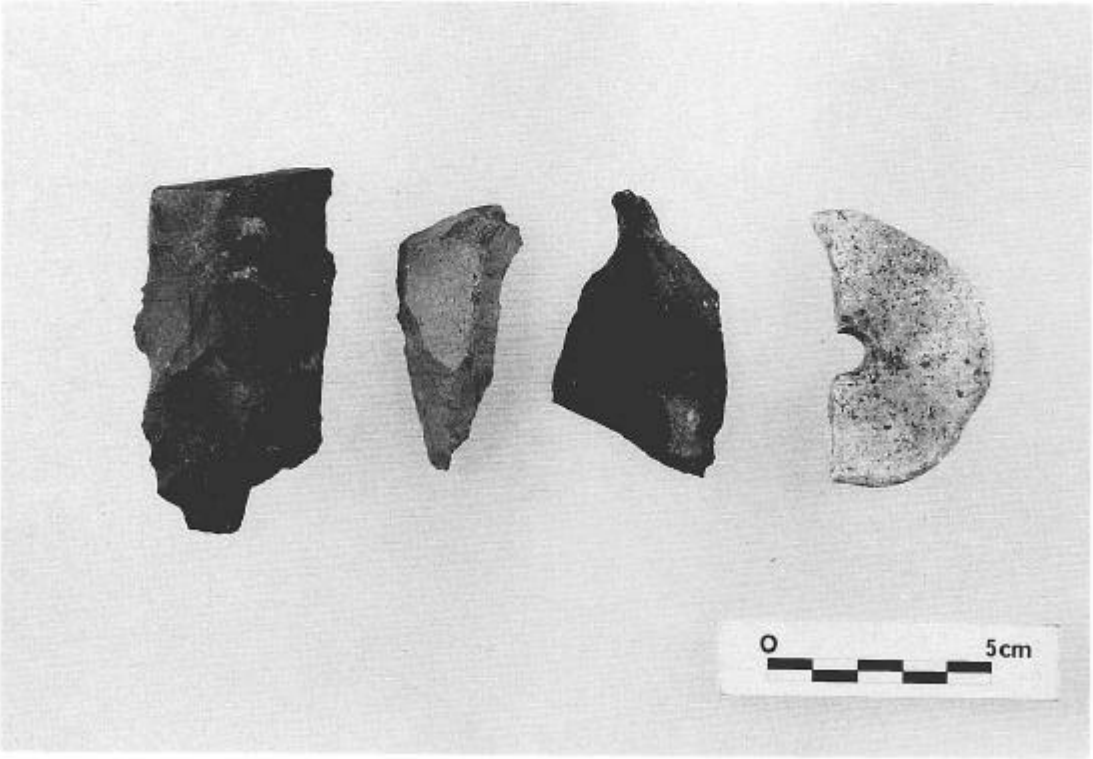


上ノ山Ⅰ遺跡　作業状況

図版22

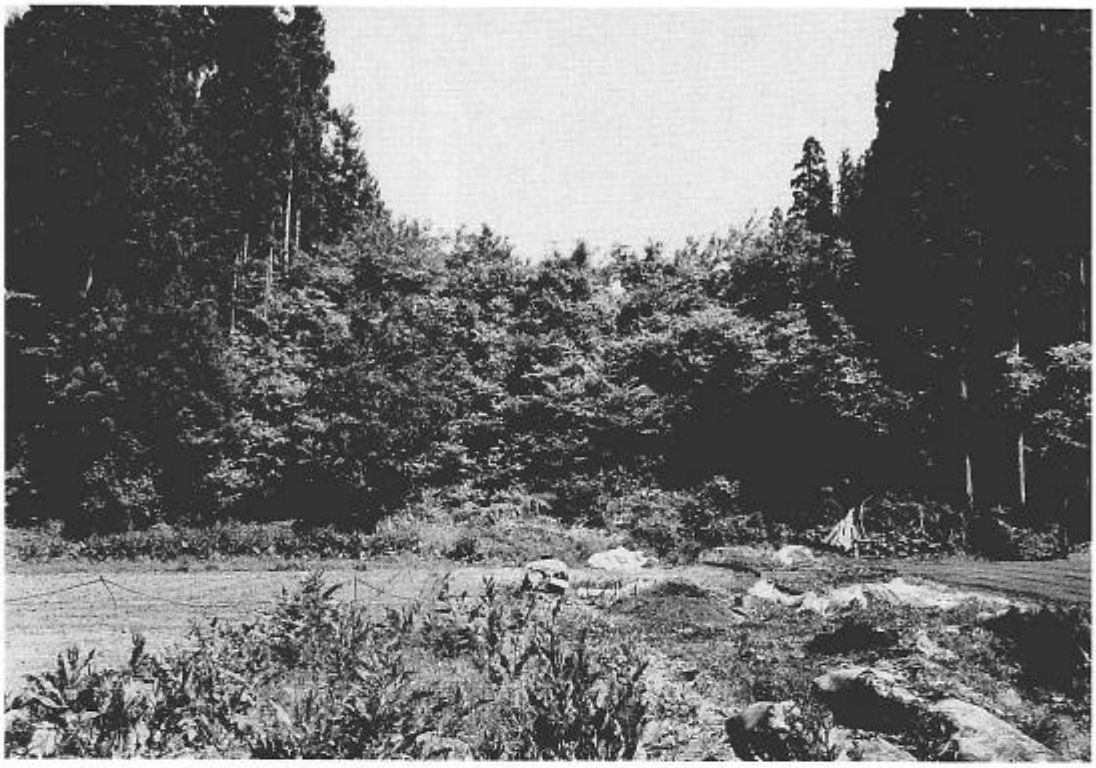


上ノ山Ⅰ遺跡　出土遺物（縄文土器）



上ノ山Ⅰ遺跡　出土遺物（石器）

図版23



餌釣遺跡　遠景（南▶北）

餌釣遺跡　作業状況

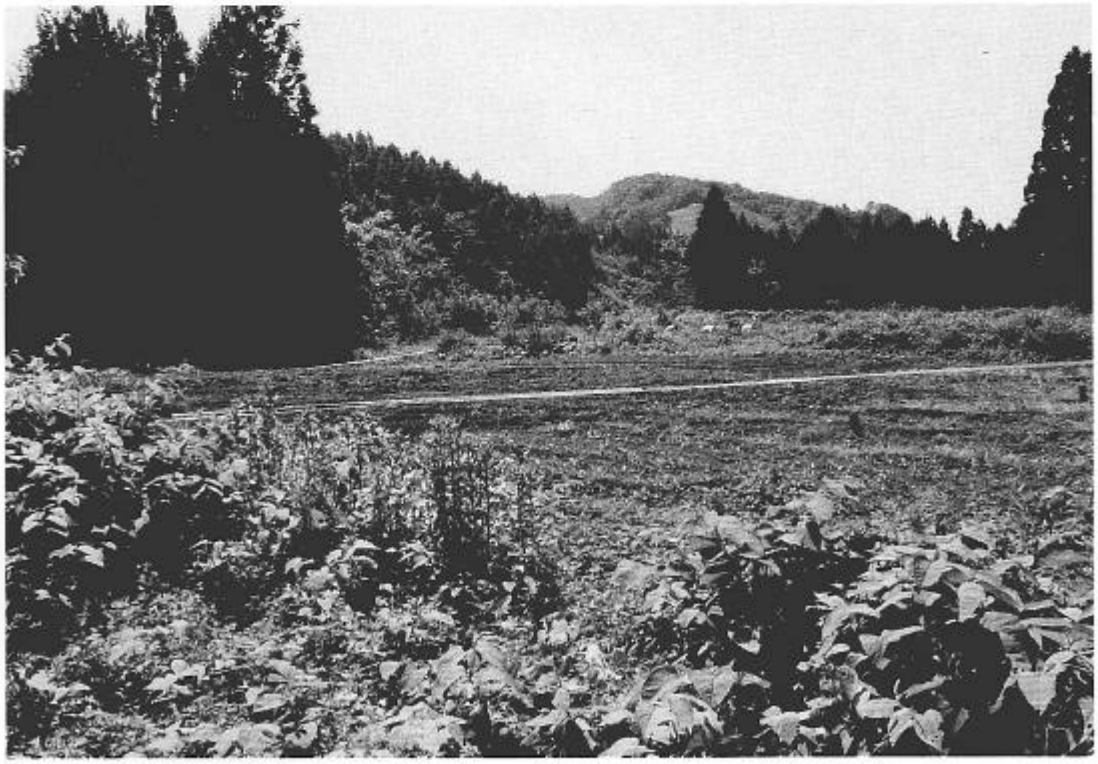
図版24

餌釣遺跡　土層

餌釣遺跡　出土遺物

図版25

山王岱遺跡　遠景（南▶北）



山王岱遺跡　現況（北▶南）

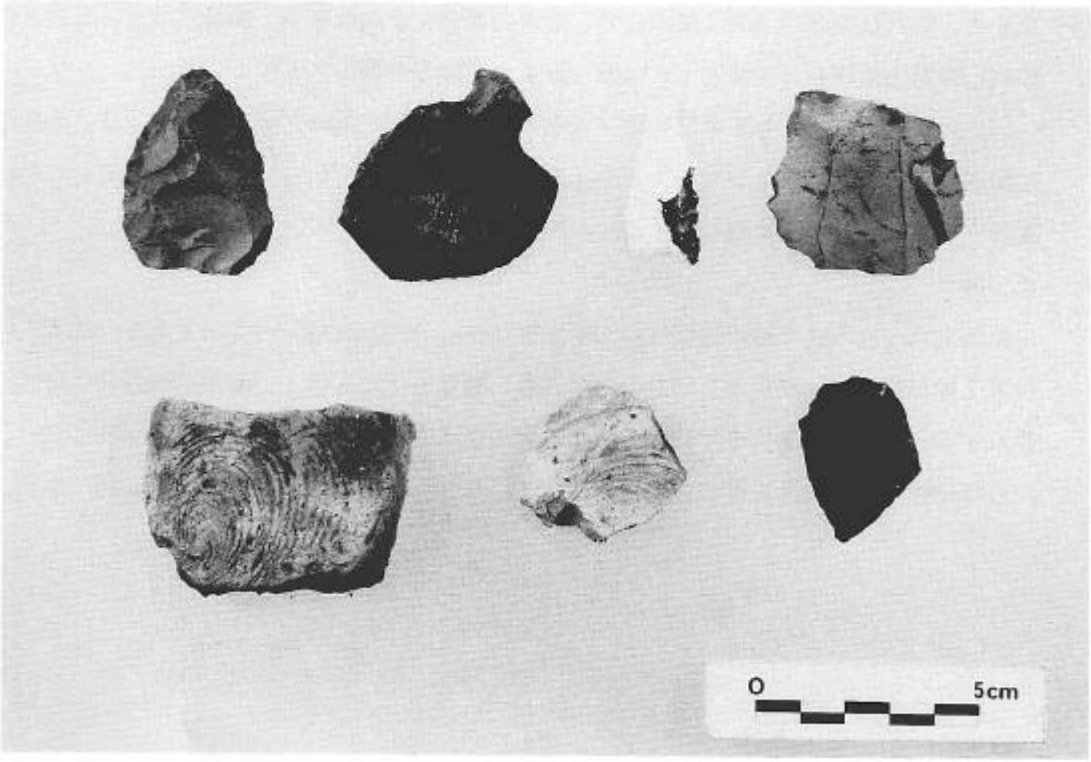
図版26

山王岱遺跡　作業状況

山王岱遺跡　柱穴検出状況

図版27

山王岱遺跡　空堀土層断面



山王岱遺跡　出土遺物

5. 国道282号線改良工事

玉内（たまない）遺跡

1. **所在地**　鹿角市花輪字玉内54―１、36―１、38―１
2. **工事区域内遺跡面積**　900㎡
3. **調査期間**　昭和61年８月４日～８月７日
4. **範囲確認調査発掘面積**　26㎡
5. **調査担当者**　熊谷太郎、小林　克
6. **遺跡の立地と現況**

遺跡は米代川の東岸に形成された標高180ｍ前後の台地西端部と、斜面途中にみられる狭い平場の部分である。台地直下には国道282号線が台地に沿って南北に走っている。現況は台地端部分が笹の生い茂る原野、そこから下る斜面及び途中の平場は山林となっており、南西側のさらに一段下った平場は現在宅地として利用されている。

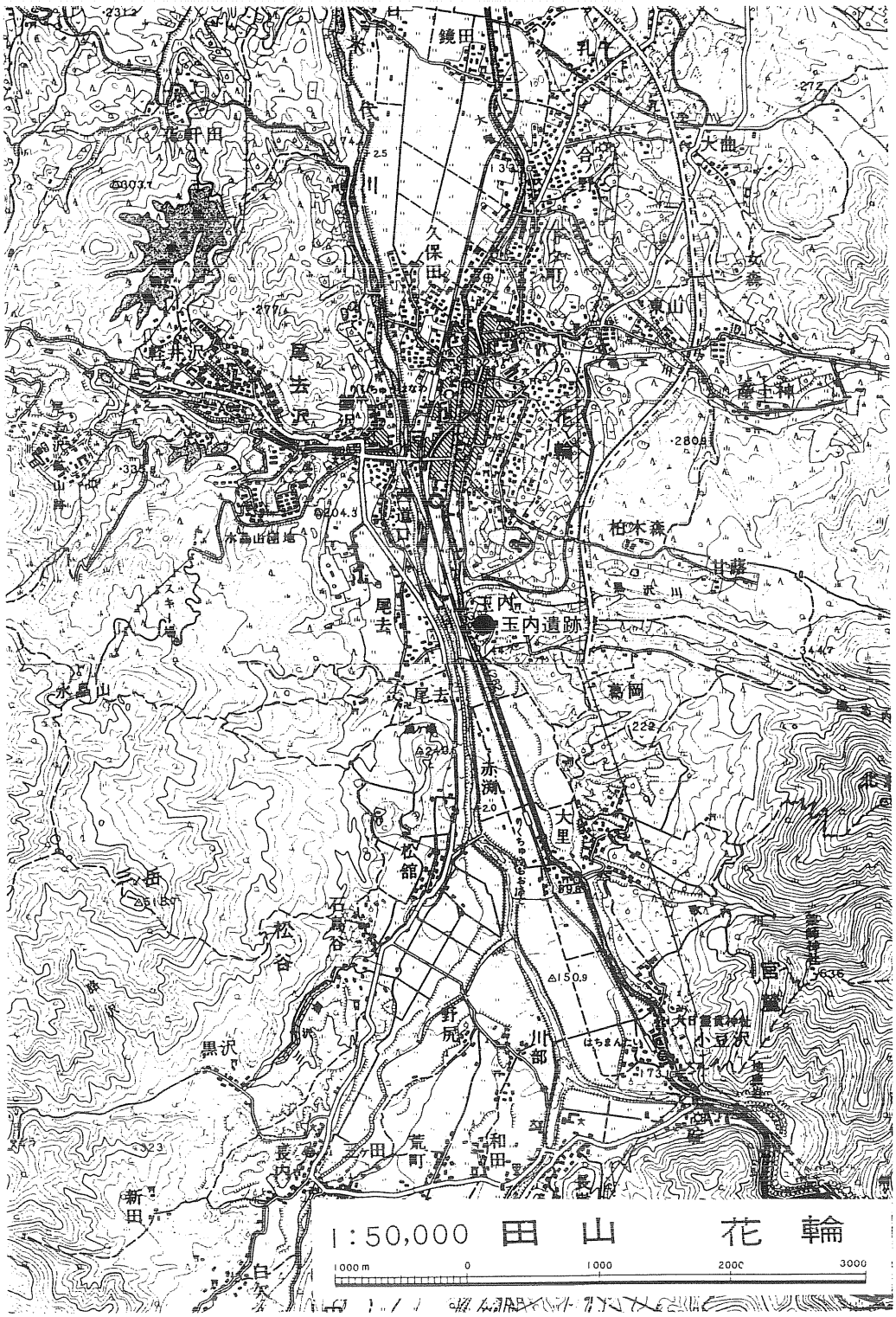
7. **範囲・時代・性格**

遺物は縄文土器及び土師器である。遺構は焼土、炭化物を多量に含む掘り込み（№６地点）と、竪穴状の遺構（№４地点）で、前者の場合プランは不明。後者は方形になると思われ、堆積土は浮石を主体とし、底面付近より土師器が集中して出土した。

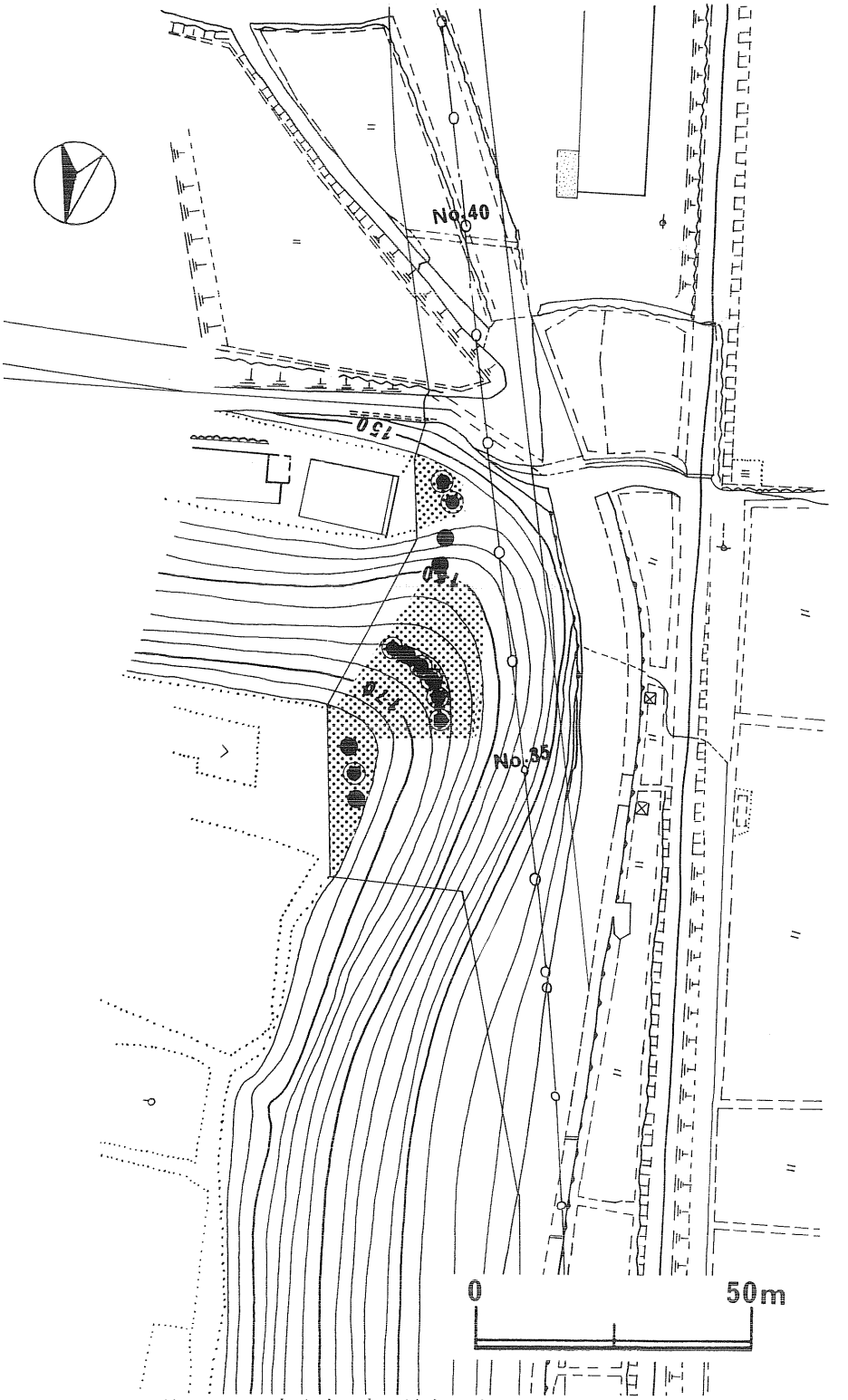
以上のことから主として縄文時代（晩期）と平安時代の遺跡と考えられる。又、南側の宅地部分では過去にストンサークルが１基検出され現存している。今回の調査でもこれに関連すると思われる縄文晩期の土器片が出土した。

8. **土　層**

試掘地点のうち№４地点周辺は地山面まで160㎝、その他は80～120㎝である。基本土層は第１層が軟質の黒褐色土で第Ⅱ層は浮石層、第Ⅲ層は暗褐色土で南側宅地部分では礫を混入する。又、宅地部分の№13地点では地表面直下より多量の礫及び河原石がみられ、これらは斜面からの流入と思われるものの他、配石としての可能性も考慮する必要がある。

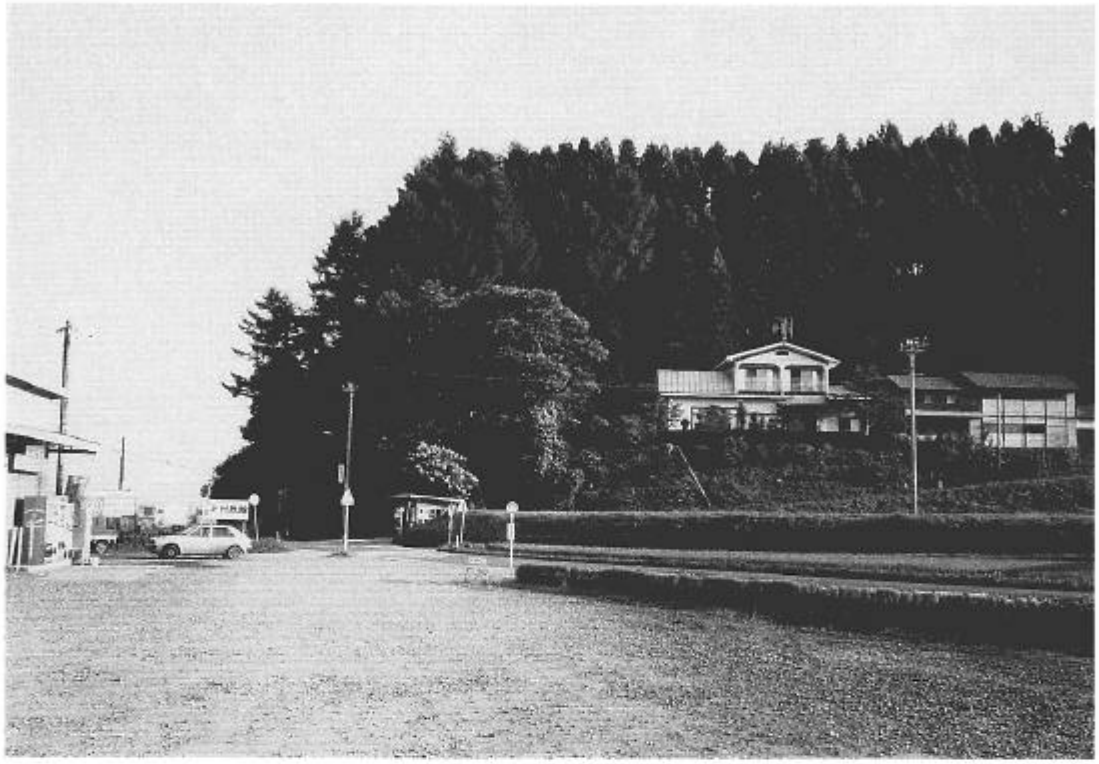


第14図　国道 282 号線改良工事内遺跡位置図



第15図　玉内遺跡工事区域内遺跡範囲図
（◉印遺物または遺構検出地点）

図版28



玉内遺跡　遠景（南▶北）

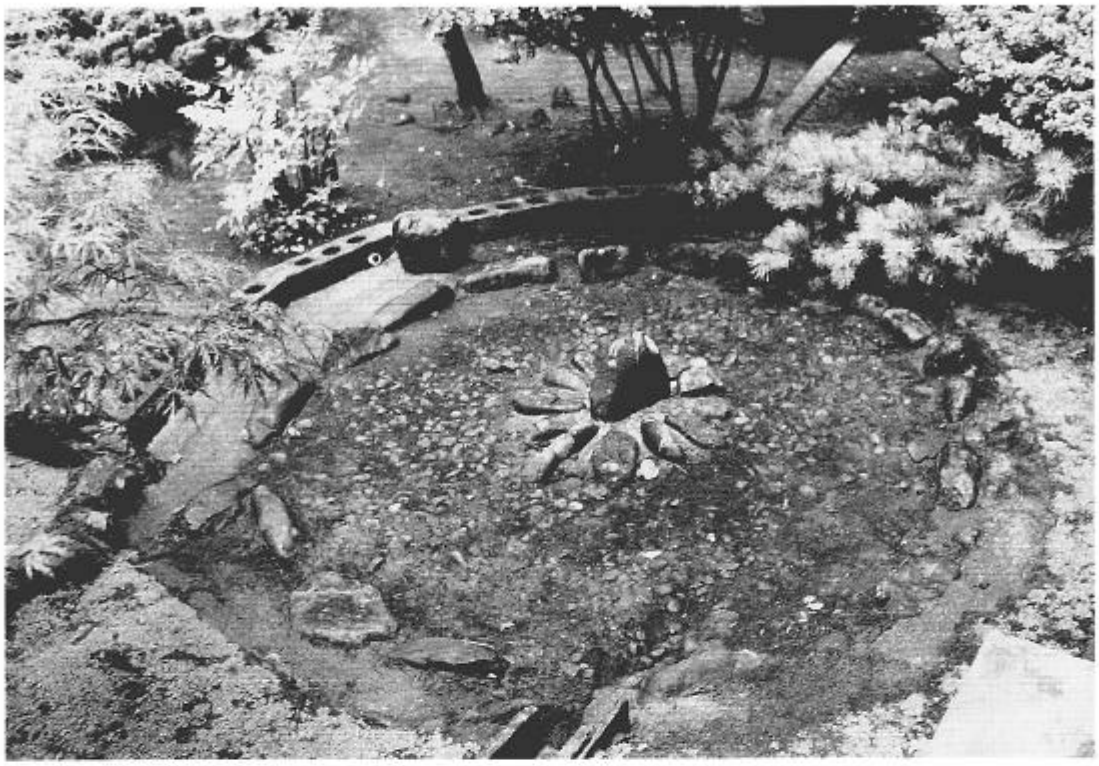
玉内遺跡　現況（東▶西）

図版29

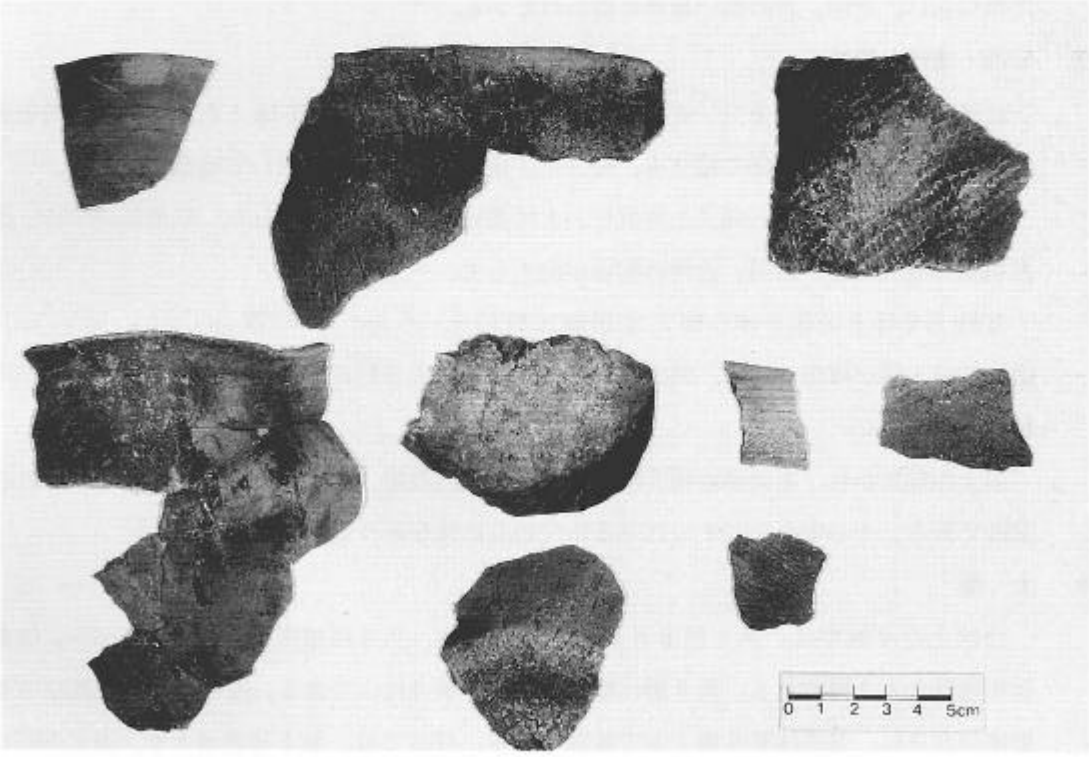
玉内遺跡　現況（浅石勇氏宅庭）

玉内遺跡　焼土遺構検出状況

図版30



玉内遺跡　浅石勇氏宅環状列石



玉内遺跡　出土遺物（縄文土器・土師器）

6.　一般国道７号改築工事（八竜能代道路）

十二林（じゅうにばやし）遺跡

1.　**所在地**　能代市浅内字十二林93の１他、能代市浅内字蟹子沢43

2.　**工事区域先遺跡面積**　12,400㎡

3.　**調査期間**　昭和61年９月24日～９月26日、10月１日

4.　**範囲確認調査発掘面積**　282㎡

5.　**調査担当者**　谷地　薫

6.　**遺跡の立地と現況**

遺跡は、南北が沢によって区切られた東から西に向かって張り出す舌状台地及び南側の沢の低地で、工事区域は、その中央部を南北に横断する。台地の北側斜面は斜度約40度、南側斜面は斜度約35度の急斜面である。

北側の沢の対岸の台地は寒川Ⅰ遺跡、南側の沢の対岸の台地は石丁遺跡である。

台地上及び斜面は、灌木や背の高い雑草が生い茂る藪である。その中のいたる所に杉及び雑木を伐採した後の径20～40㎝の切株が残っている。南側の低地部分は元は水田であったが現在は、全面、背の高い雑草に覆われている。

7.　**範囲・時代・性格**

台地上及び斜面は、トレンチ２カ所、坪掘り70カ所の試掘を行った。蟹子沢の低地部分は、東西及び南北方向に幅２ｍ、長さ計50ｍのトレンチを設定して試掘を行った。

台地上及び斜面では、縄文土器破片、土師器破片、鉄滓が出土した。低地部分では、復元可能な縄文土器、石器、近世の陶器が出土した。

台地上では土師器を伴う竪穴住居跡15軒以上（うち、カマド部分３基）、土坑７基、炭焼窯跡１基が検出された。斜面からは溝が２条検出された。低地部分では遺構は検出されなかった。

以上の結果から、本遺跡は縄文時代、平安時代、近世、近代の遺構、遺物が包蔵される遺跡であり、その中心をなすのは平安時代の製鉄跡を伴う集落跡である。

8.　**土　層**

台地上の平坦部は、第Ⅰ層黒ボク土（20～30㎝）、第Ⅱ層暗褐色土（５～15㎝）、第Ⅲ層褐色粘土の３層である。第Ⅱ層は漸移層、第Ⅲ層は地山である。遺物は第Ⅰ層及び第Ⅱ層に包含され、遺構は第Ⅱ層上面で確認される。斜面では、第Ⅰ層黒ボク土、第Ⅱ層褐色砂層の２層である。南北いずれの斜面も斜面の上端から下にいくほど第Ⅰ層が厚く堆積し

ている。南側斜面では、第Ⅰ層は上端で約40cm、下部で約80cmである。北側斜面では、第Ⅰ層は上端で約20cm、下部で約60cmである。いずれの斜面でも遺物は第Ⅰ層に包含され、遺構は第Ⅱ層上面で確認される。

南側の低地では、第Ⅰ層黒色土（平均20cm、水田の耕作土）、第Ⅱ層黒褐灰色砂層（平均20cm）、褐灰色砂層（平均30cm）で、その下は、青灰色砂層と黒褐灰色泥炭質粘土層の互層となっている。また、部分的に、第Ⅱ層以下の砂層がなくて泥炭が堆積しているところもある。遺物は第Ⅱ層に包含される。

石丁（こくちょう）遺跡

1. **所在地**　能代市浅内字石丁家上46他
2. **工事区域内遺跡面積**　1,300㎡
3. **調査期間**　昭和61年9月27日～9月30日
4. **範囲確認調査発掘面積**　159㎡
5. **調査担当者**　谷地　薫
6. **遺跡の立地と現況**

遺跡は、東から西に張り出す広い台地の、北側を区切る沢に面した平坦部である。北側の沢との間は、比高差約15m、斜度約40度の急斜面になっている。沢の北側の対岸の台地上は十二林遺跡である。

台地上の平坦部には東西に市道が通り、その南側は、すでに地山面まで削平されている。この市道の改良工事の際に掘り上げられた土が、市道に沿って、遺跡内に、高さ約1.5m、上端の幅約2m、下部の幅約7mの土手状に積み上げられている。

現況は灌木及び背の高い雑草が生い茂る藪である。その中のいたる所に、杉及び雑木を伐採した後の径20～40cmの切り株が残っている。

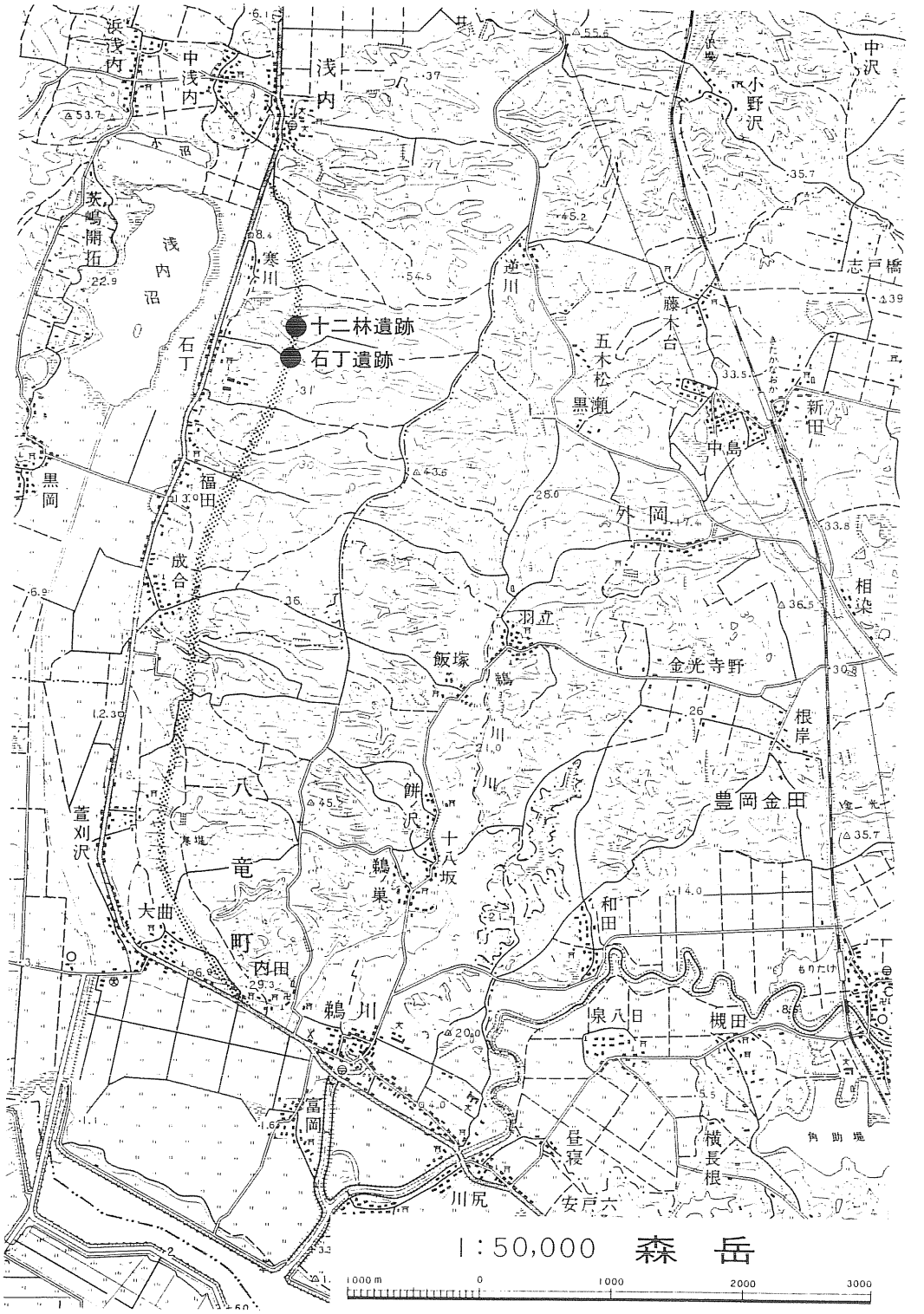
7. **範囲・時代・性格**

台地上及び斜面に幅1mのトレンチを5カ所（計141m）設定し、試掘を行った。また，市道より南側は9カ所の坪掘りを行った。その結果、台地縁辺部から土師器破片が少量出土し、台地上の平坦部で土坑3基、焼土1カ所を検出した。

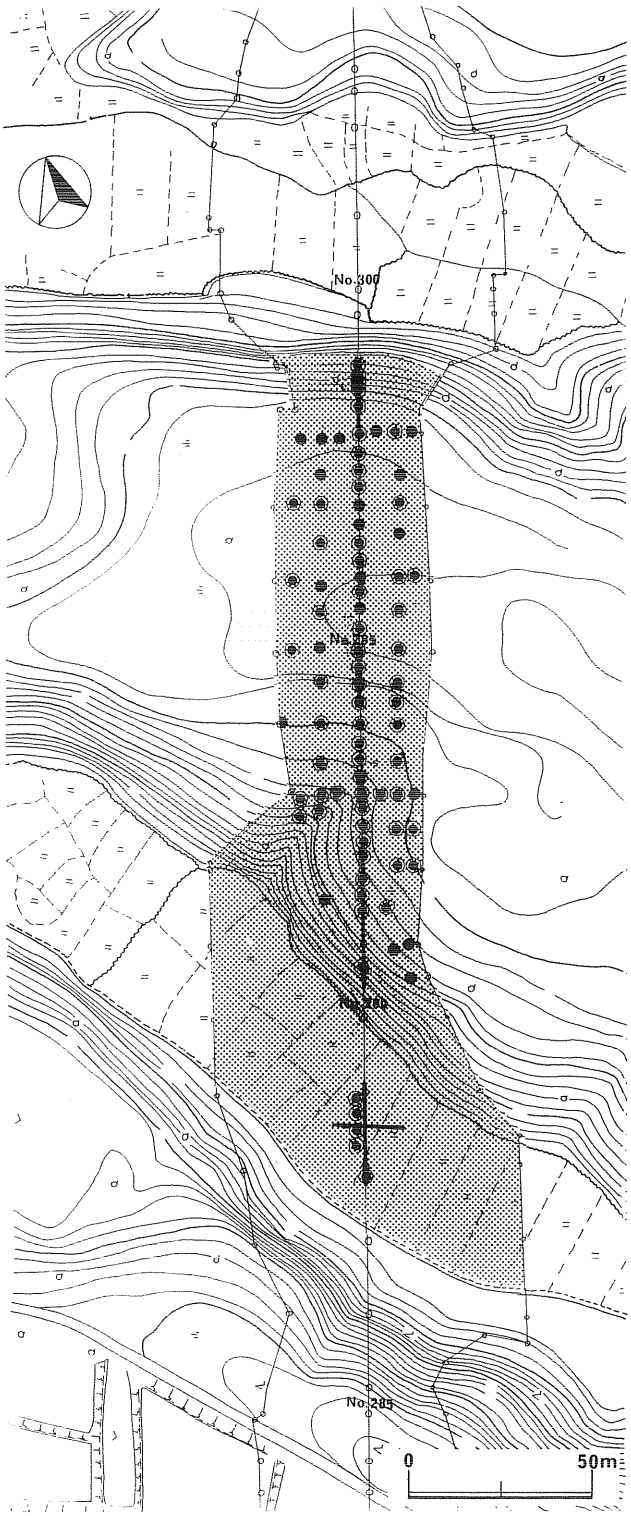
以上の結果から本遺跡は平安時代の遺構、遺物が包蔵される遺跡である。

8. **土　層**

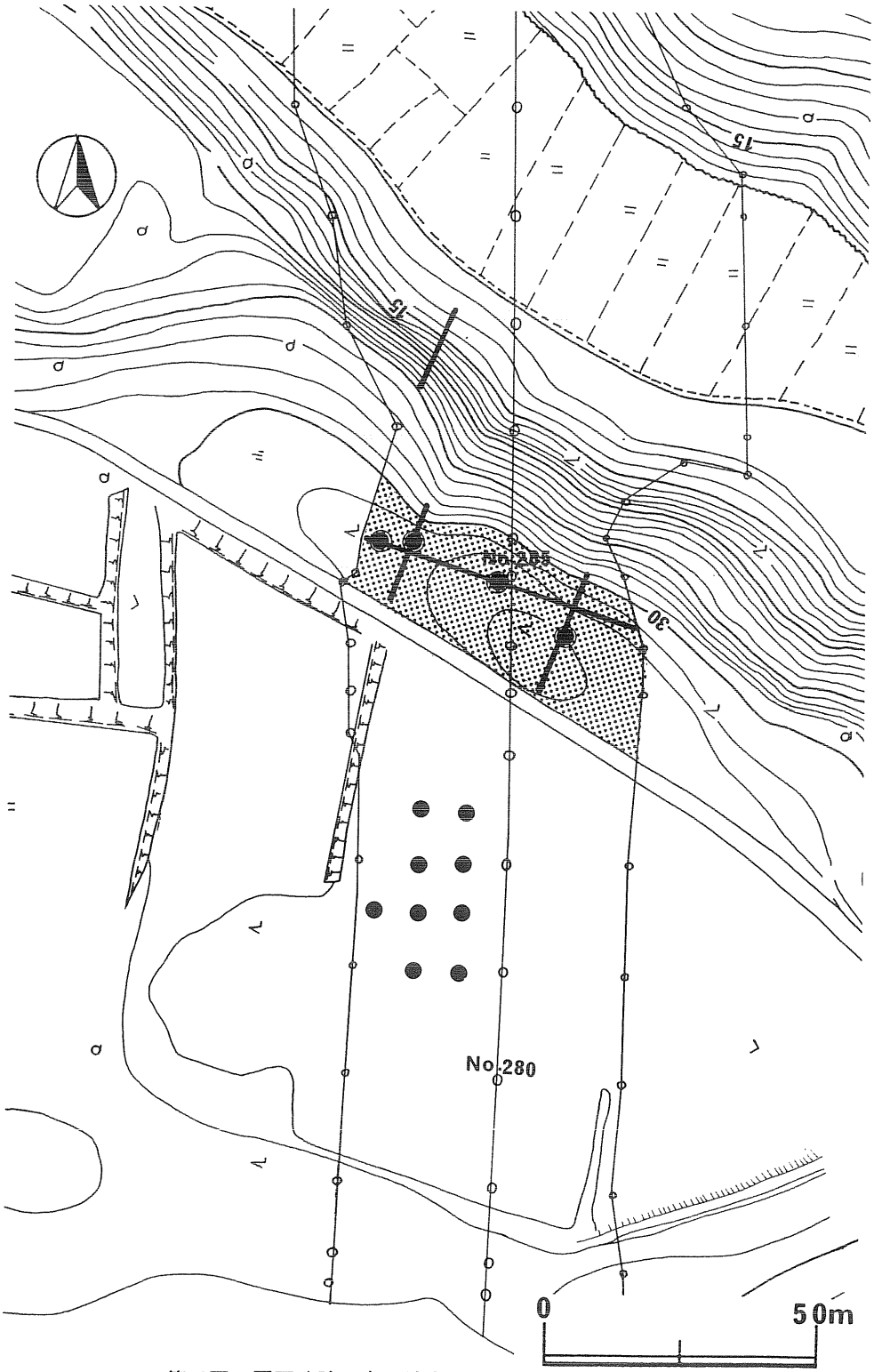
地山（褐色粘土）の上を黒ボク土が平均50cmの厚さで覆っている。遺物は、黒ボク土中から出土した。遺構は地山上面で確認される。



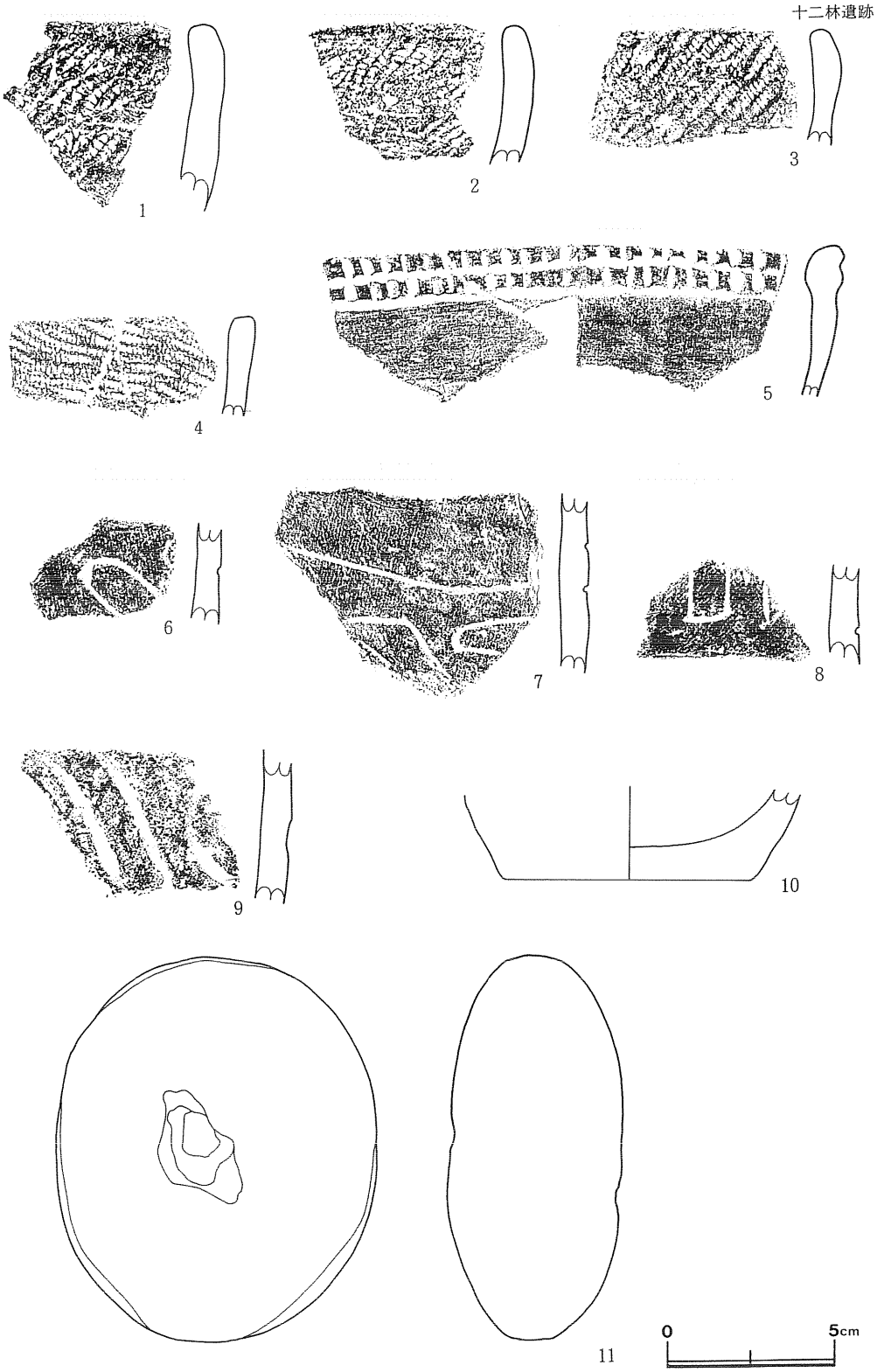
第16図　一般国道７号改築工事（八竜能代道路）内遺跡位置図



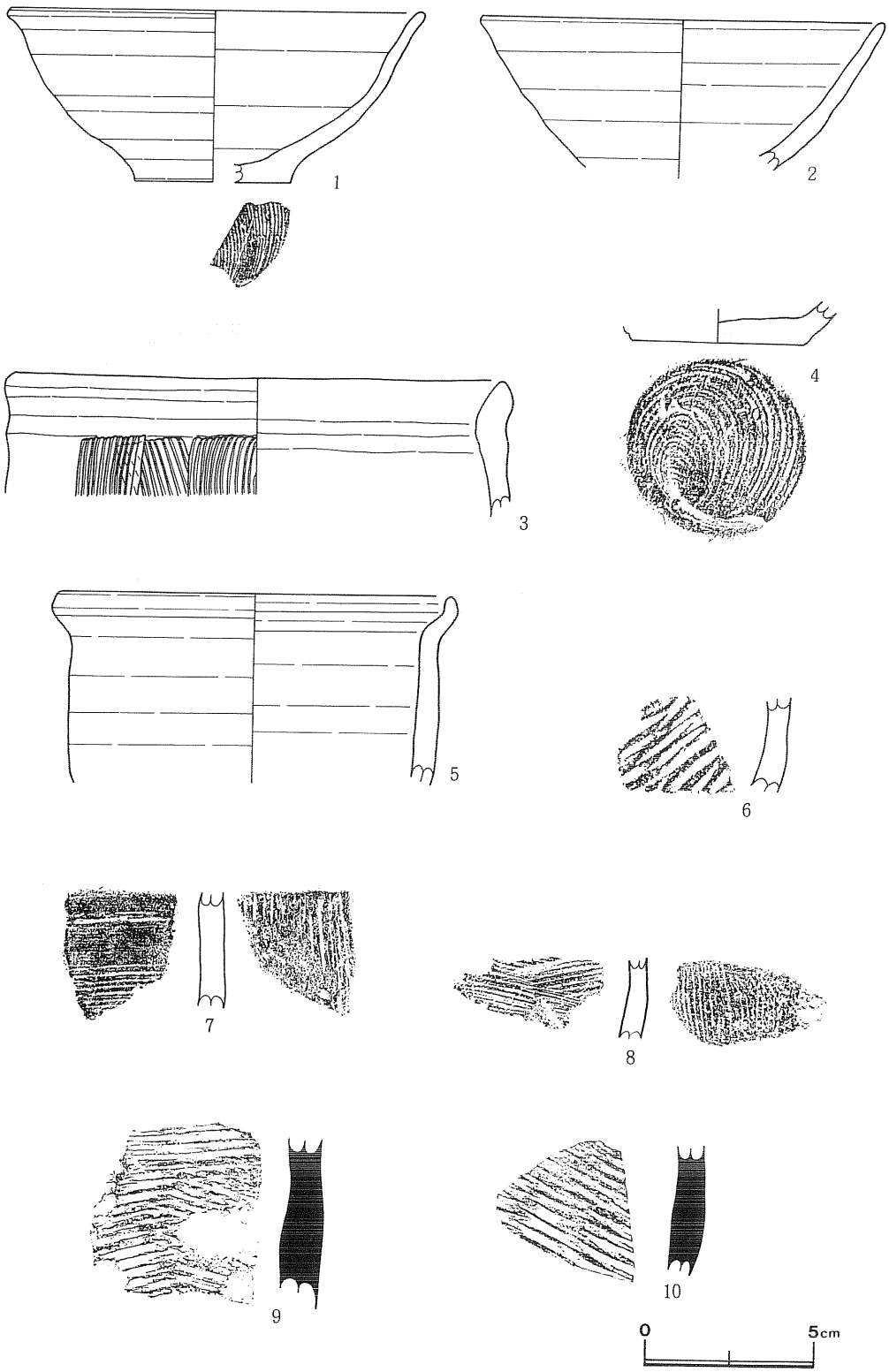
第17図　十二林遺跡工事区域内遺跡範囲図
（◉印遺物または遺構検出地点）



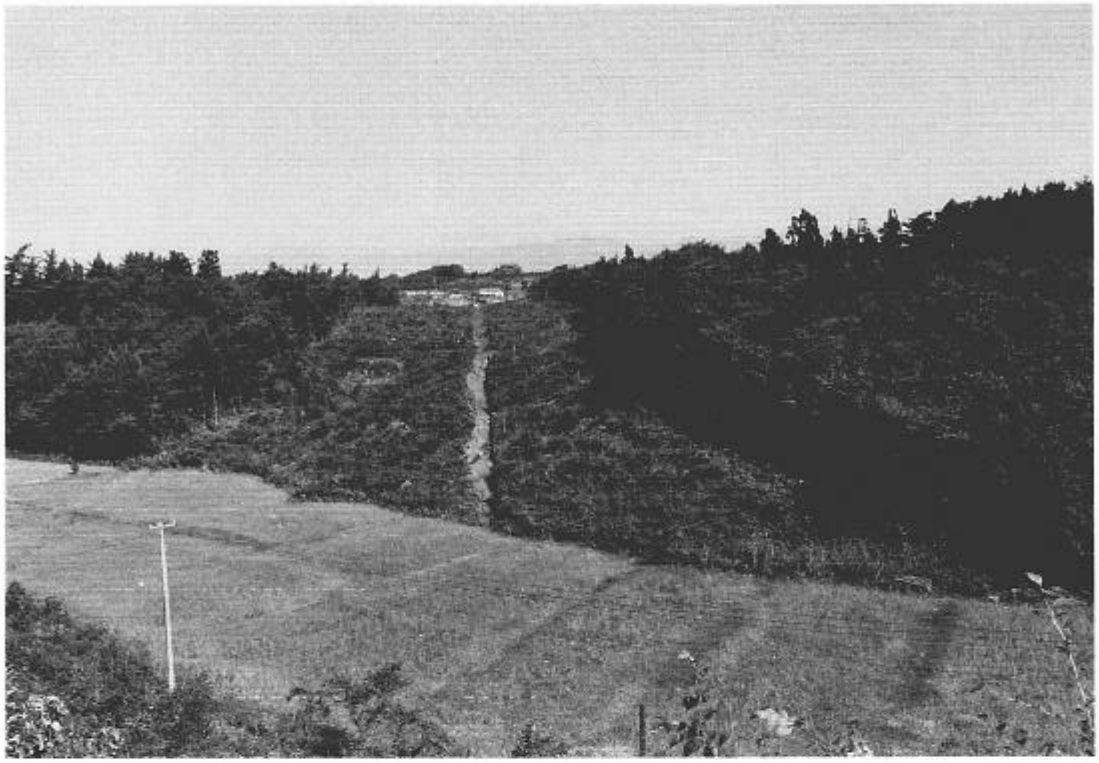
第18図　石丁遺跡工事区域内遺跡範囲図
（◉印遺構または遺物検出地点）



第19図　十二林遺跡出土遺物（縄文土器・石器）



第20図　十二林遺跡出土遺物（土師器・須恵器）

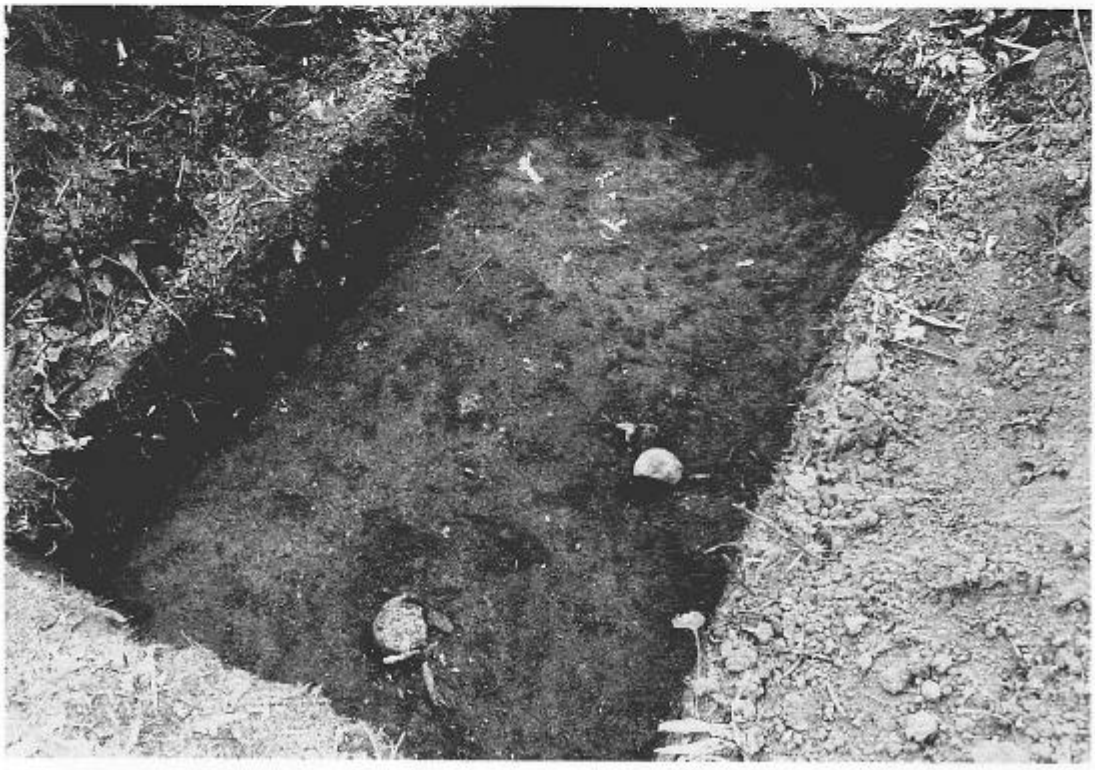


十二林遺跡　近景（南▶北）

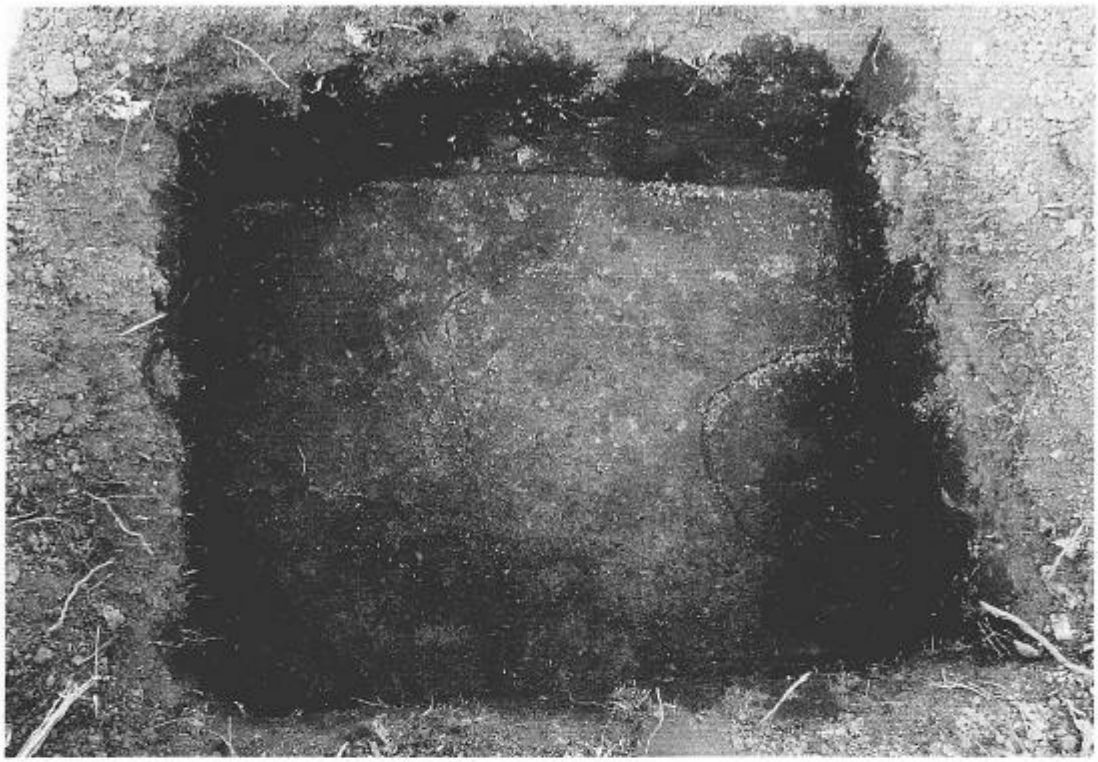
十二林遺跡　現況（南▶北）

図版32

十二林遺跡　土層



十二林遺跡　遺構検出状況



十二林遺跡　遺構検出状況

十二林遺跡　遺構検出状況

図版34

十二林遺跡　遺構検出状況

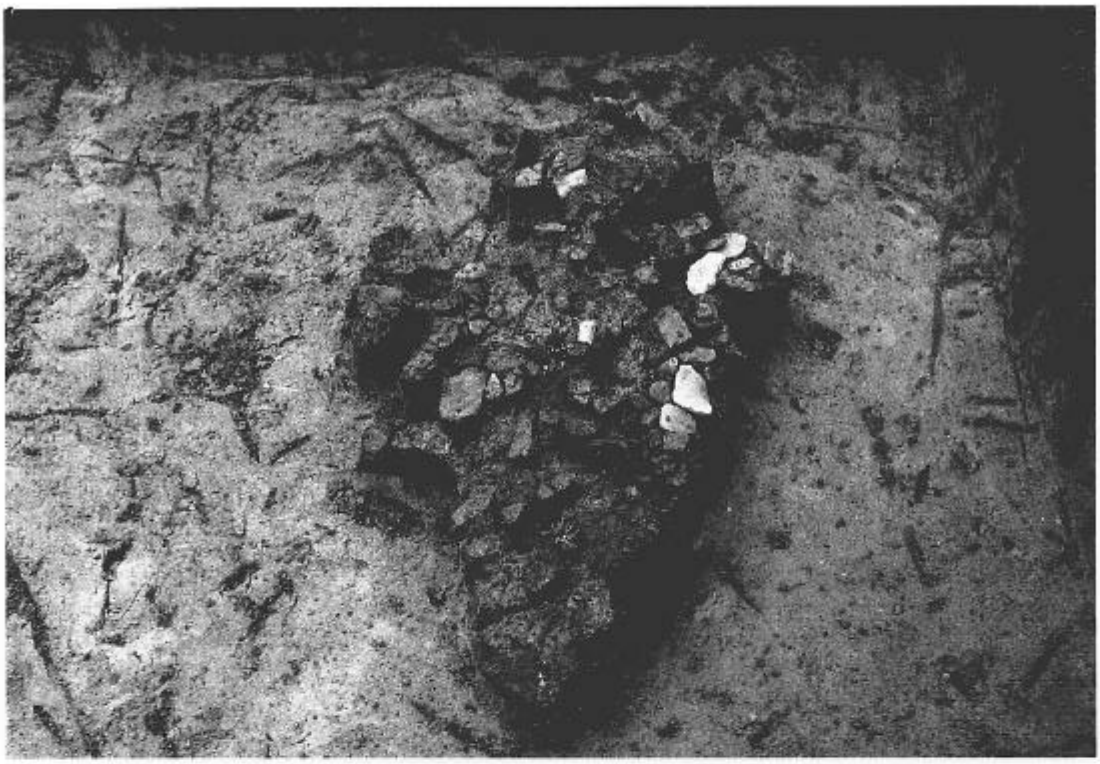
十二林遺跡　遺物出土状況

図版35

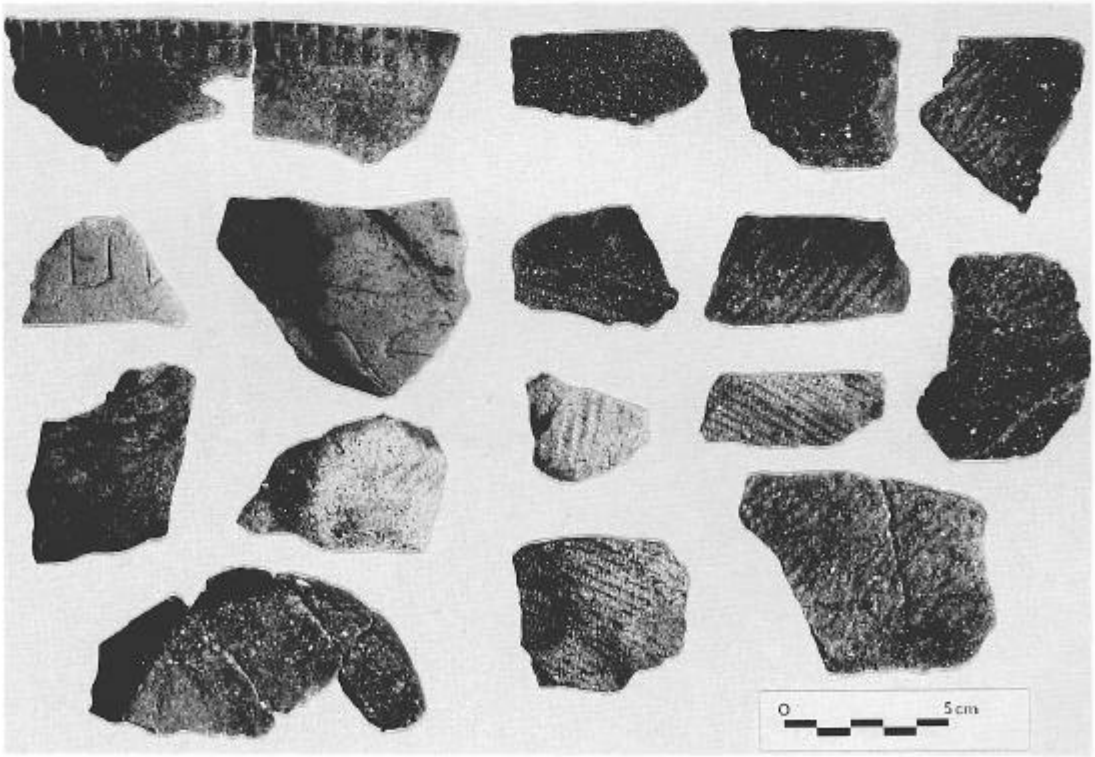
十二林遺跡　低地部分調査状況（南▶北）

十二林遺跡　低地部分遺物出土状況

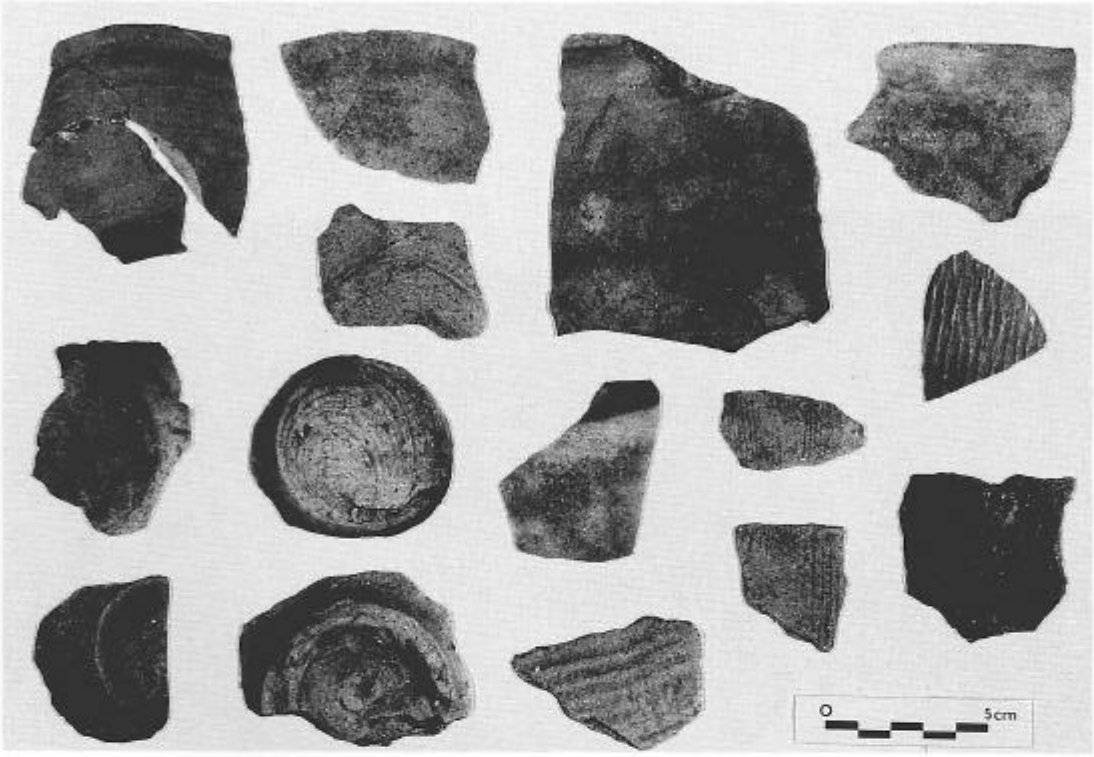
図版36



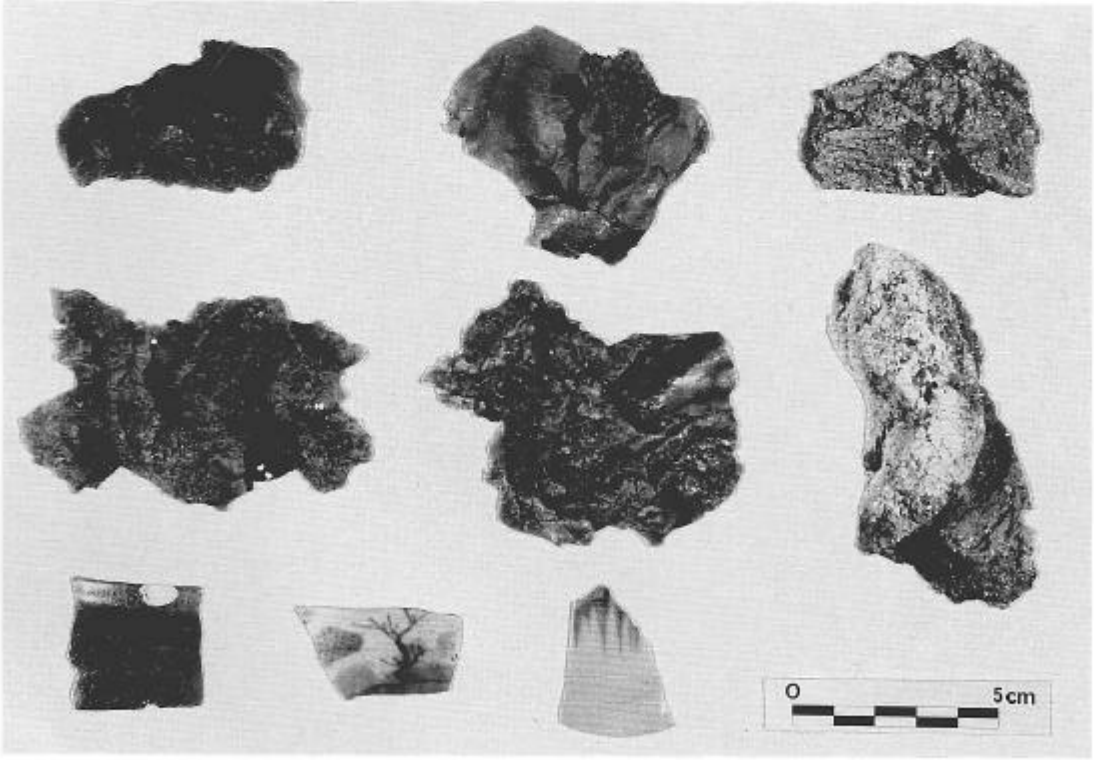
十二林遺跡　低地部分遺物出土状況



十二林遺跡　出土遺物（縄文土器）

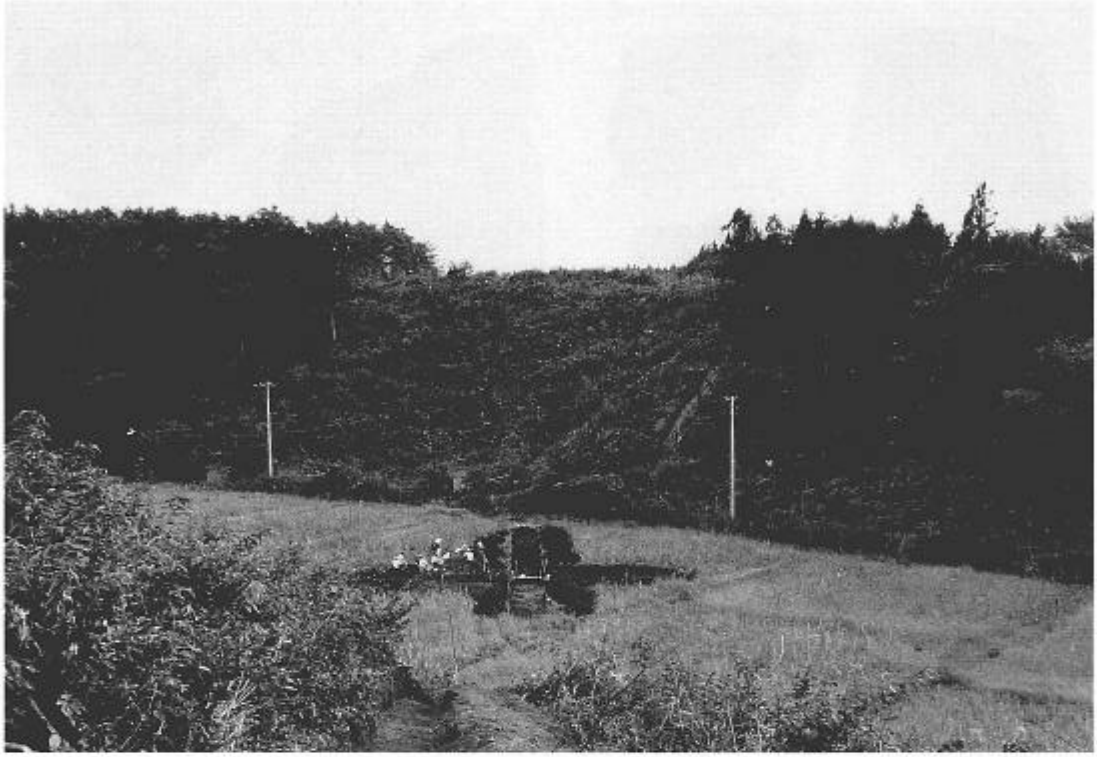


十二林遺跡　出土遺物（土師器・須恵器）



十二林遺跡　出土遺物（鉄滓・フイゴの羽口・陶器）

図版38



石丁遺跡　近景（北▶南）

石丁遺跡　遺構検出状況

図版39

石丁遺跡　遺構検出状況

石丁遺跡　焼土検出状況

7. 東北横断自動車道秋田線建設事業

下田（しもだ）遺跡（No.10）

1. **所在地**　平鹿郡大森町板井田字下田７他
2. **工事区域内遺跡面積**　18,400㎡
3. **調査期間**　昭和61年11月４日～11月17日
4. **範囲確認調査発掘面積**　1,650㎡
5. **調査担当者**　熊谷太郎、谷地　薫、児玉　準
6. **遺跡の立地と現況**

遺跡は西方の出羽山地から連続してのびる標高30ｍ～50ｍの丘陵上にある。この丘陵の北東部及び西部には小さな沢が入り、それらに画されて南西から北東に張り出す２つの馬の背状の台地が形成されており、その台地上及び斜面に遺物・遺構が包蔵されている。北東部の沢は平鹿郡と大曲市の境界で、この沢をはさんだ北側（大曲市側）の丘陵には、下田谷地遺跡がある。

現況は、畑地、りんご及び栗の疎林、かなり密に植林された杉林である。水田に面した丘陵の先端部は宅地及び工場用地造成で削平されている。

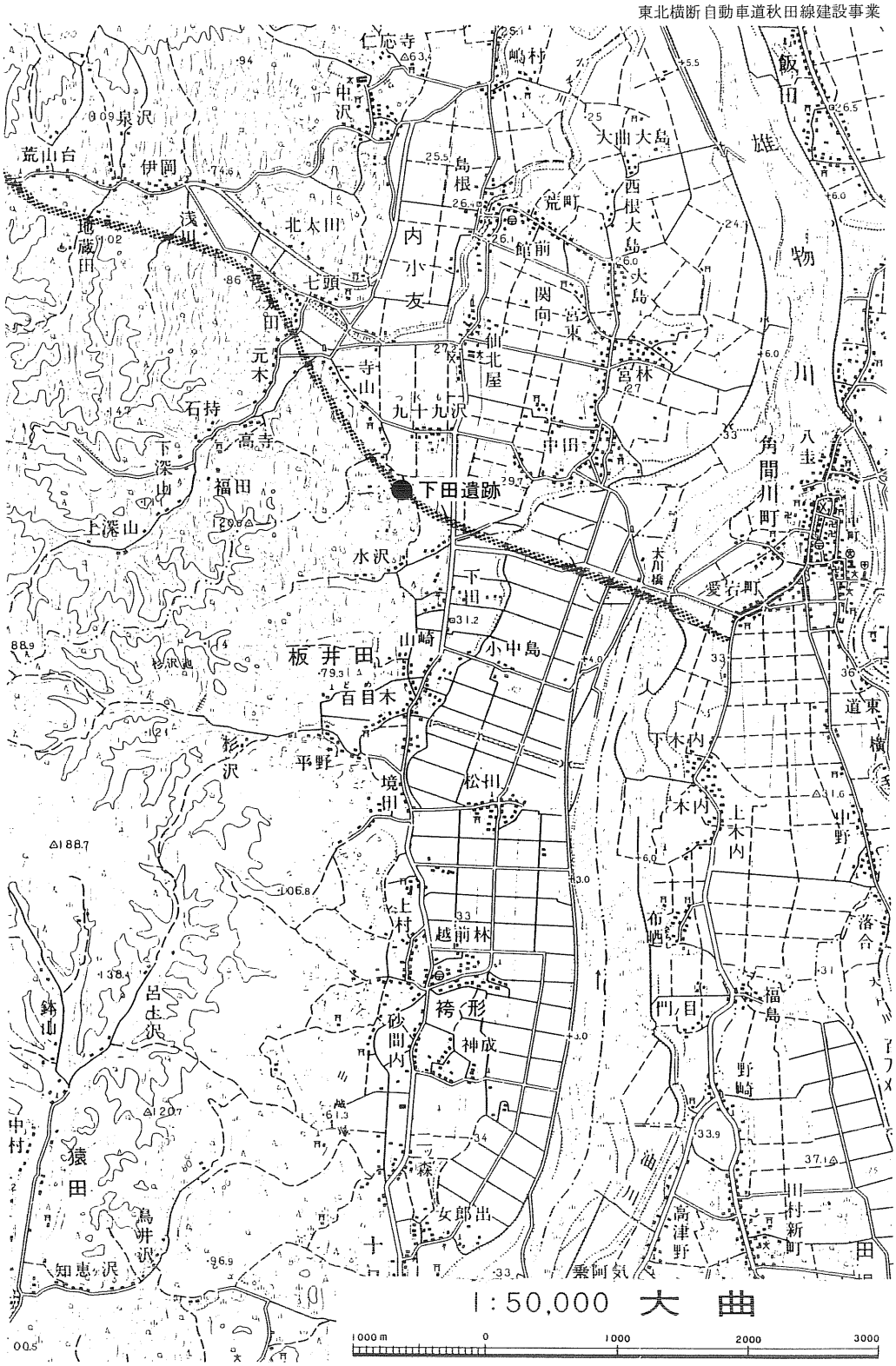
7. **範囲・時代・性格**

計画路線の中心線にほぼ直交するトレンチを10ｍ間隔で計19本設定し試掘を行った。中心杭番号STA200＋80にほぼ直交するトレンチでは、南東に45ｍの地点で土師器を伴う竪穴住居跡が１軒検出された。周囲からは土師器坏・甕の破片が多量に出土した。土師器は、この竪穴住居跡の周辺及び南東側の台地上から出土した。台地上及び斜面では、土師器の他に、縄文土器、石器が出土した。縄文土器は後期～晩期のものである。石器は石槍、石匙、磨製石斧、掻器の他、多くの剥片が出土した。

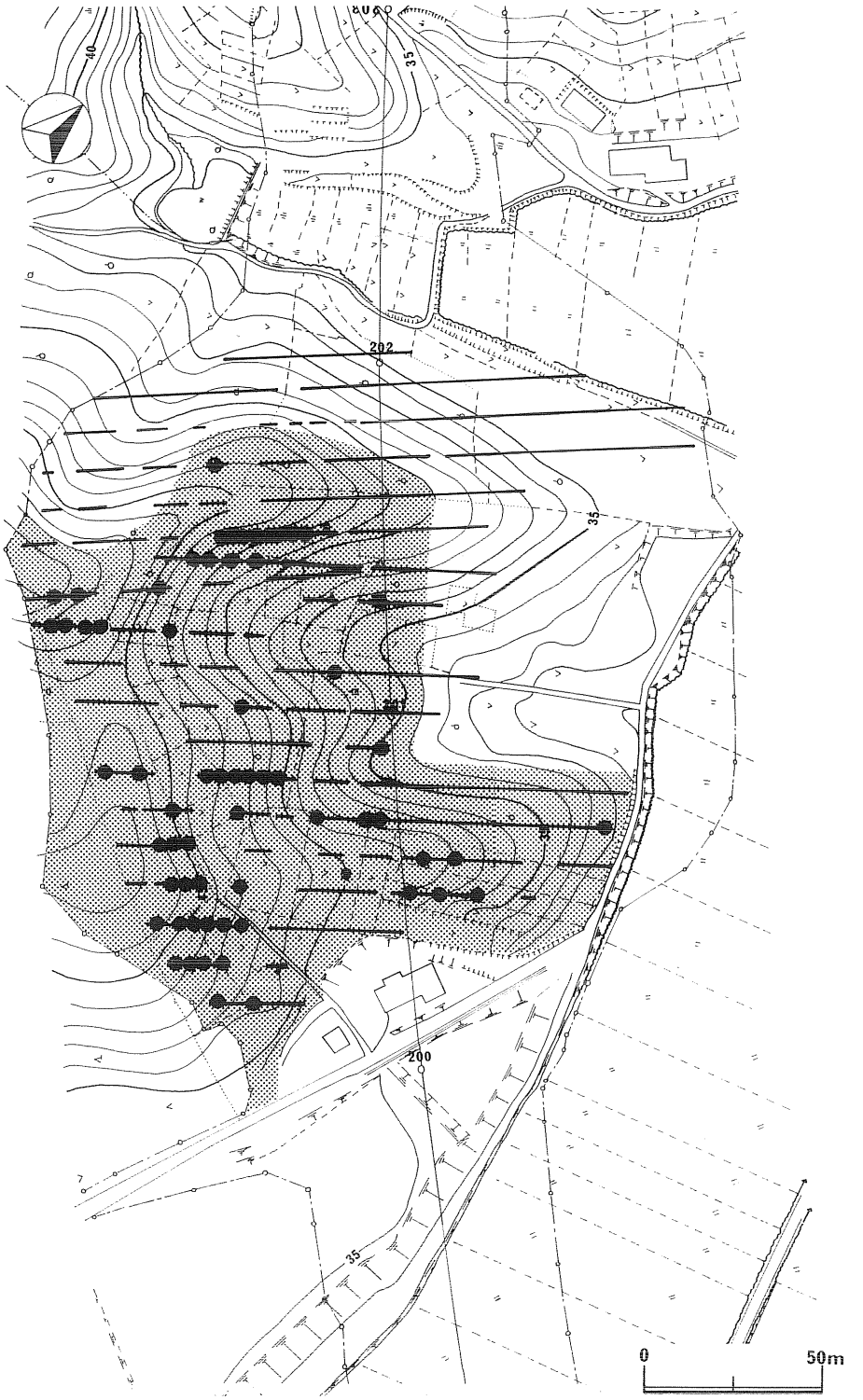
以上の結果から、下田遺跡は縄文時代後期～晩期の遺物散布地及び平安時代集落の複合遺跡であると推察される。縄文時代の遺構は確認できなかったが、土坑等の存在の可能性も考えられる。

8. **土　層**

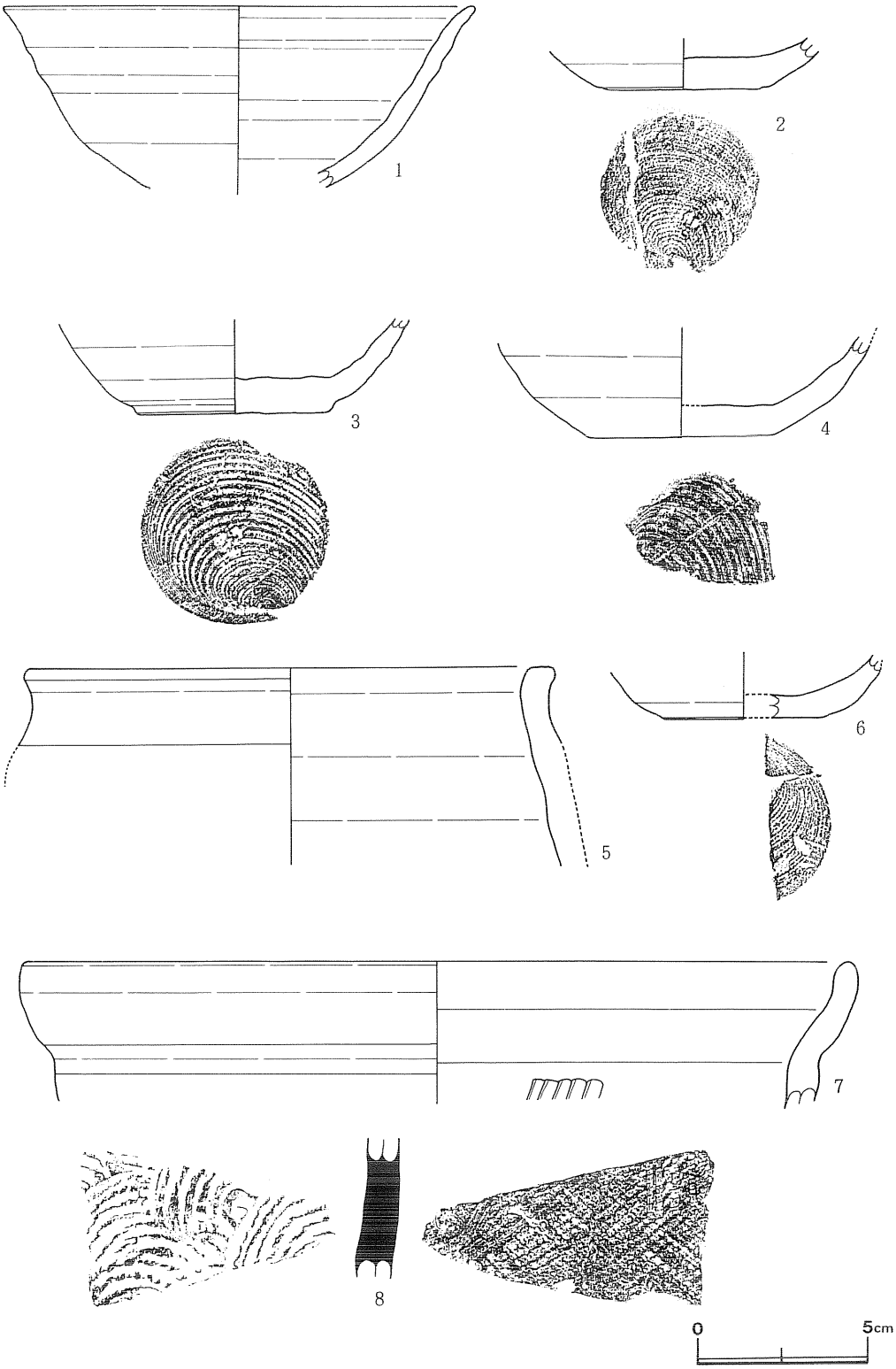
台地上は表土がかなり削平されており、20～30㎝の黒褐色土のみである。斜面の下の方になるにつれてこの黒褐色土は厚くなり、中心杭番号STA201＋00付近では約50㎝、さらに、北東側の沢地形のところでは70～80㎝になる。このような黒褐色土の厚いところでは、部分的にその中にレンズ状にはさまれて、黒色土が堆積しているところもある。



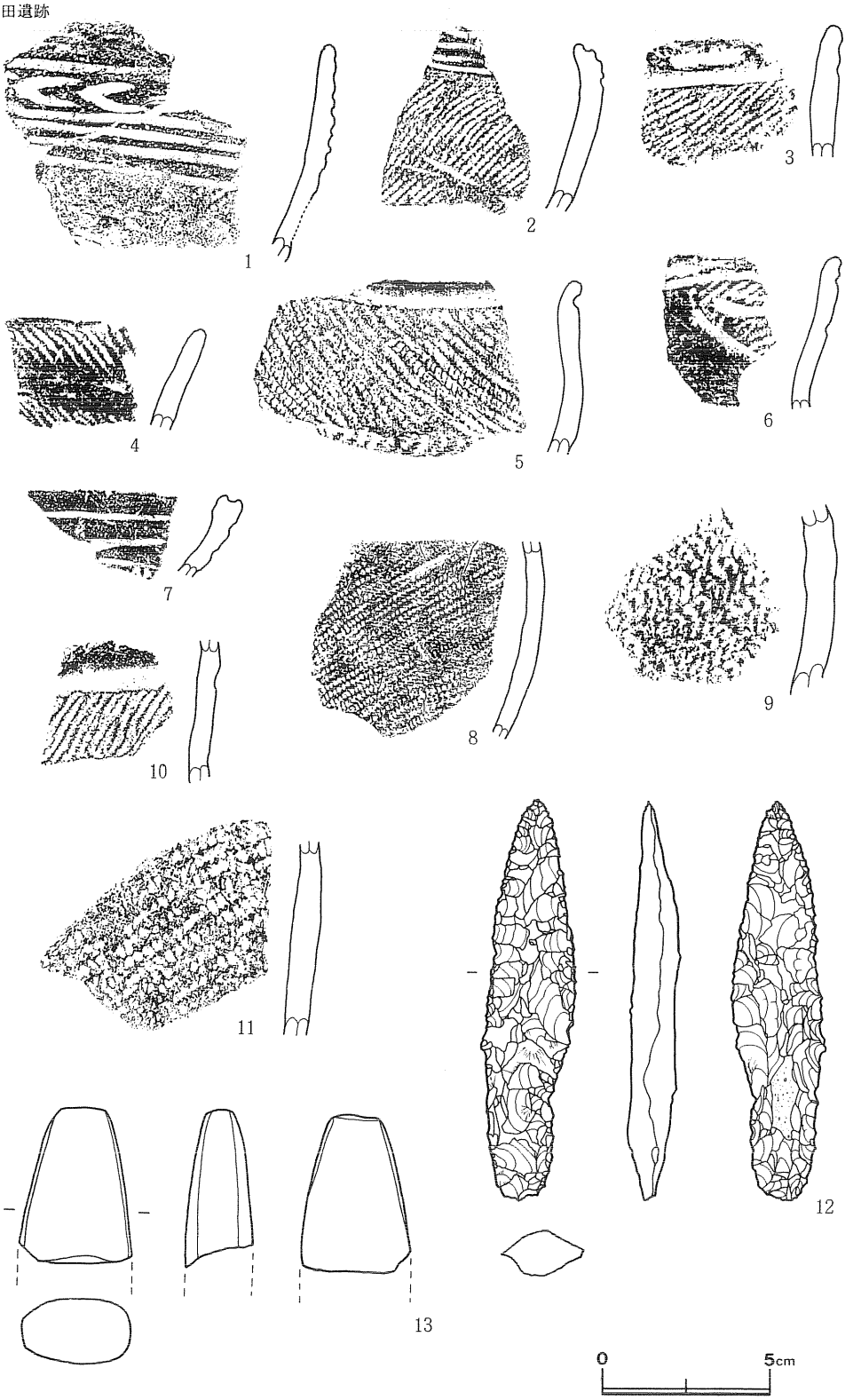
第21図　東北横断自動車道秋田線建設事業内遺跡位置図



第22図　下田遺跡工事区域内遺跡範囲図
（●印遺物または遺構検出地点）

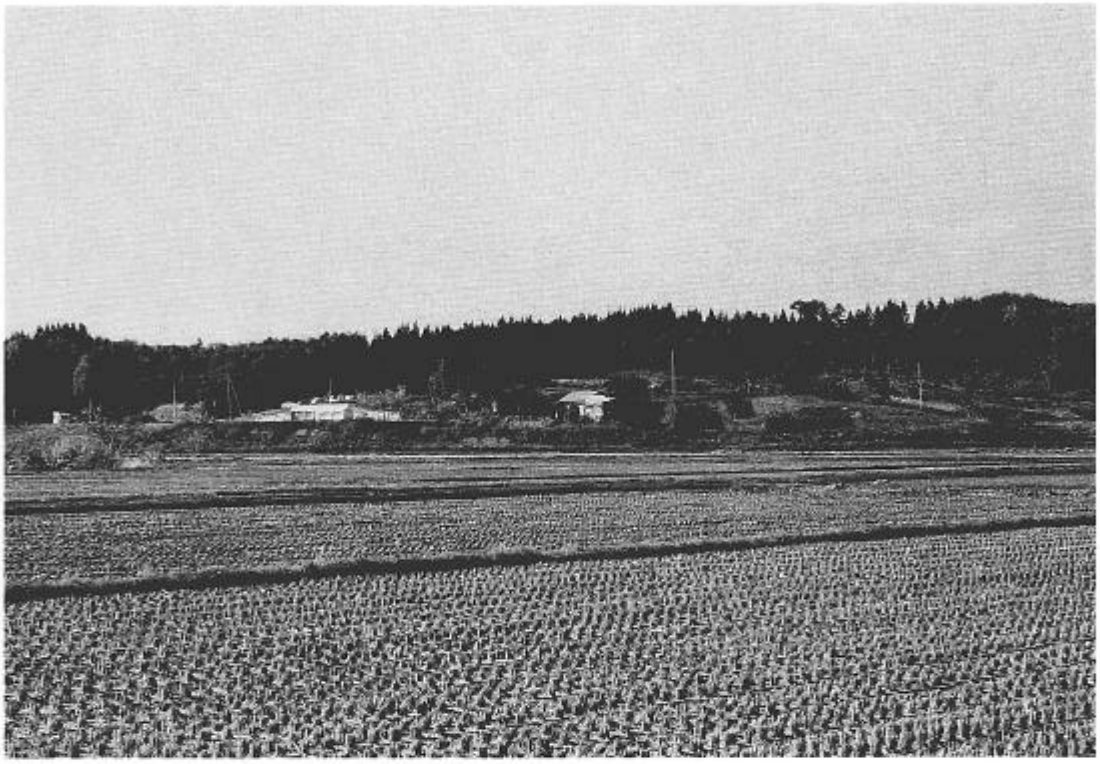


第23図　下田遺跡出土遺物（土師器・須恵器）



第24図　下田遺跡出土遺物（縄文土器・石器）

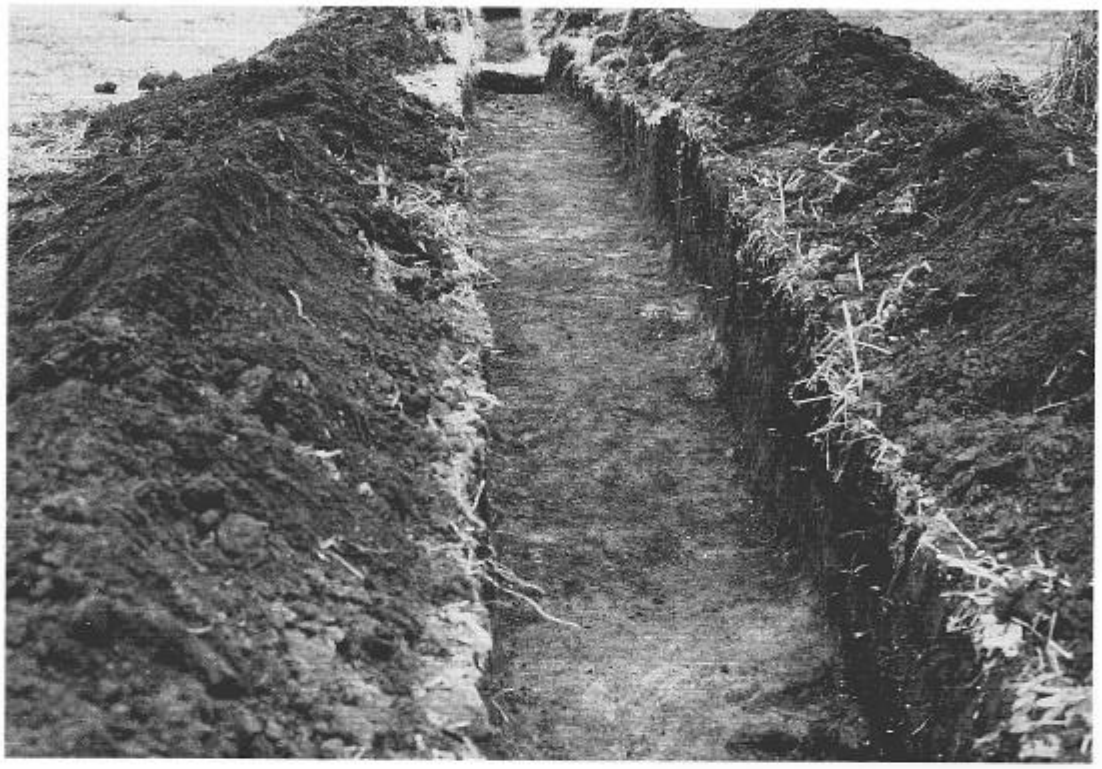
図版40



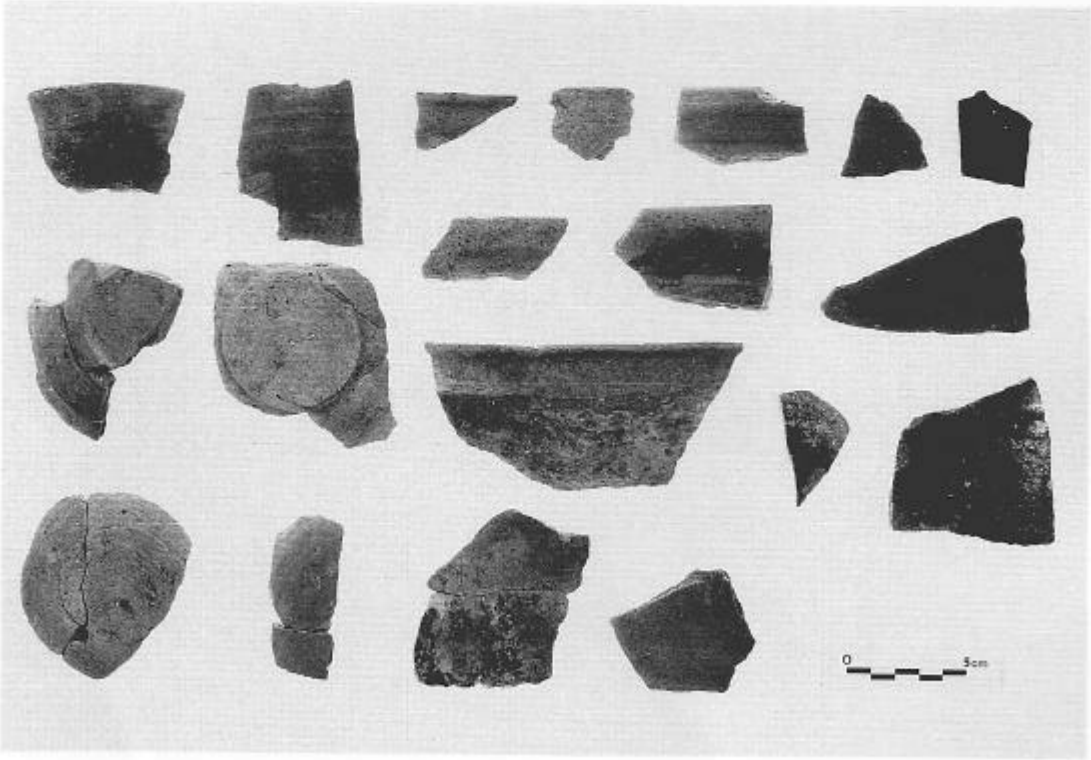
下田遺跡　遠景（南▶北）

下田遺跡　土層

図版41

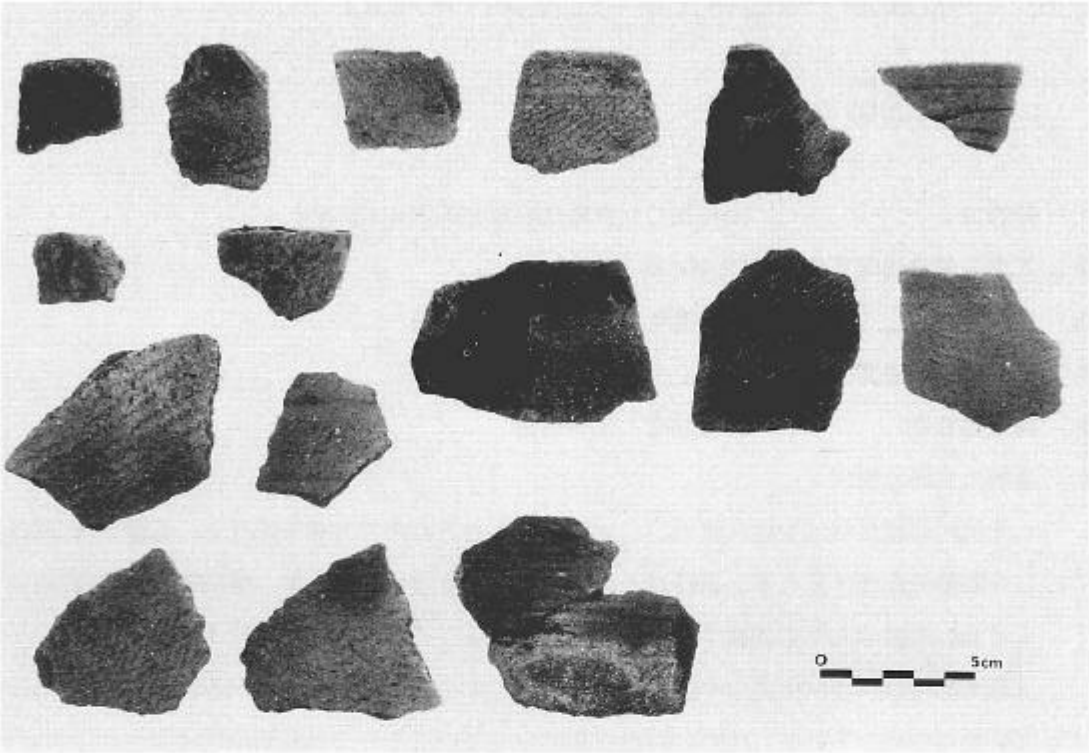


下田遺跡　遺構検出状況

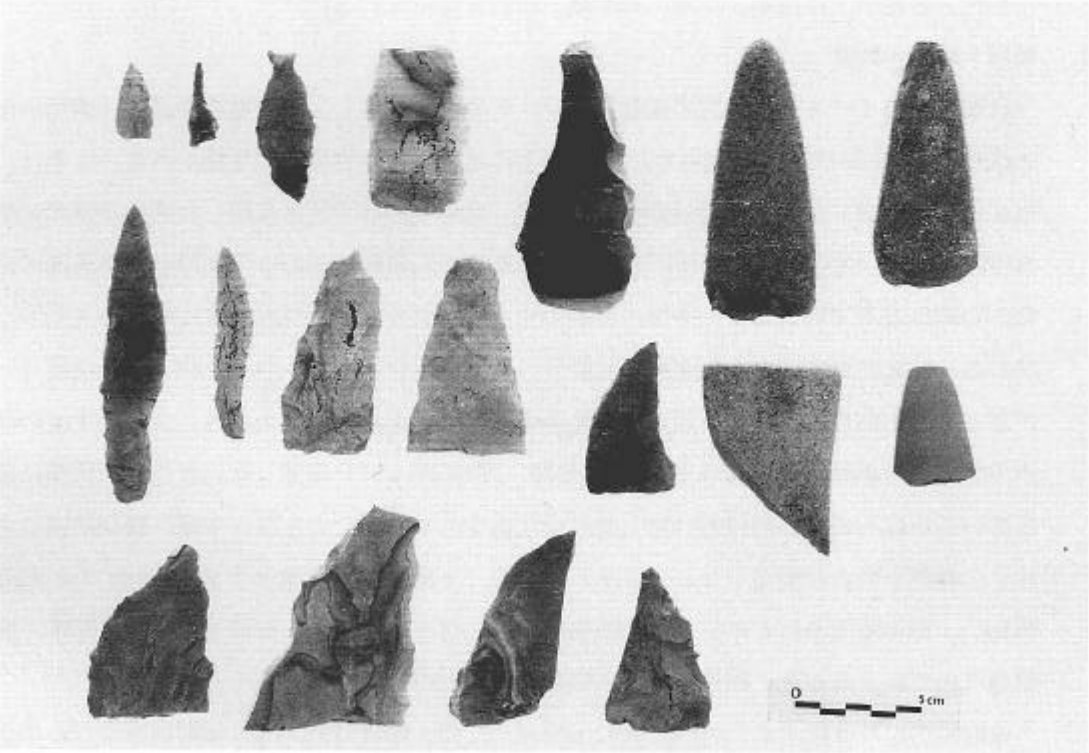


下田遺跡　出土遺物（土師器・須恵器）

図版42



下田遺跡　出土遺物（縄文土器）



下田遺跡　出土遺物（石器）

8.　一般国道７号改築工事（二ツ井バイパス）

竜毛沢館跡（りゅうげさわたてあと）

1. **所在地**　山本郡二ツ井町切石字竜毛沢164番地他
2. **工事区域内遺跡面積**　12,000㎡
3. **調査期間**　昭和61年12月８日～12月13日
4. **範囲確認調査発掘面積**　370㎡
5. **調査担当者**　冨樫泰時、庄内昭男
6. **遺跡の立地と現況**

米代川は鷹巣盆地を西に流れ、二ツ井町に入るところで大きく蛇行し、仁鮒で再び蛇行して流路を北西に変える。遺跡はその北西に流れる米代川の左岸、標高50ｍの河岸段丘上にある。遺跡の北側に国道７号が米代川に沿うように走っている。

竜毛沢館跡は『秋田県の中世城館』によると北に流れる小さい沢（現在は水田）を挟んで東西に存在している。今回の調査対象になったのはそのうち西側の館跡で、その中でも北東端である。

現在、台地の上は畑地、荒地、雑木林、山林となっている。

7. **範囲・時代・性格**

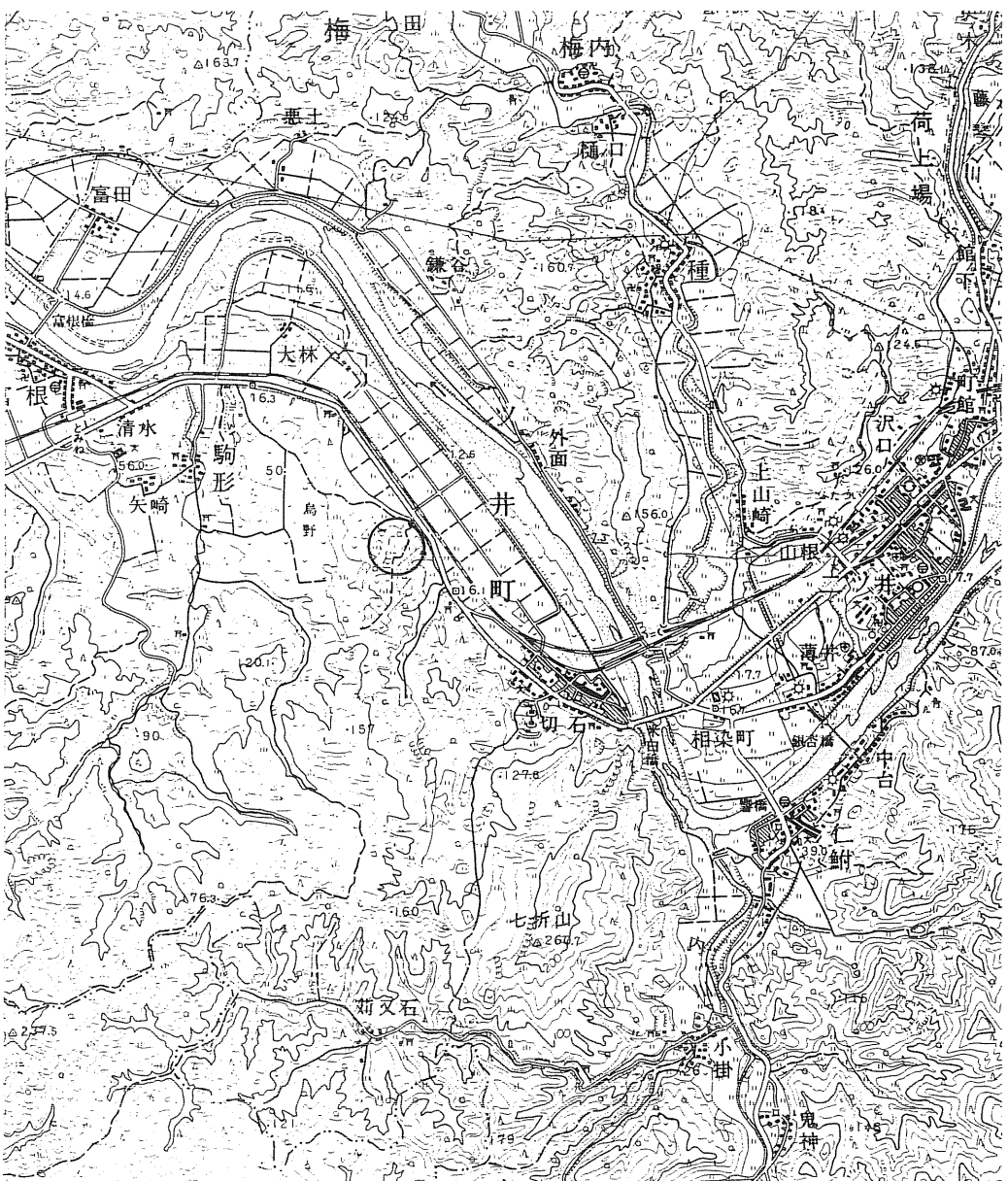
台地上のバイパス予定地内に任意にトレンチを31本設定し、予定地内の遺構・遺物の出土状況、土層等の観察を行った。まず地上には２本の中世城館の空濠がある。１本は、南に舌状に突出した台地を切っているもので、他の１つは予定地に接した西側に南北に走る空濠である。発掘調査の結果、縄文時代中期末から後期初頭のものと思われる遺構・遺物が台地全域で確認された。遺物は台地の北西側から多く出土した。この付近に土器捨て場のある可能性がある。他に遺構として竪穴住居跡と思われるもの、土坑、焼土遺構などがあった。これらの遺構も中期末から後期初頭の頃のものと推測される。また予定地の西側中央部から東側に走る溝（上幅1.5ｍ前後、深さ0.8ｍ）を確認した。どこまで東側に延びているかは不明。出土遺物は縄文時代前期前半の羽状縄文の土器、中期、後期初頭の土器片、時期不明の鉄製品（カスガイ？）がある。土地所有者桜田永太郎氏の話によれば昭和27、28年頃畑地にした時、多くの遺物、焼土などが出土し、その主なものは北側の傾斜地に捨てたとのこと。植林したのは昭和40年頃との由。

遺跡の広がりは図示した範囲（約12,000㎡）で、縄文時代前期、中期、後期初頭、古代、中世と何回かにわたって活用された遺跡であるが、今回の調査の結果から、遺構、遺物は少ない

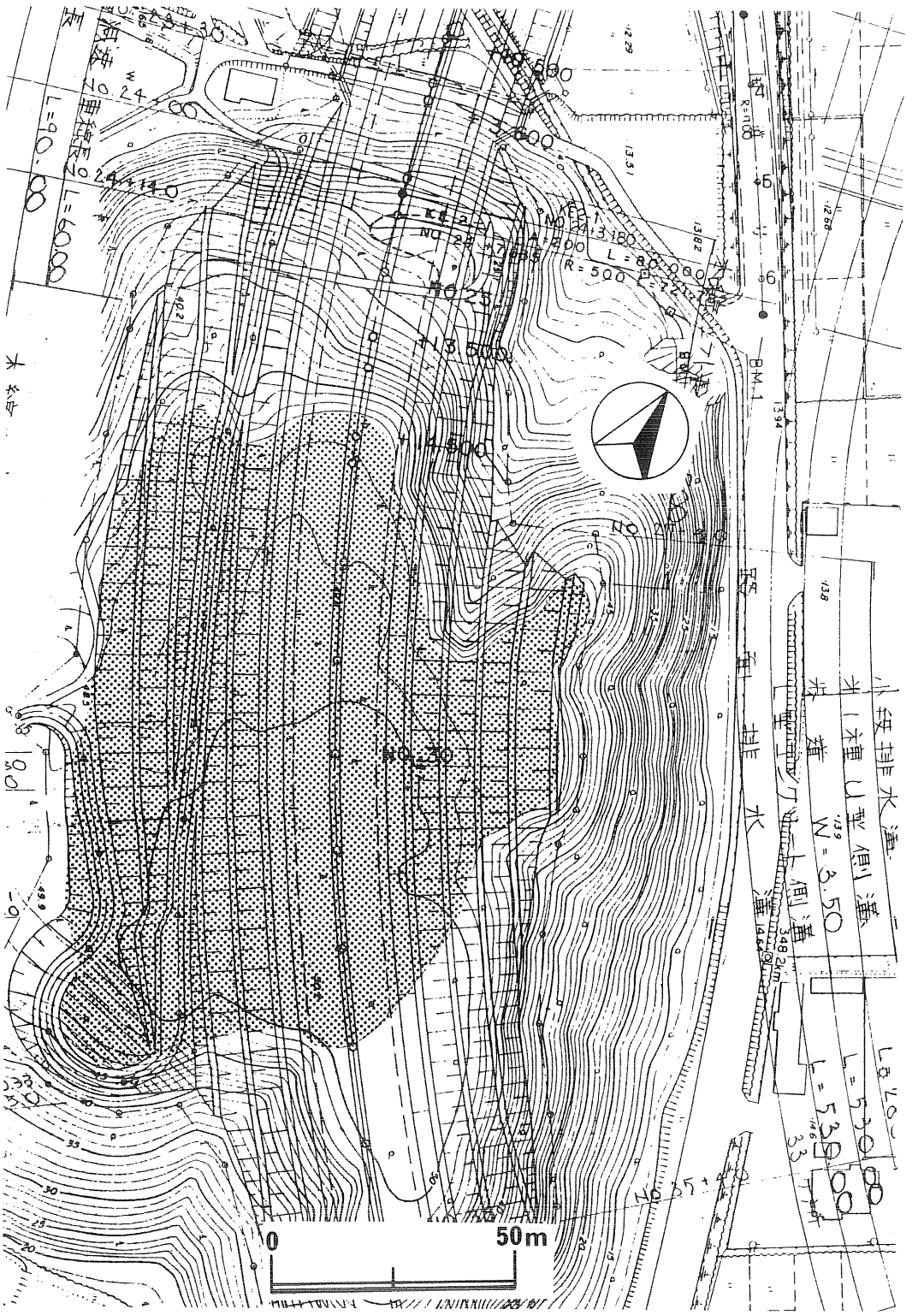
ものと推測される。

8. 土層

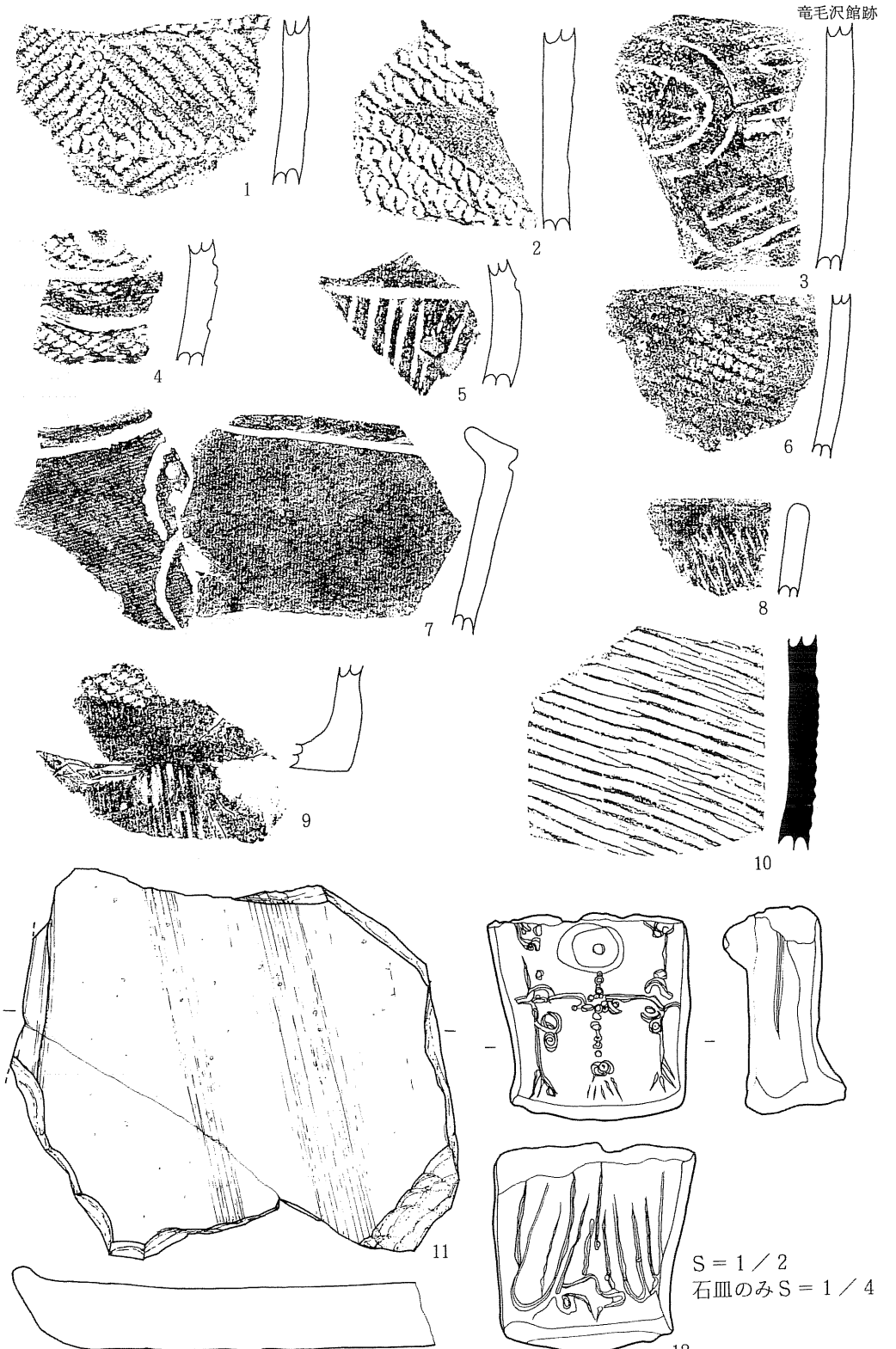
台地上は平坦で、どこも同じような地層であった。すなわち、表土（20cm）、次に褐色土（20cm前後）で、ロームに達する。



第25図　一般国道７号改築工事（二ツ井バイパス）内遺跡位置図



第26図　竜毛沢館跡工事区域内遺跡範囲図



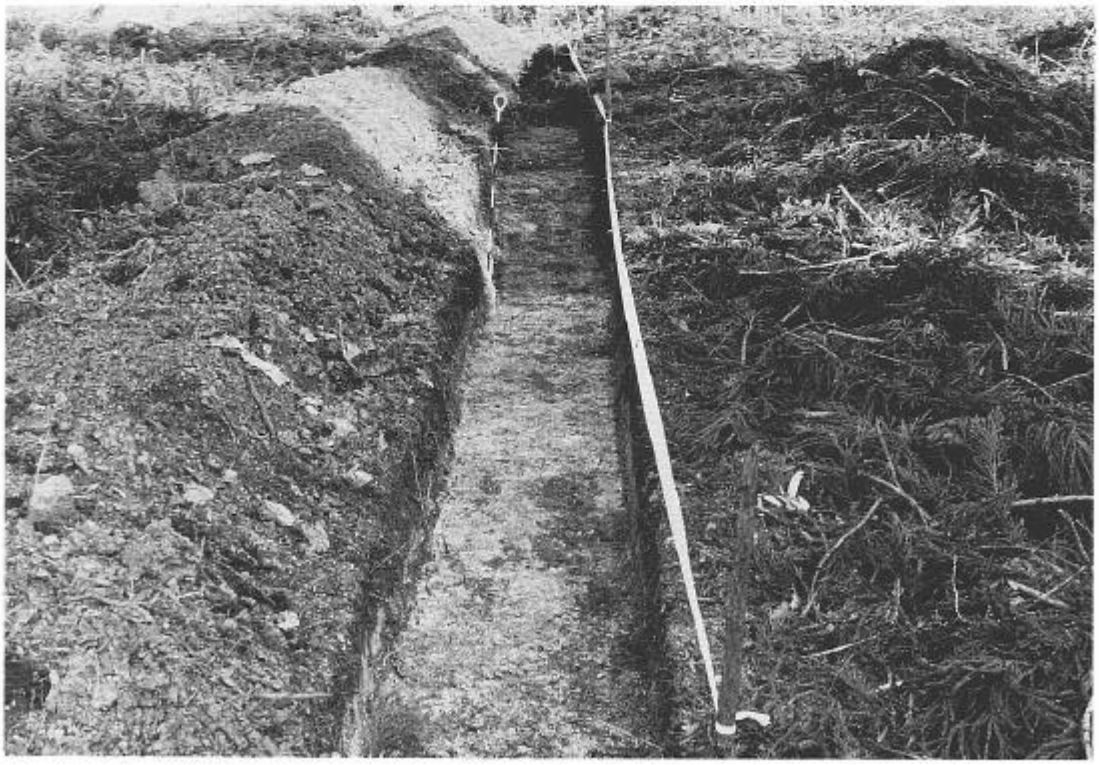
第27図　竜毛沢館跡出土遺物

図版43

竜毛沢館跡　遠景（北西▶南東）

竜毛沢館跡　現況

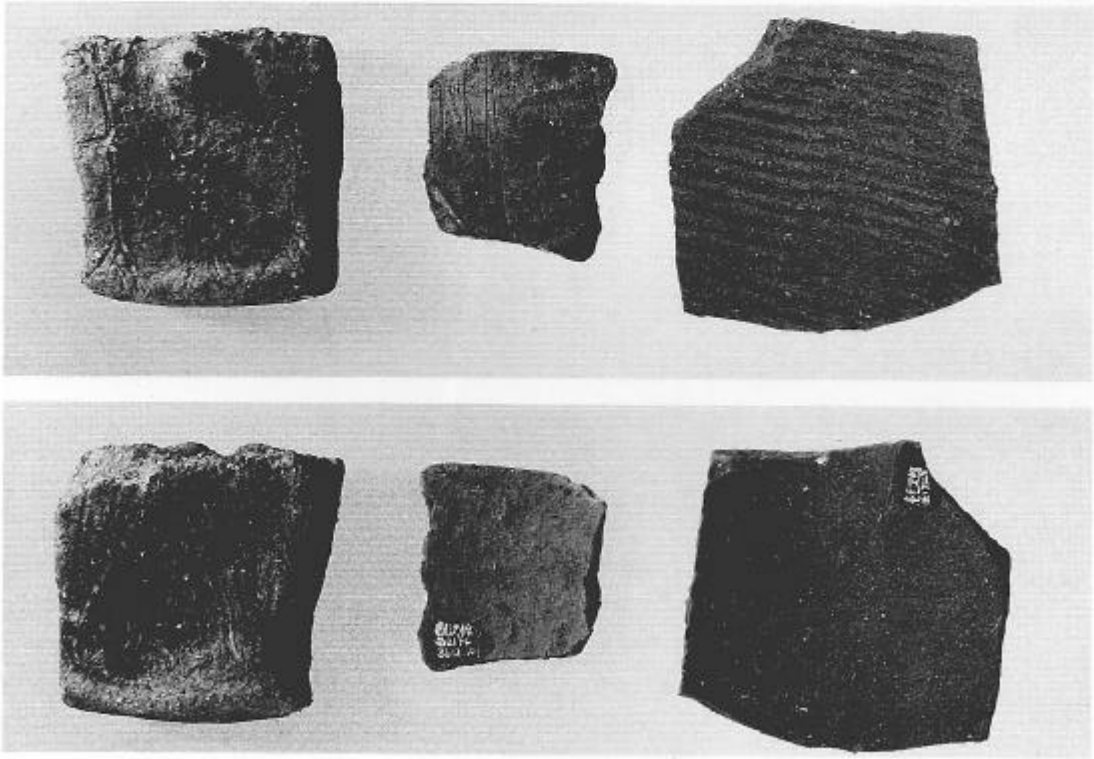
竜毛沢館跡　西18トレンチ



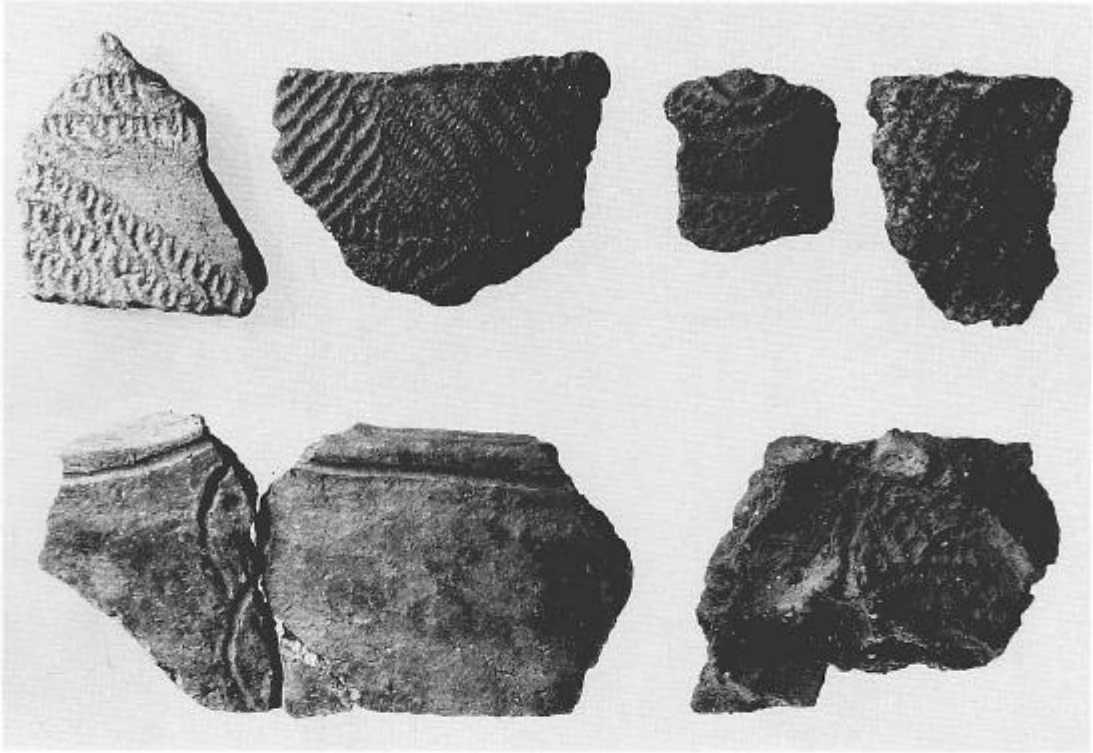
竜毛沢館跡　西11トレンチ

図版45

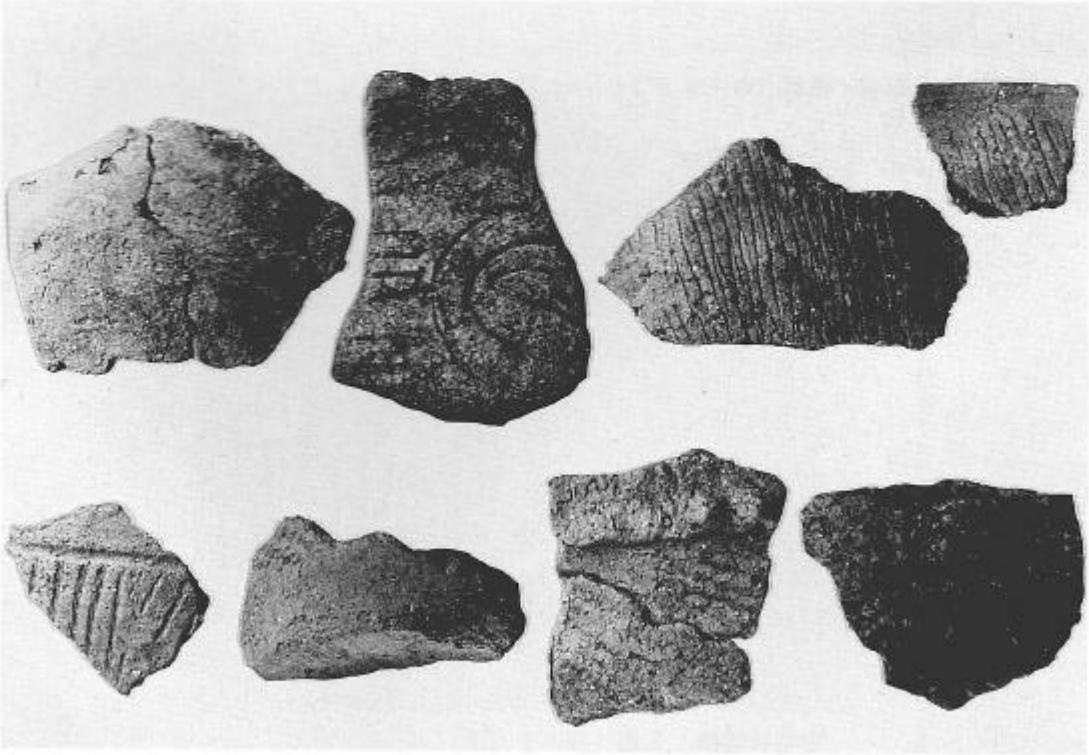
竜毛沢館跡　竪穴



竜毛沢館跡　土偶・土師器・須恵器

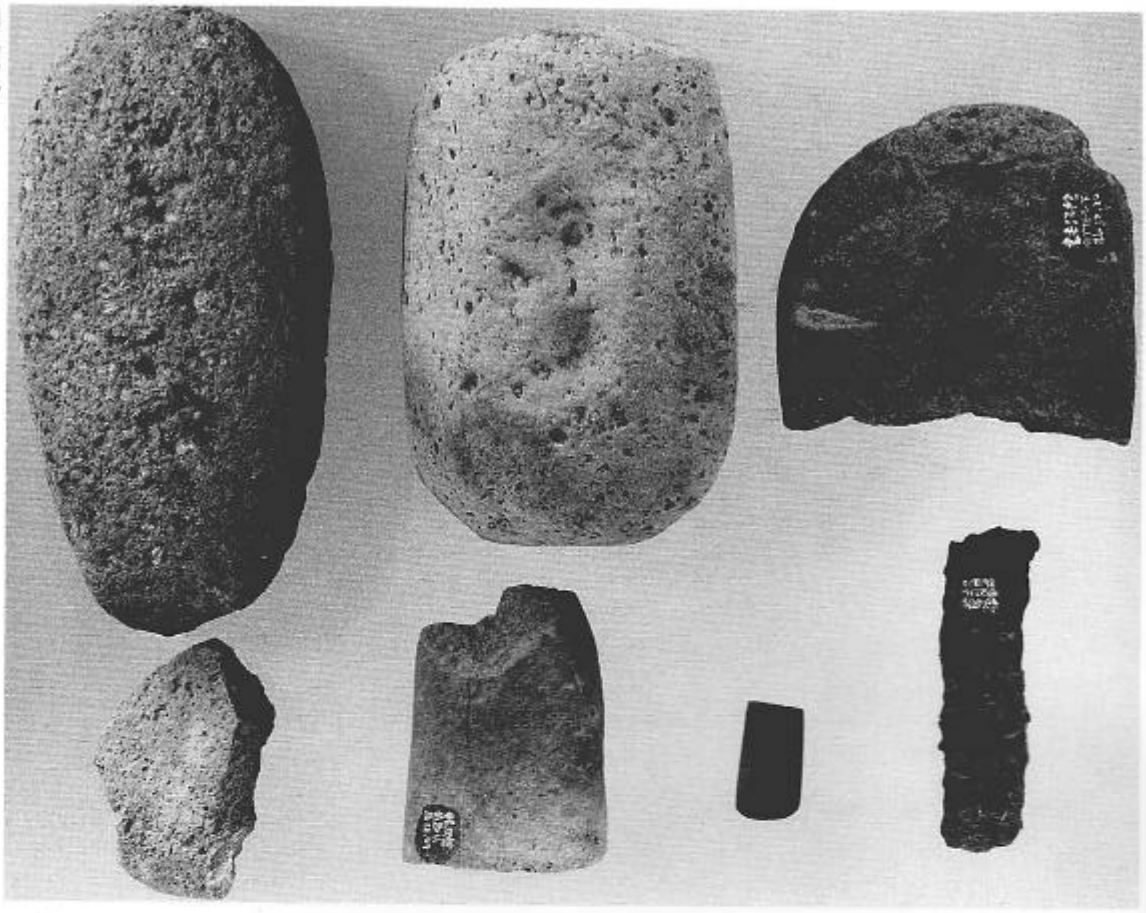


竜毛沢館跡　縄文土器（S＝1／2）

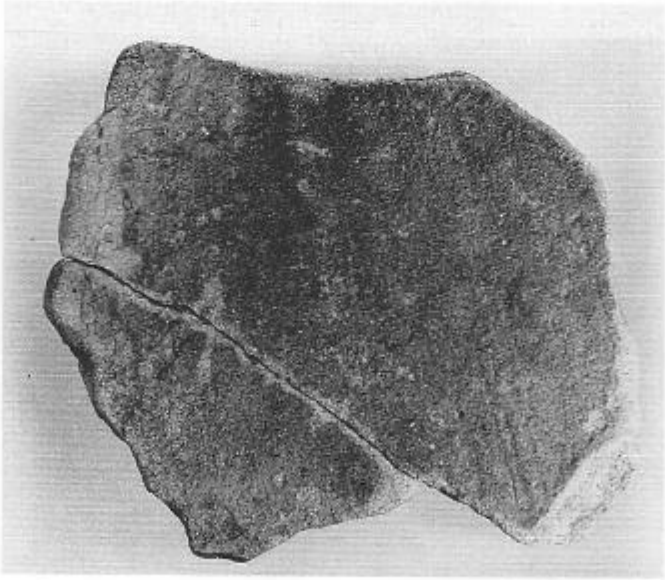


竜毛沢館跡　縄文土器（S＝1／2）

図版47



竜毛沢館跡　石器・鉄器（S＝1／2）



竜毛沢館跡　石皿（S＝1／4）